茨城県教育財団文化財調査報告第343集

藤前遺跡
並松遺跡

一般国道123号桂常北バイパス整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成23年3月

茨城県水戸土木事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第343集

並藤
松前
遺遺
跡跡

財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第343集

藤前遺跡
並松遺跡

一般国道123号桂常北バイパス整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成23年3月

茨城県水戸土木事務所
財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では，均衡ある発展を念頭におきながら，地域の特性を生かした振興を図るために，高規格幹線道路などの県土基盤の整備とともに，広域的な交通ネットワークの整備を進めています。

一般国道123号桂常北バイパス整備事業は，茨城県が城里町内の混雑緩和を図るため，計画されたものです。

しかしながら，この事業予定地内には藤前遺跡と並松遺跡が所在し，記録保存の措置を講ずる必要があるため，当財団が茨城県水戸土木事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け，藤前遺跡は平成22年1月から3月までと平成22年7月から8月までの5か月間，並松遺跡は平成22年1月から3月までの3か月間にわたりこれを実施しました。

本書は，藤前遺跡と並松遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県水戸土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，城里町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成23年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長　稲葉節生

例　　言

1　本書は，茨城県水戸土木事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成21・22年度に発掘調査を実施した茨城県東茨城郡城里町石塚1584番地の3ほかに所在する藤前（ふじまえ）遺跡及び茨城県東茨城郡城里町石塚1629番地ほかに所在する並松（なみまつ）遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

藤前遺跡

調査　平成22年1月4日～3月31日

平成22年7月1日～8月31日

整理　平成22年11月1日～平成23年3月31日

並松遺跡

調査　平成22年1月4日～3月31日

整理　平成22年11月1日～平成23年3月31日

3　発掘調査は，調査課長池田晃一のもと，以下の者が担当した。

平成21年度

首席調査員兼班長	白田正子
主任調査員	小野政美
調　査　員	前島直人

平成22年度

首席調査員兼班長	皆川　修
主任調査員	櫻井完介
調　査　員	鹿島直樹

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長樫村宣行のもと，調査員前島直人が担当した。

凡　　例

1　両遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋54120ｍ，Y＝＋49000ｍの交点を基準点（Ａ１a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40ｍ四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，４ｍ四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ…，西から東へ１，２，３…とし，「Ａ１区」「Ｂ２区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「Ａ１a1区」「Ｂ２b2区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　SA－構列跡　SB－掘立柱建物跡　SD－溝跡　SI－竪穴住居跡　SK－土坑　SX－不明遺構
P－ピット　PG－ピット群

遺物　DP－土製品　TP－拓本記録土器　Q－石器・石製品　M－金属製品　N－馬歯

土層　K－撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は800分の１，各遺構の実測図は原則として60分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土　火床面・漆　竈部材・黒色処理　柱痕・油煙・煤

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　－・－・－・・　硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各総量で記載した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記については，次のとおりである。

(1) 現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。計測値の単位はｍ，cm，ｇで示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

6　竪穴住居跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
藤前遺跡・並松遺跡の概要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 5
　第１節　調査に至る経緯 …… 5
　第２節　調査経過 …… 6
第２章　位置と環境 …… 7
　第１節　地理的環境 …… 7
　第２節　歴史的環境 …… 7
第３章　藤前遺跡 …… 12
　第１節　調査の概要 …… 12
　第２節　基本層序 …… 12
　第３節　遺構と遺物 …… 13
　　１　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 13
　　(1) 竪穴住居跡 …… 13
　　(2) 掘立柱建物跡 …… 104
　　(3) 土坑 …… 116
　　(4) 不明遺構 …… 119
　　２　中世の遺構と遺物 …… 119
　　溝跡 …… 119
　　３　その他の遺構と遺物 …… 121
　　(1) 土坑 …… 121
　　(2) 溝跡 …… 124
　　(3) 柵列跡 …… 125
　　(4) ピット群 …… 125
　　(5) 遺構外出土遺物 …… 127
　第４節　まとめ …… 129
第４章　並松遺跡 …… 135
　第１節　調査の概要 …… 135
　第２節　遺構と遺物 …… 135
　　１　平安時代の遺構と遺物 …… 135
　　竪穴住居跡 …… 135
　　２　中世の遺構と遺物 …… 141
　　堀跡 …… 141
　　３　その他の遺構と遺物 …… 143
　　(1) 土坑 …… 143
　　(2) 溝跡 …… 144
　　(3) 遺構外出土遺物 …… 144
　第３節　まとめ …… 145
写真図版　PL1 ～ 36
抄　録

藤前遺跡（ふじまえ）・並松（なみまつ）遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

藤前遺跡と並松遺跡は，城里町の東部に位置し，那珂川右岸の標高 46 mの台地上に近接して立地しています。今回の調査は，一般国道 123 号桂常北バイパスの道路整備事業に先だって行いました。道路予定地内に両遺跡があることから，遺跡の内容を図や写真に記録するために，茨城県教育財団が発掘調査を実施しました。

北側上空から見た藤前遺跡（手前）と並松遺跡（奥）

調査の内容

藤前遺跡は平成 21・22 年度の２回にわたり 6,864㎡の面積を，並松遺跡は平成 21 年度に 1,435㎡を調査しました。その結果，藤前遺跡では竪穴住居跡 43 軒，掘立柱建物跡 10 棟，土坑 27 基，溝跡６条，柵列跡１か所，ピット群４か所，不明遺構１か所を，並松遺跡では竪穴住居跡４軒，堀跡１条，土坑３基，溝跡２条を確認しました。主な出土遺物としては，藤前遺跡からは土師器（坏・高台付坏・鉢・甕・甑），須恵器（坏・高台付坏・皿・蓋・盤・甕・壺・瓶），土

製品（管状土錘・羽口），石器・石製品（鏃・掻器・紡錘車），金属製品（刀子・斧・鎌・釘・閂ヵ・鍵ヵ・鉈・鉸具），並松遺跡からは土師器（坏・高台付坏・鉢・甕），須恵器（坏・高台付坏・甕・壺・瓶），土師質土器（皿・鍋・火鉢），陶磁器（皿・碗・擂鉢），石器（砥石），金属製品（鍬先），馬歯などが出土しました。

第13号住居跡　　第16号住居跡

確認した43軒の竪穴住居跡のなかで9世紀中葉の第13号住居跡，9世紀前葉の第16号住居跡は南壁の中央部の出入り口部に半円状の張り出し施設をもつ特殊なものです。

第17号住居跡遺物出土状況

8世紀後葉の第17号住居跡からは，須恵器の短頸壺や坏，高台付坏といった食器類が多数出土しました。

第18A・B号住居跡掘方完掘状況

掘方調査を行った結果，住居を拡張している痕が確認できました。当初は内側の赤線の規模であったものを外側の赤線の大きさまで掘り広げています。家族が増えたのでしょうか。

第6号掘立柱建物跡

藤前遺跡で確認した掘立柱建物跡は10棟で奈良・平安時代のものです。これらはL字状に配置されています。もしかすると遺跡のすぐ近くに蔵前・蔵脇といった字名が残っていることから，倉庫として利用されていた可能性も考えられます。

藤前遺跡と石塚城跡

第１号溝跡完掘状況

第３号溝跡完掘状況

手前側が藤前遺跡で，奥の丸印が付いているところが中世の石塚城の本丸（Ⅰ郭）があった場所です。並松遺跡からは，幅約４m，深さ 1.8 mの箱薬研堀を確認しており，石塚城の外堀の可能性があります。また，藤前遺跡から同様の形状であることから同時期と考えられる溝跡を２条確認しました。

並松遺跡　第１号堀跡想定図

第１号堀跡は，地元の方の話によると「昔は赤の点線上に延びており，道路の辺りで直角に曲がって東側に延びていた」ということです。

第２号住居跡

並松遺跡の住居跡はいずれも小規模で，竈が北側の壁に付設されています。

南西方向から見た並松遺跡

調査の成果

今回の調査で確認できた集落は，藤前・並松の両遺跡とも奈良・平安時代のものであることが分かりました。藤前遺跡と並松遺跡は近接しており，同じ時期の住居跡が確認できたことから１つの大きな集落であったと考えられます。また，並松遺跡で確認できた堀跡は，中世石塚氏の居城であった石塚城の外堀跡と考えられ，現存する内堀跡とともに城館跡の縄張りを考える上で大変貴重な資料になるものです。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

藤前遺跡・並松遺跡（平成21年度調査分）

平成19年6月28日，茨城県水戸土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，一般国道123号桂常北バイパス整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は平成19年8月7日に現地踏査を，平成19年9月13・14日に藤前遺跡・並松遺跡の試掘調査を実施し遺跡の所在を確認した。

平成19年10月22日，茨城県教育委員会教育長は茨城県水戸土木事務所長あてに，事業地内に藤前遺跡と並松遺跡が所在すること，及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成20年2月9日，茨城県水戸土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第94条の規定に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成20年2月27日，茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，茨城県知事あてに工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成21年3月16日，茨城県水戸土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，一般国道123号桂常北バイパス整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成21年3月26日，茨城県教育委員会教育長は茨城県水戸土木事務所長あてに，藤前遺跡と並松遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，あわせて調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県水戸土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，藤前遺跡及び並松遺跡は，平成22年1月4日から3月31日まで発掘調査を実施した。

藤前遺跡（平成22年度調査分）

茨城県教育委員会は，平成22年1月29日に藤前遺跡の試掘調査を実施し遺跡が広がっていることを確認した。

平成22年2月26日，茨城県教育委員会教育長は茨城県水戸土木事務所長あてに，事業地内に遺跡が所在すること，及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成20年2月9日，茨城県水戸土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第94条の規定に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成20年2月27日，茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，茨城県知事あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

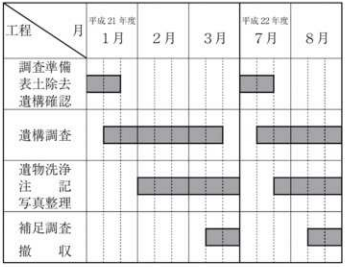
平成21年3月16日，茨城県水戸土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，一般国道123号桂常北バイパス整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成22年3月1日，茨城県教育委員会教育長は，水戸土木事務所長あてに，藤前遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，あわせて調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県水戸土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，藤前遺跡の発掘調査を，平成22年7月1日から8月31日まで実施した。

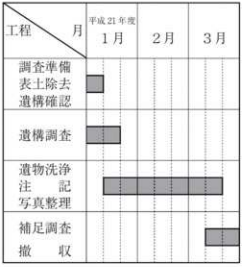
第2節　調 査 経 過

藤前遺跡は，平成22年1月4日から3月31日までと平成22年7月1日から8月31日まで，並松遺跡は平成22年1月4日から3月31日まで発掘調査を実施した。その概要を表で記載する。

(1) 藤前遺跡



(2) 並松遺跡



第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

藤前遺跡は茨城県東茨城郡城里町（旧常北町）石塚1584番地の3ほかに，並松遺跡は茨城県東茨城郡城里町石塚1629番地ほかに所在している。城里町は平成17年2月1日に常北町，七会村，桂村の3町村の合併によってできた町で，県のほぼ中央部に位置している。

町域の地形は，西部が鷲足山地で，東部へ向かって緩斜面の丘陵性山地が広がっている。この山地の東部は，河岸段丘や台地となっており，台地部分は那珂川と西田川に挟まれた那珂西台地，西田川と藤井川に挟まれた十万原台地，藤井川と前沢川に挟まれた上入野台地に細分されている。これらの台地は第3紀層を基盤とし，その上部には第4紀洪積層である礫層，粘土層，鹿沼軽石層，関東ローム層が堆積しており[1]，関東ローム層の上には今市・七本桜軽石の堆積が確認できる。台地周辺には河川の浸食によって形成された沖積地が樹枝状に広がっており，藤井川，西田川などの小河川が那珂川へ注いでいる。

両遺跡は那珂西台地の北部，那珂川右岸の東西に広がる標高46mの台地端部に位置している。両遺跡間は平坦地で続いており，距離が約160mと近接している。調査前の現状は，畑地と林である。

第2節　歴史的環境

これまでに周辺の台地上では，分布調査や発掘調査によって多くの遺跡が確認されている。特に那珂川と西田川に面した那珂西台地上には，数多くの遺跡が存在している。ここでは，藤前遺跡〈①〉，並松遺跡〈②〉と関連する遺跡を中心に記述する。

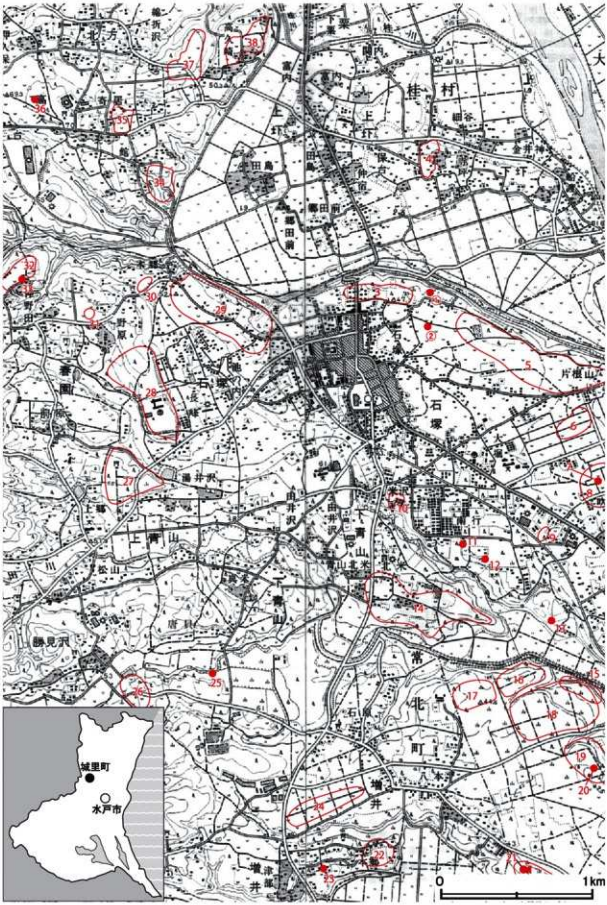
旧石器時代では，藤井川と前沢川に挟まれた舌状台地上の東端部に立地する上入野遺跡で3基の土坑が確認され，うち最も古い第16号土坑は約32,000年前という年代が与えられている[2]。十万原遺跡[3]は藤井川と西田川に挟まれた舌状台地の東端部に立地し，石器集中地点と集石土坑が確認され，スクレイパーや台石などが出土している。

縄文時代になると，二の沢A遺跡や二の沢B遺跡〈18〉では，早期末から前期初頭の竪穴住居跡が[4]，十万原遺跡では早・中・後期の竪穴住居跡が確認されている。また，藤井川と前沢川に挟まれた舌状台地上に位置する後傍遺跡では，中期の竪穴住居跡などが確認されている[5]。この他，中妻遺跡，片根山遺跡（旧片山遺跡）〈5〉などで遺物の散布がみられる[6]。

弥生時代の遺跡としては，二の沢A遺跡や二の沢B遺跡，ニガサワ古墳群[7]〈20〉，十万原遺跡，上入野遺跡が確認されており，舌状台地の縁辺部に立地している。

当台地上では，古墳時代前期になると遺跡数が増加している。二の沢A遺跡，ニガサワ遺跡[8]〈19〉，上入野遺跡など前期の集落跡からはS字甕が出土しており，東海地方との関わりがうかがえる。また，中期の十万原遺跡では鍛冶工房跡が確認されており，鉄滓や鍛造剥片，羽口，砥石等が出土している。

ニガサワ古墳群では，6世紀後半から7世紀前半にかけての古墳5基が確認されている。第2号墳は全長31mの前方後円墳で，主体部は横穴式木室である。轡や直刀，鉄鏃などが出土しており，6世紀第4四半期と考えられている。その他，山ノ上古墳群や十万原古墳群〈21〉，清水台古墳群，増井古墳〈23〉などが藤井



第1図　藤前遺跡・並松遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の1「石塚」「徳蔵」）

表1　藤前遺跡・並松遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	藤前遺跡					○	○	
②	並松遺跡					○	○	
3	石塚城跡						○	
4	下坏館跡						○	
5	片根山遺跡		○	○		○		
6	荒神遺跡					○		
7	吹上古墓					○		
8	吹上遺跡					○		
9	西大堀遺跡					○		
10	南行A遺跡					○		
11	南行B遺跡					○		
12	南行C遺跡					○		
13	作内館跡						○	
14	北米遺跡					○		
15	二ノ沢古墳群		○	○	○	○		
16	ドウゼンクボ遺跡	○	○	○	○	○		
17	ポンポン遺跡		○	○	○	○		
18	二の沢A・B遺跡		○	○	○	○		
19	ニガサワ遺跡		○	○	○	○		
20	ニガサワ古墳群			○	○			
21	十万原古墳群				○			
22	増井本郷遺跡		○	○	○	○		
23	増井古墳				○			
24	中道遺跡		○					
25	向原遺跡	○						
26	鹿ノ畑遺跡					○	○	
27	上青山古墳群				○			
28	春園古墳群				○			
29	風隼前遺跡				○			
30	堂ノ前遺跡				○			
31	栗栖内遺跡				○			
32	稲荷後遺跡		○		○			
33	八幡館跡						○	
34	高久館跡					○		
35	屋比合遺跡				○	○	○	
36	休塚					○		
37	中村，矢倉遺跡				○	○		
38	高久崎古墳群				○			

川と西田川に挟まれた十万原台地上の縁辺部に存在している[9]。

古代の当地域は，那賀郡入野郷に比定されている。平安時代になると，二の沢A・B遺跡，ニガサワ遺跡などに集落が再び形成され，遺跡数も増加している。二の沢B遺跡では他郷名の刻書が施された石製紡錘車が出土している。また，前側遺跡では9世紀代の庇をもつ掘立柱建物跡の存在が確認されている[10]。

中世の当地域では，常陸大掾氏や那珂氏，佐竹氏などが抗争を繰り広げており，一族や家臣の城館が築かれていた。青木遺跡では堀跡が検出され，13世紀から14世紀頃の城館の存在が明らかになった[11]。那珂西城は本城・中城・兵庫坪から構成されていたとされ，現在は南西部に土塁と堀が残っている。城主は大中臣姓の那珂時久，または秀郷流藤原姓の那珂通辰とする説があるが不明な点が多い。1696（元禄9）年に廃城となった。石塚城〈3〉は，室町時代に活躍した佐竹義篤の子石塚宗義の居城といわれる。堀跡の状況からは7つの郭からなっていたと推測できる。なお，当遺跡からは石塚城に関わる堀や溝も確認されている。中世の石塚には，城郭外の南部の佐久山に浄瑠璃光寺，西部に雲生寺，現在の多源寺の場所に1509（永正6）年開山という曹洞宗太（泰）寧寺，その隣には城の鎮護として崇敬された風牟神社が配置され，城館守護の機能をはたしていた[12]。その他，仲郷遺跡では鎌倉時代の土坑から小札がまとまって出土し[13]，十万原遺跡では火葬施設や墓壙が確認されており，墓域として利用されていることが判明している。関根遺跡では，渡来銭37,350枚が出土したといわれている[14]。北宋銭が多くを占め，最新銭は元銭で1310年初鋳の至大通宝であり，明銭が認められないことから室町時代初期に埋納したものと考えられている。

常陸国の北東部を勢力圏とし，鎌倉時代に多数の庶子を分立させ，南北朝時代に貞義が足利尊氏から常陸守護に任命され勢力を伸ばした佐竹氏は，1602（慶長7）年，徳川家康に秋田への国替えを命じられる。その際に城領は接収され，石塚城は廃城になった。以後，当地域は宍戸藩領，水戸藩領となっている。

※　文中の＜　＞内の番号は，表1及び第1図の該当番号と同じである。

註

1）常北町史編さん委員会『常北町史』常北町　1988年3月

2）池田晃一「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　上入野遺跡　青木遺跡　後側遺跡　前側遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第108集　1996年3月

3）笹川修「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　十万原遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第179集　2001年3月

4）江幡良夫　黒澤秀雄「二の沢A遺跡　二の沢B遺跡（古墳群）　ニガサワ古墳群　十万原新住宅市街地開発事業・都市計画道路十万原東西線街路整備事業地内調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第208集　2003年3月

5）註2に同じ

6）註1に同じ

7）註4に同じ

8）小林孝「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　ニガサワ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第169集　2000年3月

9）註1に同じ

10）註2に同じ

11）註1に同じ

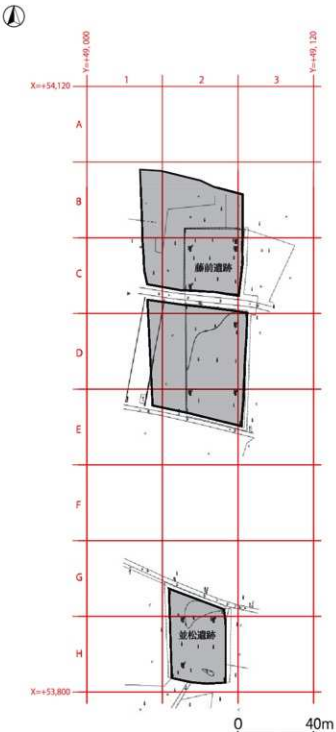
12）註1に同じ

13）仙波亨「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　仲郷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第124集　1997年6月

14）註2に同じ

参考文献

茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会　2001年3月



第２図　藤前・並松遺跡調査区設定図

第3章　藤　前　遺　跡

第1節　調査の概要

当遺跡は那珂西台地の北部，那珂川右岸の標高46ｍほどの台地端部に立地している。調査面積は6,864㎡で，調査前の現況は畑地と林である。

今回の調査では，奈良・平安時代の竪穴住居跡43軒，掘立柱建物跡10棟，土坑3基，不明遺構1か所，中世の溝跡2条，時期不明の土坑24基，溝跡4条，柵列跡1か所，ピット群4か所を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に28箱出土している。主な出土遺物は，縄文土器（深鉢），土師器（坏・高台付坏・鉢・甕・甑），須恵器（坏・高台付坏・皿・蓋・盤・甕・壺・瓶），土製品（管状土錘・羽口），石器（鏃・掻器・紡錘車），金属製品（刀子・斧・鎌・釘・鬥ヵ・鍵ヵ・鉈・鈕具）などである。

第2節　基　本　層　序

調査区の中央部（D 24区）にテストピットを設定し，地表面から深さ1.7ｍまで掘り下げて基本層序の確認を行った（第3図）。土層は8層に分層でき，観察結果は以下のとおりである。

第1層は，明赤褐色を呈する今市・七本桜軽石層である。赤色粒子を中量，黄白色粒子を微量含み，粘性は弱く，締まりは普通で，層厚は2～17㎝である。

第2層は，黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は23～32㎝である。第Ⅰ黒色帯に相当すると考えられる。

第3層は，明黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は20～40㎝である。

第4層は，黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は20～30㎝である。

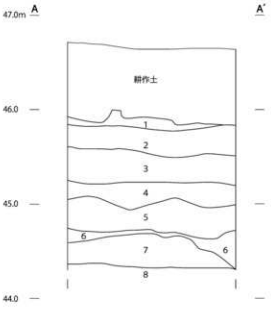
第5層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は22～37㎝である。

第6層は，オリーブ褐色を呈する鹿沼パミス層への漸移層である。鹿沼パミスを中量含み，粘性・締まりともに弱く，層厚は3～40㎝である。

第7層は，橙色を呈する鹿沼パミス層である。粘性・締まりともに弱く，層厚は3～37㎝である。

第8層は，暗褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに強く，層厚は8㎝まで確認したが，下層は未掘のため不明である。

なお，遺構は第1層の上面で確認できた。



第3図　基本土層図

第３節　遺構と遺物

１　奈良・平安時代の遺構と遺物

今回の調査で確認した当時代の遺構は，竪穴住居跡 43 軒，掘立柱建物跡 10 棟，土坑３基，不明遺構１か所である。以下，それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第１号住居跡（第４・５図）

位置　調査区北部の中央寄りＢ２j4 区，標高 46.3 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 272 m，短軸 223 m の長方形で，主軸方向はＮ－12°－Ｗである。壁高は 10cm で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，踏み固められていない。壁溝を東壁下の一部で確認した。

竈　北壁の中央部に付設されている。袖部は確認できなかった。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に 25cm 掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 10～20cm で，配置から主柱穴と考えられる。

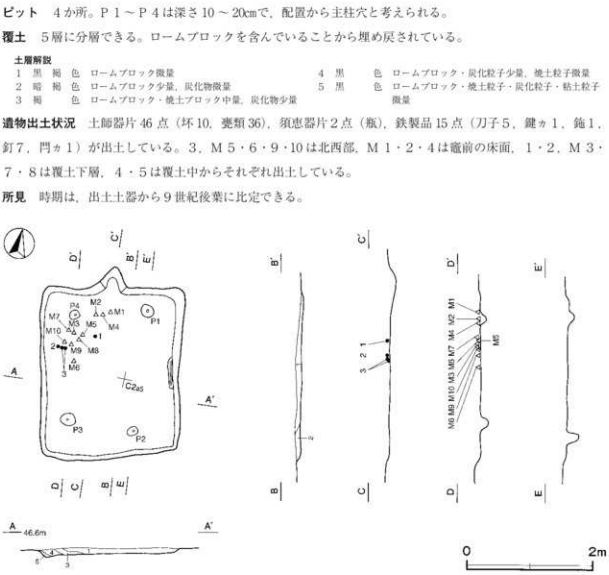
覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

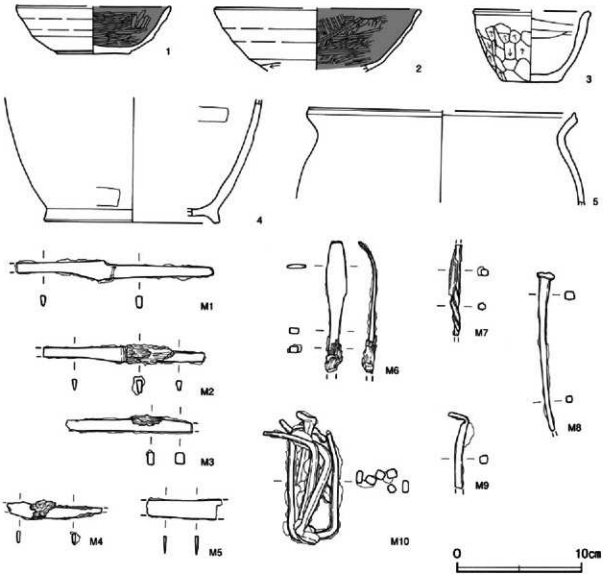
１	黒褐色	ロームブロック微量	
２	暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	
３	褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量	
４	黒色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	
５	黒色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	

遺物出土状況　土師器片 46 点（坏 10，甕類 36），須恵器片２点（瓶），鉄製品 15 点（刀子５，鍵ヵ１，鉋１，釘７，閂ヵ１）が出土している。３，Ｍ５・６・９・10 は北西部，Ｍ１・２・４は竈前の床面，１・２，Ｍ３・７・８は覆土下層，４・５は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第４図　第１号住居跡実測図



第５図　第１号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表（第５図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.2]	3.7	5.8	長石・石英	黒褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ　内面ヘラミガキ	覆土下層	55%　PL21
2	土師器	坏	[16.4]	(5.0)	－	長石・針状鉱物	にぶい黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラミガキ	覆土下層	30%
3	土師器	小形鉢	[9.0]	5.7	4.7	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り　底部手持ちヘラ削り	床面	80%　PL25
4	須恵器	瓶	－	(9.9)	[14.0]	長石・雲母・黒色粒子	黄褐 黄灰	普通	底部回転ヘラ削り　自然釉付着	覆土中	10%
5	土師器	甕	[21.2]	(7.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	刀子	(15.6)	1.8	0.5	(27.5)	鉄	刀身部欠損　刃部断面三角形・柄部断面長方形　柄部木質残存	床面	PL33
M2	刀子	(12.8)	1.3	0.4	(22.4)	鉄	刀身部欠損　刃部断面三角形・柄部断面長方形　柄部木質残存	床面	PL33
M3	刀子ヵ	(10.1)	1.0	0.7	(30.3)	鉄	刀身部欠損　刃部断面三角形・柄部断面方形・長方形　柄部木質残存	覆土下層	PL33
M4	刀子	(7.5)	1.5	1.1	(8.1)	鉄	刀身部欠損　刃部断面三角形・柄部断面長方形　柄部木質残存	床面	PL33
M5	刀子	(6.0)	1.5	0.2	(6.4)	鉄	柄部先端　刃部断面三角形	床面	
M6	鞭	(10.4)	1.7	0.5	(19.6)	鉄	刃部先端三角形　柄部長方形　柄部木質残存	床面	PL32

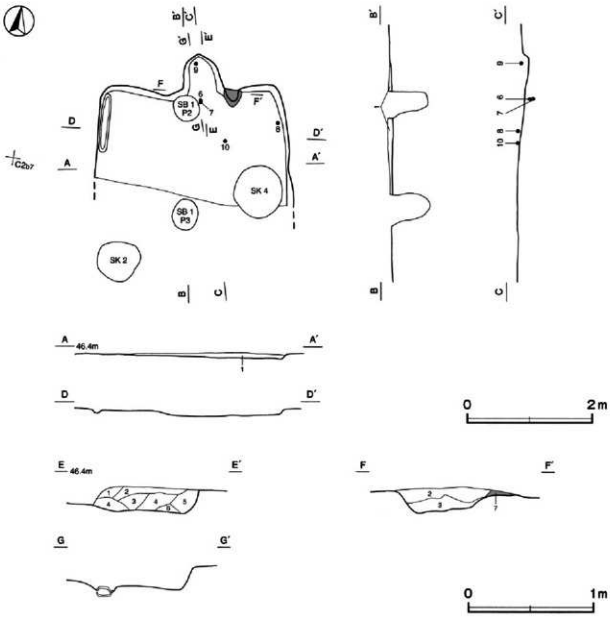
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 7	鏃 a	(7.2)	0.6	0.5	(8.1)	鉄	刃部らせん状　柄部方形　木質残存	覆土下層	PL32
M 8	釘	(12.6)	1.4	0.7	(17.0)	鉄	下端部欠損　断面方形	覆土下層	PL32
M 9	釘	(6.0)	1.7	0.6	(13.0)	鉄	下端部欠損　断面方形	床面	PL32
M 10	銅鏡	10.5	6.1	－	122.2	鉄	釘５本，円ｍ１個　部着状態	床面	PL32

第２号住居跡（第６・７図）

位置　調査区北部の東寄りＣ２a7区，標高46.3ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号掘立柱建物，第２・４号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南部が削平されているため，東西軸が3.08ｍで，南北軸は1.86ｍしか確認できなかった。形状は



第６図　第２号住居跡実測図

方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は，N－15°－Wである。確認できた壁高は7㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，踏み固められていない。西壁下の一部で壁溝を確認した。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。左袖は，第1号掘立柱建物に掘り込まれ確認できなかった。規模は焚口部から煙道部まで86㎝で，燃焼部幅は約60㎝と推定される。袖部は，地山を掘り残して基部とし，その上に粘土を主体とした第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に62㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7　褐　　色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量

覆土　単一層である。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片88点（坏40，高台付坏2，甕類46），須恵器片6点（坏3，高台付坏1，甕2），礫1点が出土している。10は中央部の床面，6・7は竈の火床部から合わせ身の状態で，8は東壁際，9は竈煙道部の確認面からそれぞれ出土している。11・12，TP 1は覆土中からの出土である。6・7の合わせ身内部の土はしまりのきわめて弱い褐色土で，Q 1はその中から確認できた自然礫である。

所見　時期は，出土土器から10世紀中葉に比定できる。

第7図　第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	土師器	坏	10.6	3.4	6.3	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部ナデ	竈火床部	100%　PL21
7	土師器	坏	11.0	3.5	5.4	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	底部ナデ	竈火床部	95%　PL21

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土師器	坏	[12.3]	3.6	6.2	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	縄認面	40%
9	土師器	坏	[15.2]	(6.0)	－	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	内面ヘラナデ後，一部ヘラミガキ	縄認面	25%
10	土師器	高台付坏	－	(1.8)	7.0	長石・石英・小石	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後，ナデ　内面ヘラミガキ	床面	20%
11	須恵器	高台付坏	－	(3.1)	[7.0]	長石・黒色粒子・針状鉱物	灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土中	20%
12	土師器	甕	[17.3]	(8.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	土師器	坏	長石・石英	にぶい橙	体部外面「真々」の刻書	覆土中	PL29

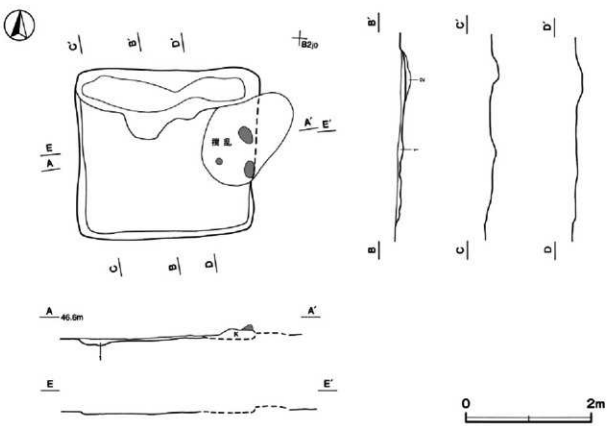
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	碧	3.4	2.5	2.1	23.2	安山岩	自然礫　6・7の坏の合わせ身内部から確認	竈火床部	

第３号住居跡（第８・９図）

位置　調査区北部の東寄りＢ２j9区，標高46.3ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸2.83ｍ，短軸2.70ｍの方形で，主軸方向はＮ－82°－Ｅである。壁高は15cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，踏み固められていない。貼床はほぼ平坦に掘り込み，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む黒色土を埋土として構築している。



第８図　第３号住居跡実測図

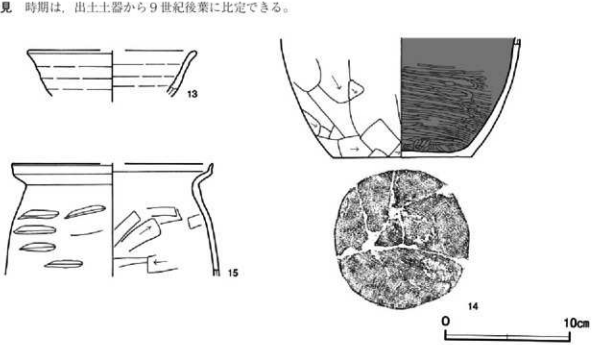
竈　東壁の中央部は撹乱を受けていたが，覆土中で竈材とみられる粘土が確認できたことから東壁に付設されていたものと推測される。

覆土　単一層である。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第２層は貼床の構築土である。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量　　2　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 19 点（坏１，鉢１，甕類 17），須恵器片５点（坏１，蓋１，甕３）が出土している。13・14・15 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第９図　第３号住居跡出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
13	土師器	坏	[13.4]	(3.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形	覆土中	10%
14	土師器	鉢	－	(9.6)	10.9	長石・石英・針状鉱物	黄灰	普通	体部外面縦位のヘラ削り　底部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラミガキ　底面二方向のヘラミガキ	覆土中	45%
15	土師器	甕	[15.8]	(9.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面板状工具による斜位の圧痕	覆土中	20%

第４号住居跡（第 10 ～ 12 図）

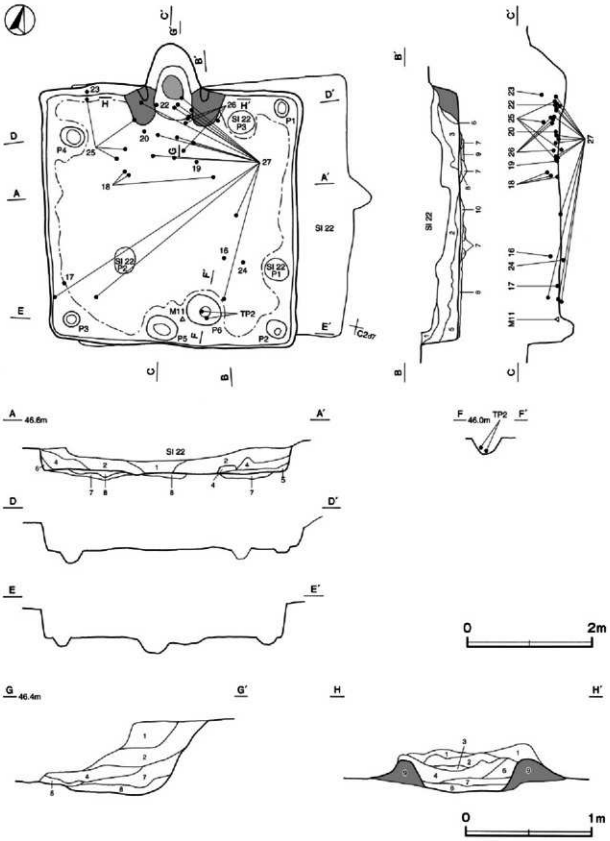
位置　調査区中央部のやや東寄りＣ２c6 区，標高 46.1 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第 22 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.18 m，短軸 4.13 m の方形で，主軸方向はＮ－ 14°－Ｗである。壁高は 53cm で，壁は直立して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際まで踏み固められている。貼床は全体をほぼ平坦に掘り込み，炭化粒子・ロームブロックを含む暗褐色土・黒褐色土を埋土して構築している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cm で，燃焼部幅は 75cm である。袖部は，床面に粘土を主体とした第９層を積み上げて構築されている。火床部は床面から６cm ほど皿状に掘り込まれてており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 70cm 掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第10図　第4号住居跡実測図

竈土層解説

1 黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2 にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4 にぶい赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
5 暗 赤 褐 色　粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
6 暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
7 褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8 黒　色　炭化粒子極少量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
9 褐　色　粘土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量

ピット　6か所。P 1 ～ P 4は深さ10 ～ 12cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5・P 6は深さ20cmで，南壁際のほぼ中央部に位置していることや，硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

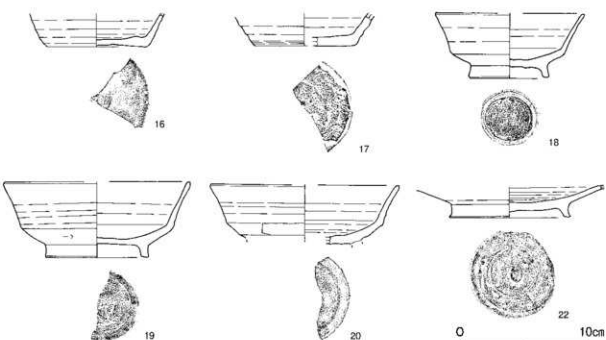
覆土　6層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。第7 ～ 10層は貼床の構築土である。

土層解説

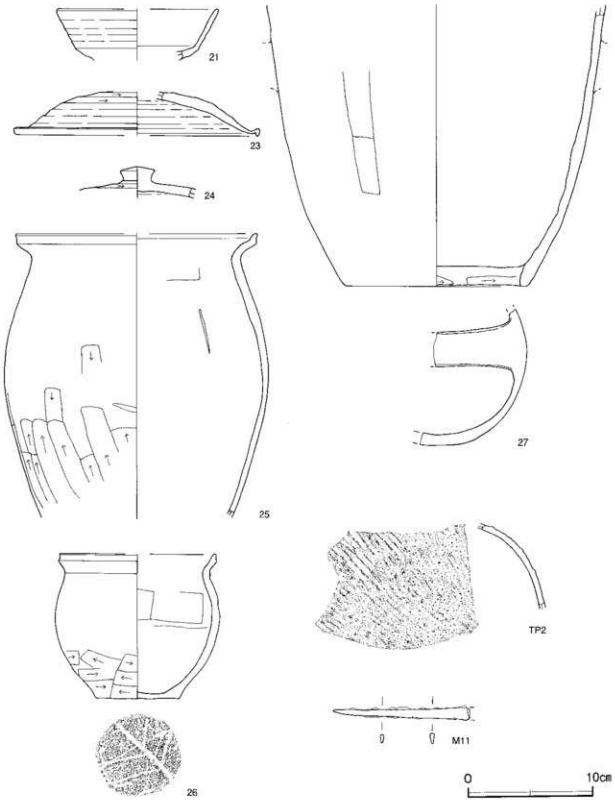
1 黒　色　粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2 黒　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒　色　今市七本桜パミス中量，炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
4 黒　色　ロームブロック・砂粒少量，今市七本桜パミス微量
5 黒　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
6 黒　色　粘土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
7 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック微量
9 暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・今市七本桜パミス微量
10 黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片167点（坏8，甕類150，瓶9），須恵器片71点（坏41，高台付坏8，蓋7，盤1，甕3，瓶11），鉄製品1点（刀子）が出土している。17は西壁際，19は竈寄り，24は東部の床面，20・26は竈前，M11は南壁際の覆土下層，27は全域，18は中央部，25は北西部の床面から覆土下層にかけて，16は東部，23は北壁際の覆土中層，TP 2はP 6の覆土下層，22は竈燃焼部，21は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第11図　第4号住居跡出土遺物実測図（1）



第12図　第4号住居跡出土遺物実測図（2）

第4号住居跡出土遺物観察表（第11・12図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	須恵器	坏	－	(2.7)	(8.0)	長石	灰オリーブ黒	良	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	10%
17	須恵器	坏	－	(2.6)	(8.0)	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	須恵器	高台付坏	[11.7]	5.2	6.2	長石・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け　内面重ね焼きの痕跡	覆土下層～床面	60% PL23
19	須恵器	高台付坏	[14.6]	6.1	8.0	長石・石英・長石質砂・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　底部［×］のヘラ記号	床面	40%
20	須恵器	高台付坏	[15.0]	(4.6)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　底部下端回転ヘラ削り	覆土下層	20%
21	須恵器	高台付坏	[12.8]	(4.1)	－	長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロ成形　内面自然釉付着	覆土中	30%
22	須恵器	甕	－	(2.6)	9.5	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	竈焼部	20%
23	須恵器	蓋	[19.2]	(3.5)	－	長石・石英・黒色粒子・雲母	褐灰	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	覆土中層	20%
24	須恵器	蓋	－	(2.5)	－	長石・黒色粒子	灰	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け	床面	20%
25	土師器	甕	[19.0]	(22.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下端縦位のヘラ削り	覆土下層～床面	30%
26	土師器	小形甕	12.4	11.5	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	50% PL25
27	土師器	甑	－	(22.4)	[14.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	貼り付け把手の剥離痕跡	覆土下層～床面	30% PL27

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 2	須恵器	瓶	長石・石英	灰	体部外面縦位の平行叩き後，横位の平行叩き	P6 覆土下層	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 11	刀子	(10.9)	1.0	0.3	(7.3)	鉄	柄部欠損　刃部断面三角形	覆土下層	PL33

第５号住居跡（第 13・14 図）

位置　調査区中央部の東寄りＣ２d8 区，標高 46.2 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 4.10 ｍ，短軸 3.78 ｍの方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｗである。壁高は 15㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，踏み固められていない。貼床は東・西壁際を南北方向に溝状に掘り込み，ロームブロック・今市七本桜パミスを含む黒褐色土・黒色土を埋土して構築している。

竈　２か所。袖部の残存状況から，竈２から竈１に作り替えている。東壁の中央部に付設されている竈２は，煙道部のみが確認できた。煙道部は壁外に 56㎝掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。北壁の中央部に付設されている竈１の規模は焚口部から煙道部まで 110㎝で，燃焼部幅は 52㎝である。袖部は，床面に粘土を主体とした第３層を積み上げて構築されている。火床部は皿状に５㎝ほど掘り込み，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を含んだ第４～７層を埋土して構築しており，火床面は，赤変硬化している。煙道部は壁外に 44㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈１土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子極微量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

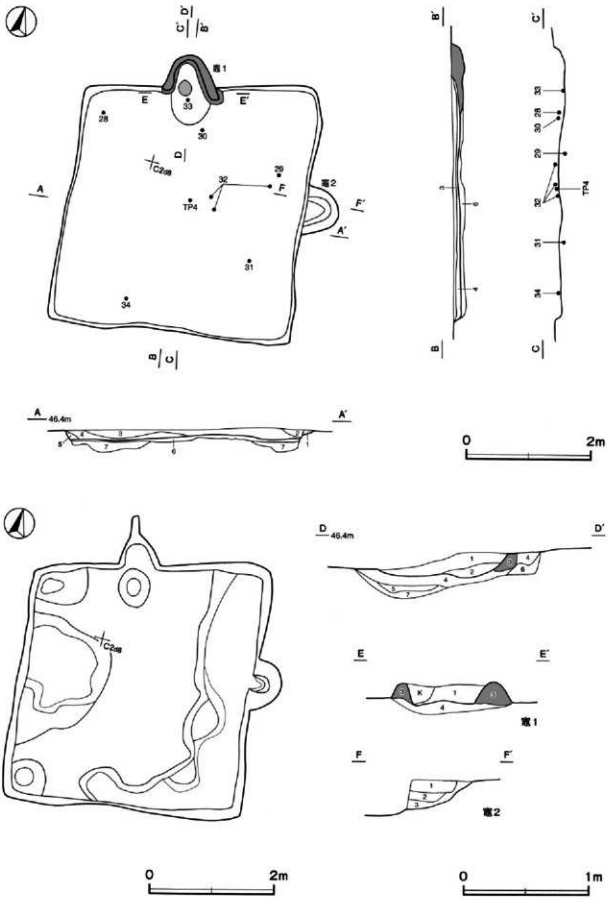
竈２土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量，炭化粒子極微量

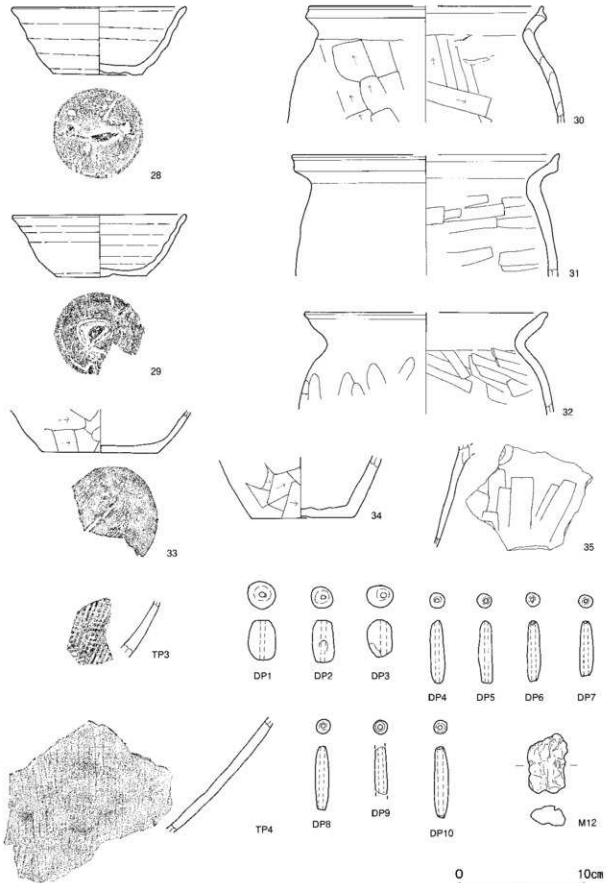
覆土　５層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。第６・７層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子微量，焼土粒子極微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　　色　ロームブロック微量
6　黒　褐　色　今市七本桜パミス中量，ロームブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
7　黒　　色　ロームブロック・今市七本桜パミス少量，炭化粒子微量



第13図　第5号住居跡実測図



第14図　第5号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 157 点（坏 17，甕類 128，甑 12），須恵器片 20 点（坏 18，甕２），土製品 10 点（管状土錘），鉄滓１点が出土している。29・31・32 は東部の床面から，28 は北西コーナー部，33 は竈１の火床部，30 は竈１の前部，34 は南部，TP ４は中央部の覆土下層から，35，TP ３，DP １～DP10，M12 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。

第５号住居跡出土遺物観察表（第 14 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
28	須恵器	坏	13.8	5.5	7.0	長石・石英・針状鉱物	灰白	良	底部回転ヘラ切り後一部ナデ	覆土下層	100% PL23
29	須恵器	坏	13.8	5.0	7.0	長石・石英・針状鉱物	褐灰	良	底部回転ヘラ切り「⌈」状のヘラ描き	床面	70% PL22
30	土師器	甕	[18.6]	(9.3)	－	長石・石英・針状鉱物	褐灰	良	体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	20% PL25
31	土師器	甕	[21.2]	(9.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面摩耗のため調整不明　内面ヘラナデ	床面	5％
32	土師器	甕	[19.0]	(8.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	床面	10% PL28
33	土師器	甕	－	(3.4)	9.2	長石・石英	にぶい褐	普通	体部下端横位のヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	竈１火床部	10%
34	土師器	甕	－	(4.9)	8.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土下層	10%
35	土師器	甑	－	(8.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　貼り付け把手の剥離痕跡	覆土中	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP3	須恵器	甕	長石・石英・雲母	黄灰	体部外面縦位の平行叩き	覆土中	PL29
TP4	須恵器	甕	長石・石英・雲母	にぶい橙	体部外面縦位の平行叩き	覆土下層	PL29

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP1	管状土錘	3.1	2.3	0.5	16.2	長石・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP2	管状土錘	3.3	1.8	0.4	10.5	長石・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP3	管状土錘	3.0	2.1	0.5	6.3	長石・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP4	管状土錘	5.0	1.2	0.3	5.6	長石	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP5	管状土錘	5.0	1.1	0.3	4.9	長石・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP6	管状土錘	4.8	1.1	0.3	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP7	管状土錘	4.4	1.1	0.3	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP8	管状土錘	5.1	1.2	0.35	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP9	管状土錘	(3.8)	1.0	0.3	(3.6)	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP10	管状土錘	5.7	1.1	0.4	6.4	長石・石英・雲母	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	鉄滓	4.7	3.2	1.6	31.8	鉄	着磁性なし	覆土中	PL33

第６号住居跡（第 15 図）

位置　調査区中央部の東寄りＣ２d0 区，標高 46.4 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　東部が第１号溝と重複しているため，南北軸は 2.40 m で，東西軸は 2.54 m しか確認できなかった。形状は長方形と推定され，長軸方向はＮ－88°－Ｅである。壁高は 11cm で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，踏み固められていない。北壁から西壁下の一部で壁溝を確認した。

ピット　３か所。Ｐ１は深さ 30cm，Ｐ２は深さ 12cm，Ｐ３は深さ 14cm で，性格は不明である。

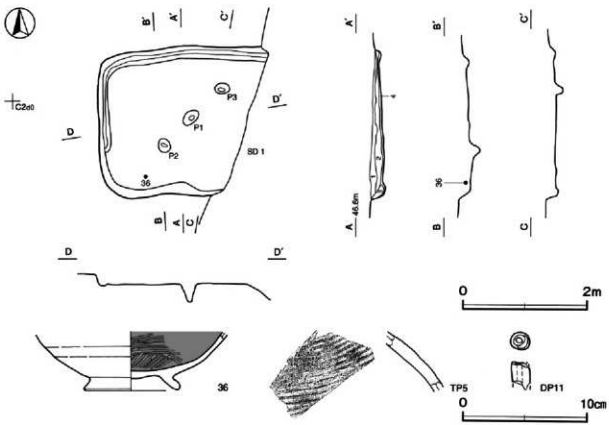
覆土　４層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
3　黒　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　今市七本桜パミス多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 37 点（坏 28，高台付坏 1，甕類 8），須恵器片 1 点（甕），土製品 1 点（管状土錘）が出土している。36 は南壁際の覆土下層，TP 5，DP11 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 15 図　第 6 号住居跡・出土遺物実測図

第 6 号住居跡出土遺物観察表（第 15 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
36	土師器	高台付坏	－	(4.7)	7.6	長石・石英・雲母・針状鉱物	明褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　内面ヘラミガキ	覆土下層	35%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	須恵器	甕	長石・石英	黄灰 8 リーン/黄	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	PL29

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP11	管状土錘	(2.1)	1.5	0.4	(4.6)	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30

第 7 号住居跡（第 16 図）

位置　調査区中央部のやや東寄りＣ２f8 区，標高 46.3 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.90 m，短軸 3.10 m の長方形で，主軸方向はＮ－ 88°－ Ｅである。壁高は 11cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，踏み固められていない。貼床は西壁際の中央部を土坑状に掘り込み，ローム粒子・炭

化粒子を含む黒色土・黒褐色土・暗褐色土を埋土して構築している。

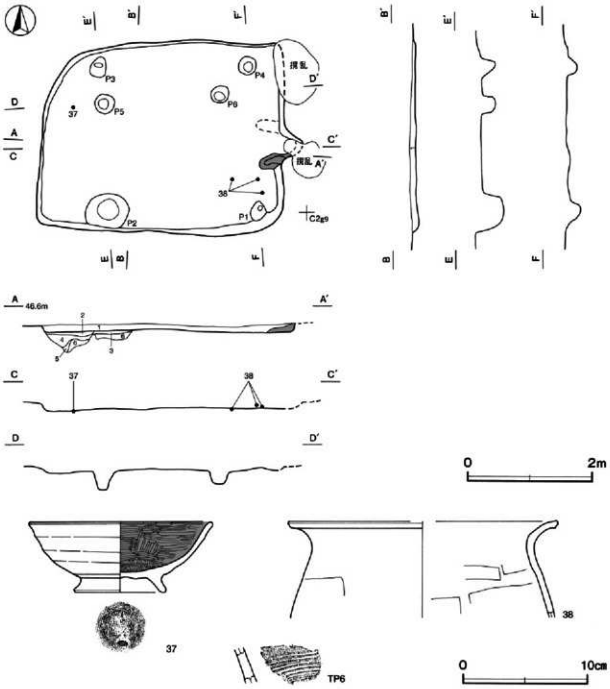
竈　東壁のやや南寄りに付設されている。煙道部と左袖部が撹乱を受けているため，規模は不明である。

ピット　6か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ14～30cmで，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ30cm，Ｐ６は深さ20cmで，性格は不明である。

覆土　単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。第２～６層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　色　炭化粒子中量，今市七本桜パミス少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，白色粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量
5　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・黒色土ブロック・炭化粒子微量



第16図　第７号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片41点（坏6，高台付坏1，甕類34），須恵器片4点（坏2，蓋1，甕1），鉄製品1点（不明）が出土している。37は西部，38は南東コーナー部の床面，TP6は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉に比定できる。

第7号住居跡出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	土師器	高台付坏	14.4	5.6	7.2	砂粒・針状鉱物	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　内面ヘラミガキ	床面	80%　PL21
38	土師器	甕	[21.4]	(7.6)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り	床面	20%

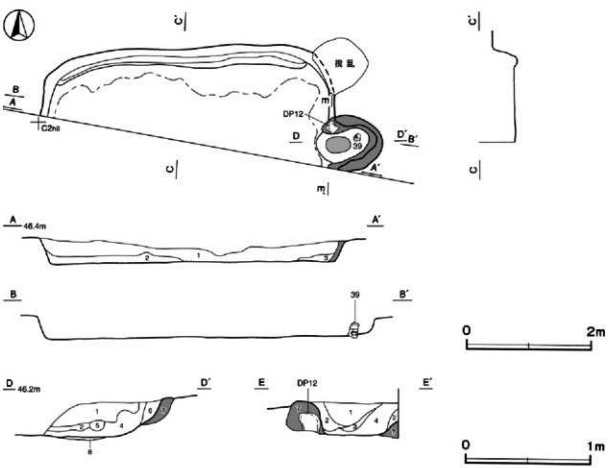
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP6	土師器	甕	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	体部内面ハケナデ	覆土中	PL29

第8号住居跡（第17・18図）

位置　調査区中央部の東寄りC 2g8区，標高46.2 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，東西軸は4.68 mで，南北軸は1.85 mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－88°－Eである。壁高は42cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な床で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。北壁下で壁溝を確認した。



第17図　第8号住居跡実測図

竈　東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで94cmで，燃焼部幅は56cmである。袖部は床面に粘土塊を基部とし，その周りに粘土を主体とした第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に54cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・今市七本桜パミス微量
2　黒　色　炭化粒子中量，今市七本桜パミス少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
3　黒　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック極微量
4　褐　色　炭化粒子・今市七本桜パミス少量，ローム粒子・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量
6　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子微量，炭化粒子極微量
8　暗　赤　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量

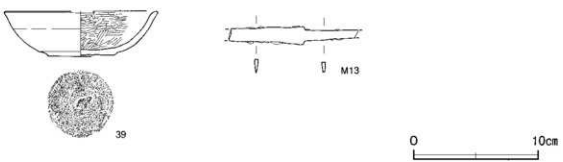
覆土　3層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

1　黒　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・今市七本桜パミス微量
3　黒　色　炭化粒子少量，ロームブロック極微量

遺物出土状況　土師器片29点（坏10，甕類19），須恵器片6点（坏4，甕2），土製品1点（袖材），鉄製品1点（刀子）が出土している。39は竈の燃焼部から逆位で，M13は覆土中からそれぞれ出土している。DP12は竈左袖部から出土しており，竈の芯材と考えられる。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第18図　第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
39	土師器	坏	12.1	3.6	5.2	長石・石英・赤色鉱物	にぶい赤褐	良	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈燃焼部	45%　PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP12	袖材	17.5	13.6	13.5	3800	長石・石英	ナデ	竈左袖部	PL20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	刀子	(10.3)	1.4	0.3	(9.8)	鉄	刃部欠損　刃部断面三角形　茎部断面長方形	覆土中	PL33

第9号住居跡（第19図）

位置　調査区北部の東寄りB 2i0区，標高46.4 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第32号住居跡を掘り込み，第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.86 m，短軸2.77 mの方形で，長軸方向はN－6°－Eである。壁高は17cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，踏み固められていない。掘方は南部の半分を溝状に掘り込んでいる。

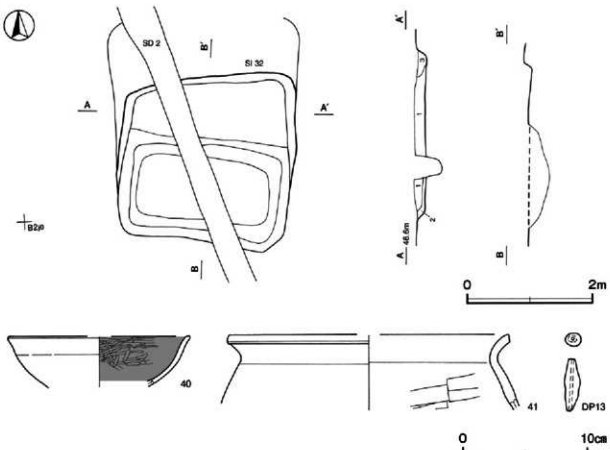
覆土　3層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック・今市七本桜パミス微量
3　黒 褐 色　粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量

遺物出土状況　土師器片39点（坏9，高台付坏2，甕類26，瓶2），須恵器片1点（坏），土製品1点（管状土錘）が出土している。40・41，DP13は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第19図　第9号住居跡・出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	土師器	坏	[14.2]	(4.0)	～	長石・小石	にぶい橙	普通	内面ヘラミガキ	覆土中	30%
41	土師器	甕	[22.4]	(5.9)	～	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラナデ	覆土中	5%

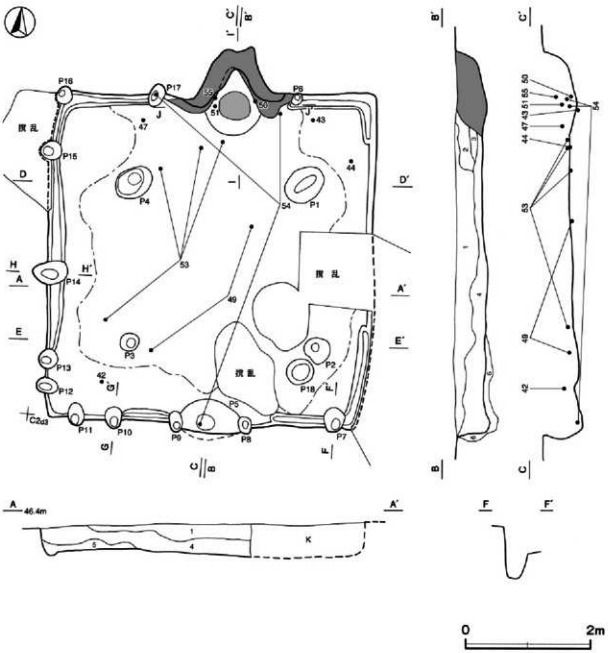
番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP13	管状土錘	4.1	1.2	0.2	5.8	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30

第 10 号住居跡（第 20 ～ 23 図）

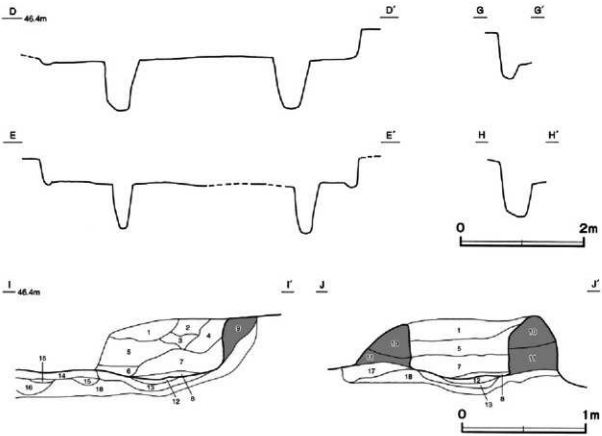
位置　調査区中央部の北寄りＣ 2c3 区，標高 46.1 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 5.19 ｍ，短軸 5.16 ｍの方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁高は 46cm で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。壁下に壁溝がほぼ全周している。貼床は北・南壁際を東西方向に溝状に掘り込み，ローム粒子・粘土粒子を含む灰褐色土を埋土して構築している。



第 20 図　第 10 号住居跡実測図（1）



第21図　第10号住居跡実測図（2）

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで128㎝で，燃焼部幅は79㎝である。袖部は，床面に粘土を主体とした第10･11層を積み上げて構築されている。火床部は10㎝ほど皿状に掘込み，ローム粒子を含んだ第13層を埋めて構築しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に40㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい橙色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子微量
8　灰　褐　色　炭化粒子多量
9　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
10　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　にぶい橙色　粘土粒子中量，ローム粒子微量
12　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
13　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
14　にぶい褐色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
15　明　褐　色　ローム粒子多量
16　黒　褐　色　ロームブロック少量
17　極暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
18　橙　　色　今市七本桜パミス少量，ローム粒子微量

ピット　18か所。P１～P４は深さ75～83㎝で，配置から主柱穴と考えられる。P５は深さ22㎝で南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P６～P17は確認面からの深さが70～100㎝で，ほぼ等間隔に位置していることから壁柱穴と考えられる。P18は，深さ27㎝で性格は不明である。

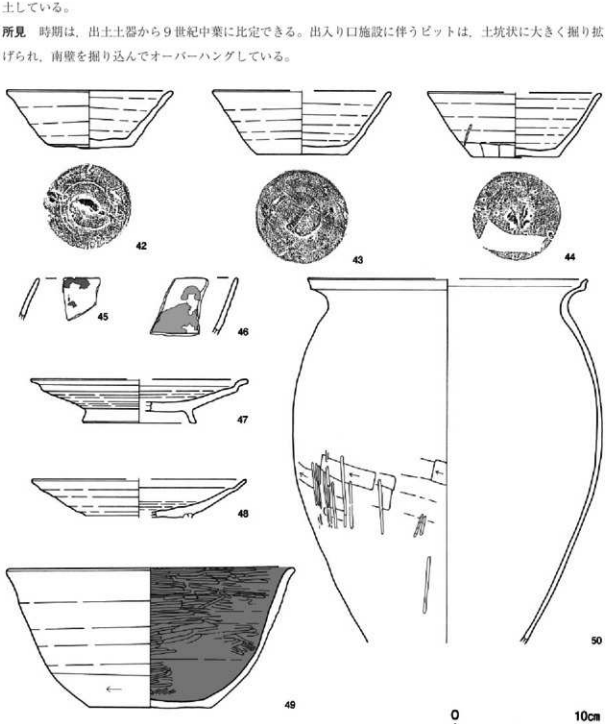
覆土　５層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。第６層は，貼床の構築土である。

土層解説

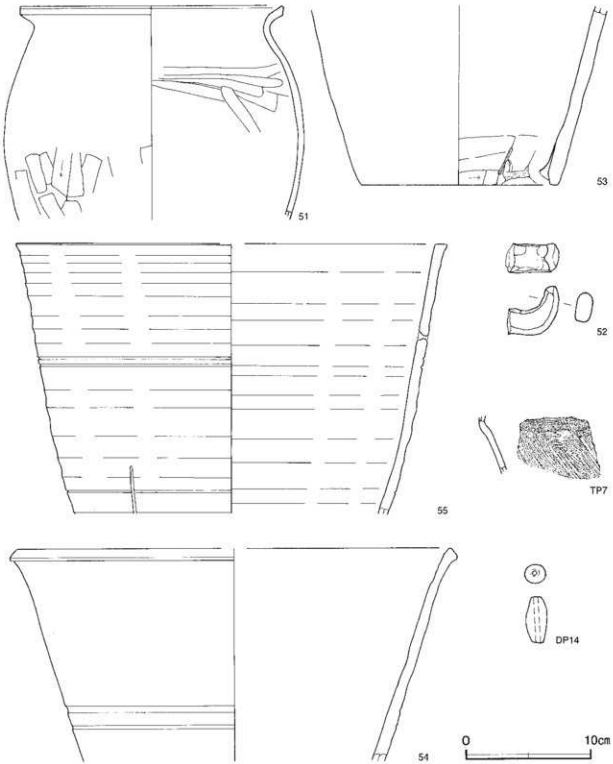
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　にぶい褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　灰　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子微量
5　褐　　色　粘土粒子多量，ロームブロック微量
6　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 605 点（坏 28，甕類 553，甑 24 点），須恵器片 126 点（坏 98，高台付坏 2，蓋 2，皿 2，瓶 1，甕 20，甑 1），灰釉陶器片 1 点（瓶），土製品 1 点（管状土錘）が出土している。43･44 は北東コーナー部の床面，49 は中央部，53 は竈前と西部，54 は竈脇と南壁際の覆土下層から床面，42 は南西コーナー部，47 は北西部の覆土下層，50・51・55 は竈燃焼部から，45・46・48・52，TP 7，DP14 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。出入り口施設に伴うピットは，土坑状に大きく掘り拡げられ，南壁を掘り込んでオーバーハングしている。



第 22 図　第 10 号住居跡出土遺物実測図（1）



第23図　第10号住居跡出土遺物実測図（2）

第10号住居跡出土遺物観察表（第22･23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	須恵器	坏	13.0	4.7	6.9	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤褐	良	底部回転ヘラ切り	覆土下層	100%　PL22
43	須恵器	坏	[14.0]	6.1	7.3	長石・針状鉱物	にぶい赤褐	良	底部回転ヘラ切り後ナデ　「×」のヘラ記号	床面	70%　PL22
44	須恵器	坏	[13.6]	5.2	7.0	長石	灰	良	底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	60%　PL22
45	須恵器	坏	－	(3.3)	－	長石・雲母	灰	良	ロクロ成形　外面油煙付着	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	縄文器	坏	－	(4.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形　内面漆付着	覆土中	5％
47	縄文器	皿	[17.4]	3.5	[9.0]	長石・石英	黄灰	良	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土下層	25%
48	縄文器	皿	[17.0]	(3.1)	－	長石	灰	良	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土中	10%
49	土師器	鉢	22.6	11.3	9.7	長石・石英・雲母・赤色粒子・植物繊維	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り　内面ヘラミガキ	覆土下層～床面	100%　PL25
50	土師器	甕	[22.0]	(29.0)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り後ミガキ	雛然焼部	40%　PL26
51	土師器	甕	21.0	(16.9)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	雛然焼部	30%　PL26
52	土師器	甑	－	(3.9)	－	長石	灰黄	普通	ナデ整形	覆土中	5％　PL28
53	土師器	甑	－	(14.3)	15.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	良	体部外面摩耗により調整不明　内面ハケナデ	覆土下層～床面	30%
54	土師器	甑	[34.6]	(16.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面摩耗により調整不明	覆土下層～床面	20%
55	縄文器	甑	[34.2]	(21.5)	－	長石・石英・礫礫	灰黄	普通	体部外面ナデ　補修孔	雛然焼部	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP7	土師器	甕	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	体部内面ハケナデ	覆土中	PL29

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP14	管状土錘	3.7	1.7	0.35	9.8	長石・石英・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30

第 11 号住居跡（第 24・25 図）

位置　調査区中央部のＣ２g4 区，標高 46.2 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　北東コーナー部を第 13・14 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.38 ｍ，短軸 4.74 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 86゜－Ｅである。壁高は６～ 18cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北壁下の一部で壁溝を確認した。

竈　東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130cmで，燃焼部幅は 80cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第 10 ～ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は５～ 17cmほど皿状に掘り込み，ローム粒子と炭化粒子を含んだ第 13 ～ 18 層を埋めて構築しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 44cm掘り込まれ，火床部から緩斜して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2　黒　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　灰　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12　黄　褐　色　粘土粒子多量，炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
14　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
15　赤　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
16　褐　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
17　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
18　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極微量

ピット　９か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 17 ～ 35cmで，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ 19cm，Ｐ６は深さ 16cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７～Ｐ９は深さ 16 ～ 28cmで，性格は不明である。

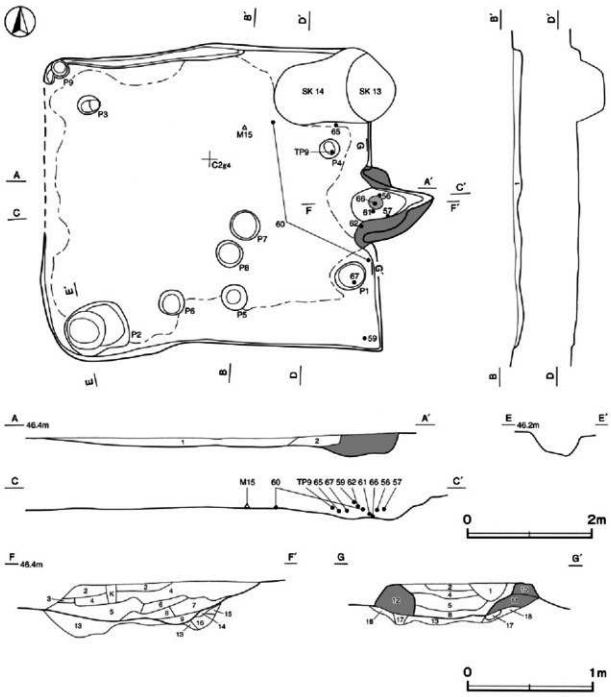
覆土　2層に分層できる。層厚が薄いが周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

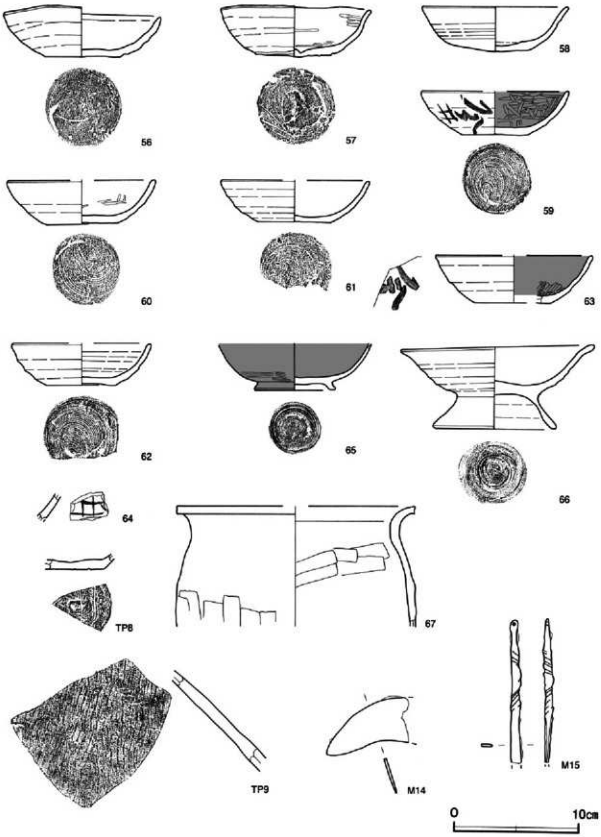
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子少量　　2　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片526点（坏321，高台付坏32，甕類173），須恵器片27点（坏22，瓶1，甕4），鉄製品2点（鎌，不明）が出土している。60は東部，65，TP 9は北東部，67は南東部の床面，M15は北部の覆土下層，59は南東コーナー部の覆土中層，56・57・61・62・66は竈燃焼部の中層から下層にかけて，58・63・64，TP 8，M14は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第24図　第11号住居跡実測図



第25図　第11号住居跡出土遺物実測図

第 11 号住居跡出土遺物観察表（第 25 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
56	土師器	坏	12.4	4.0	6.0	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	竈焼成部	90% PL23
57	土師器	坏	11.7	4.0	6.0	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	底部ヘラ切り後ナデ，内面ヘラミガキ	竈焼成部	100% PL23
58	土師器	坏	11.6	3.6	6.0	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り	覆土中	90% PL23
59	土師器	坏	[11.6]	3.5	5.2	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り　内面ヘラミガキ　体部に横位で「今井」の墨書	覆土中層	70% PL24
60	土師器	坏	[11.6]	3.5	5.2	長石・石英	明赤褐	普通	底部回転糸切り	床面	60% PL23
61	土師器	坏	[11.8]	3.4	5.8	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	竈焼成部	50% PL23
62	土師器	坏	[10.8]	3.3	5.5	長石・石英・針状鉱物・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	竈焼成部	40%
63	土師器	坏	[12.3]	3.8	[6.1]	長石・石英	灰褐	普通	ロクロ成形　底部回転糸切り　体部に横位で「今」の墨書	覆土中	15% PL24
64	土師器	坏	－	(2.1)	－	長石	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形　体部外面に「井」の墨書	覆土中	5% PL24
65	土師器	高台付坏	－	(3.8)	6.4	長石・雲母	黒	普通	底部ヘラ切り後，高台貼り付け　内外面ヘラミガキ	床面	20% PL23
66	土師器	高台付坏	15.2	6.7	9.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部ヘラ切り後，高台貼り付け	竈焼成部	80% PL23
67	土師器	甕	[18.8]	(9.6)	－	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 8	縄文時代	坏	長石・石英・雲母	灰	底部回転ヘラ切り後，「＋」のヘラ記号	覆土中	PL29
TP 9	縄文時代	甕	長石・石英	明灰 にぶい赤褐	体部縦位の平行叩き	床面	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 14	鑿	(6.5)	4.8	0.2	(21.9)	鉄	茎部欠損　刃部断面三角形	覆土中	PL33
M 15	不明	(11.4)	0.9	0.9	(12.3)	鉄	上端部穿孔　中間ねじり部分あり　下端部断面長方形	覆土下層	PL32

第 13 号住居跡（第 26 ～ 28 図）

位置　調査区中央部の東寄り D 2a8 区，標高 45.9 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 4.64 m，短軸 4.05 m の長方形で，主軸方向は N－8°－W である。壁高は 42cm で，壁は外傾して立ち上がっている。南壁の中央部に奥行 50cm ほど掘り込んでいる半円状の張り出し部を有している。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は，東・西壁際を南北方向に溝状に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子を含む黒褐色土・黒色土を埋土して構築している。

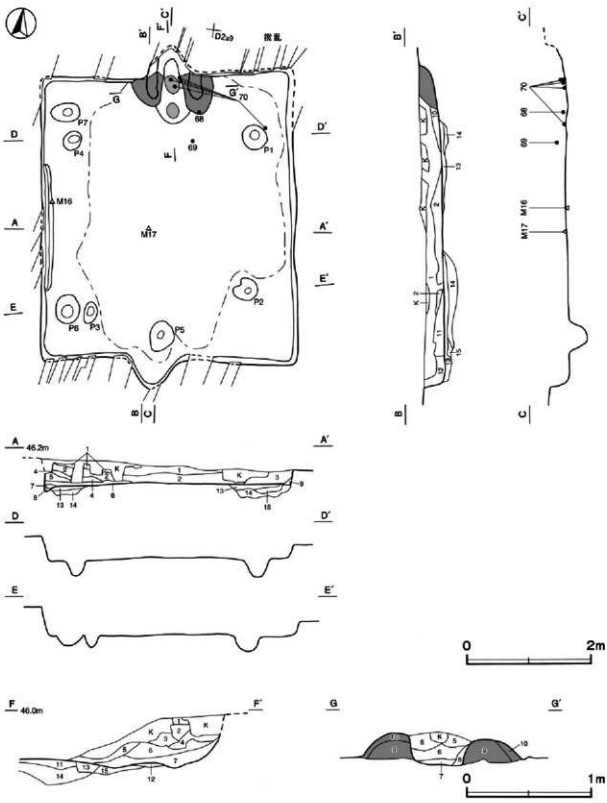
竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cm で，燃焼部幅は 44cm である。袖部は，床面に粘土を主体とした第 9・10 層を積み上げて構築されている。火床部は 6 cm ほど皿状に掘り込み，ロームブロックを含んだ第 13 ～ 15 層を埋めて構築しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 42cm 掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

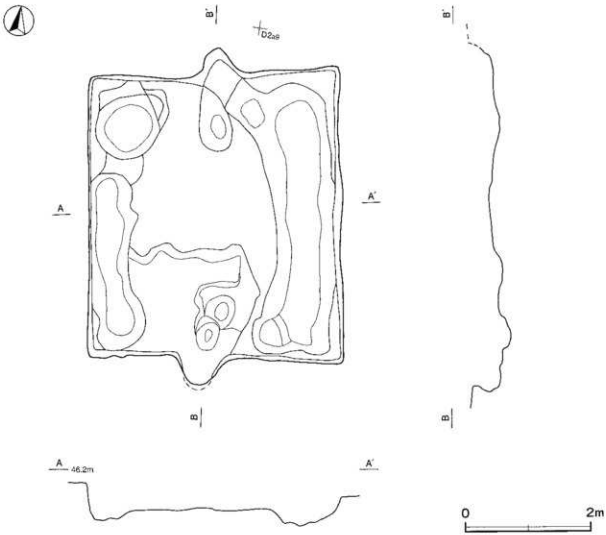
1　黄　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　明黄褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黄　褐　色　粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　黄　褐　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
9　黄　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
11　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
13　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
14　灰　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
15　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　7 か所。P 1 ～ P 4 は深さ 20 ～ 30cm で，配置から主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 30cm で，南壁際

に位置していることや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６･Ｐ７は深さ14cmで，性格は不明である。



第26図　第13号住居跡実測図（1）



第27図　第13号住居跡実測図（2）

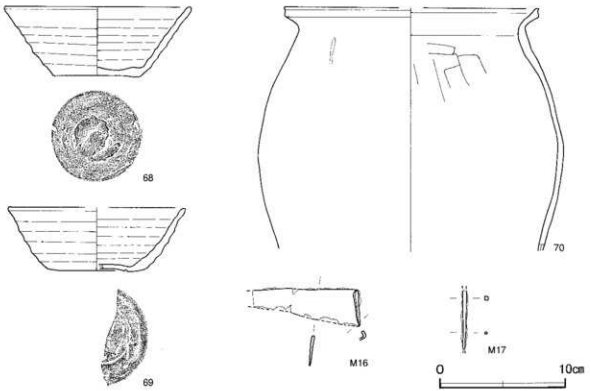
覆土　12層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第13～15層は，貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ロームブロック中量（粘性弱）
8　にぶい褐色　ロームブロック中量
9　褐　　色　ロームブロック多量
10　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量
11　極 暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
12　灰　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
14　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
15　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片214点（坏5，甕類209），須恵器片28点（坏25，甕3），鉄製品6点（鎌1，釘1，不明4）が出土している。M16は西壁際，M17は中央部，68は竈前方の床面から，69は北部の覆土中層，70は竈燃焼部と北東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第28図　第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
68	須恵器	坏	14.7	5.5	7.2	長石・石英・雲母	灰黄	良	底部回転ヘラ切り後，ナデ	床面	85%　PL22
69	須恵器	坏	(14.0)	5.0	(8.0)	長石・石英・雲母	灰黄	良	底部回転ヘラ切り後，ナデ	覆土中層	30%
70	土師器	甕	(20.2)	(19.2)	－	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	内面ヘラナデ	竈燃焼部	20%　PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 16	鏃	(8.8)	(3.0)	0.2	(15.1)	鉄	茎部欠損　刃部断面三角形　折り返し部残存	床面	PL33
M 17	釘	(4.6)	0.3	0.3	(2.2)	鉄	上端部欠損　断面方形	床面	

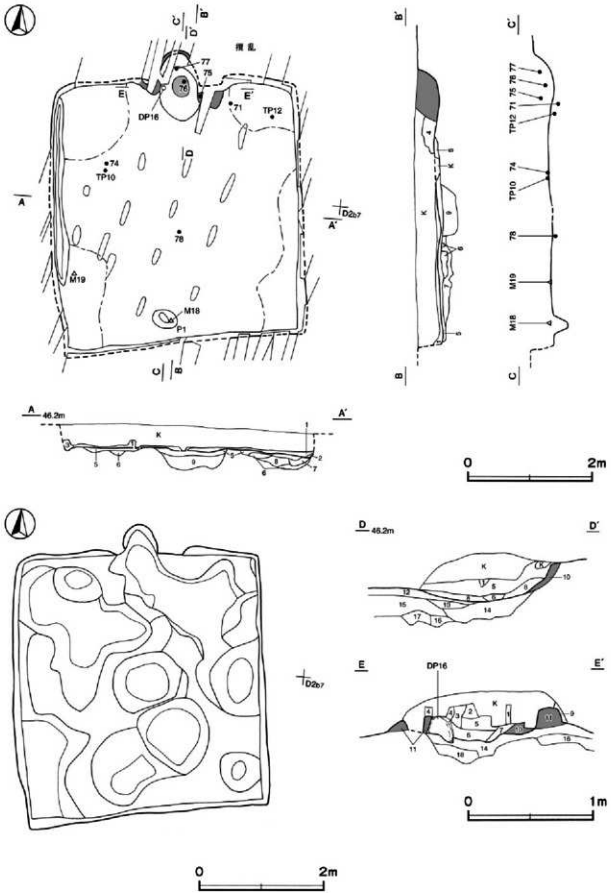
第14号住居跡（第29～31図）

位置　調査区中央部の中央寄りＤ２b6区，標高46.0ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.32ｍ，短軸3.94ｍの方形で，主軸方向はＮ－9°－Ｗである。壁高は38cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は中央部を土坑状，西壁際を南北方向に溝状に掘り込み，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を含む黒色土・黒褐色土を埋土して構築している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで107cmで，燃焼部幅は60cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第10・11層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第 29 図　第 14 号住居跡実測図

竈土層解説

1	明黄褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量	10	明黄褐色	粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック少量，粘土ブロック・炭化物微量	11	灰白色	粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	12	黒色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
4	明黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子少量	13	黒色	炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量，粘土ブロック・ローム粒子微量	14	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6	明赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量	15	黒色	炭化粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・今市七本桜パミス微量
7	橙色	焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量	16	黒色	ローム粒子・炭化粒子微量
8	暗赤褐色	炭化物中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量	17	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・七本桜パミス微量
9	黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	18	にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量，焼土粒子微量

ピット　深さ22cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

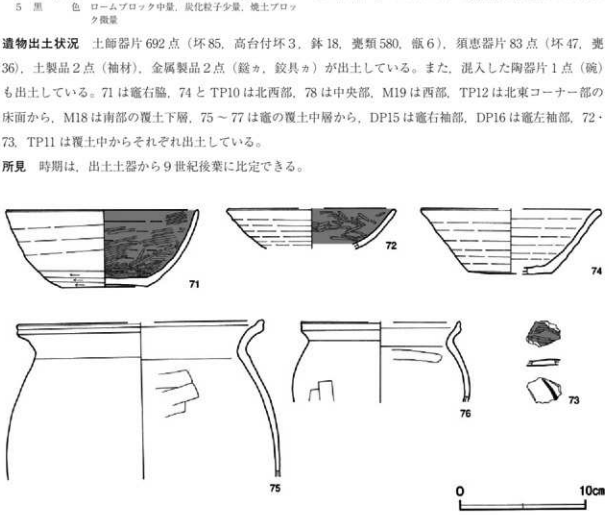
覆土　4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第5～9層は貼床の構築土である。

土層解説

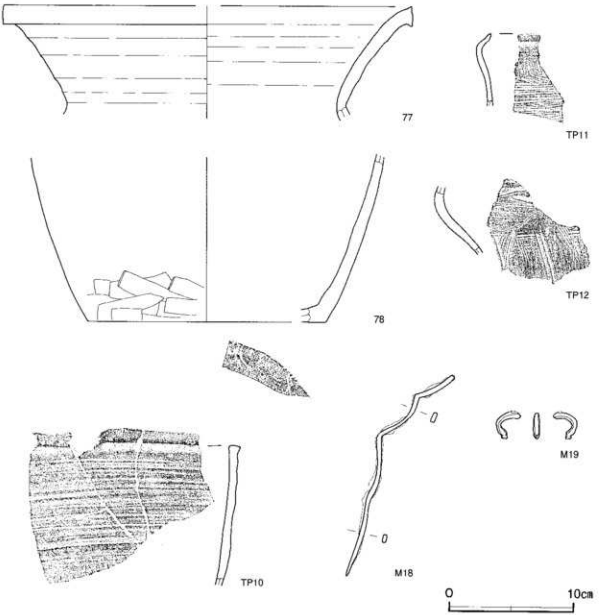
1	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量	6	黒色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	7	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	9	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
5	黒色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量			

遺物出土状況　土師器片692点（坏85，高台付坏3，鉢18，甕類580，甑6），須恵器片83点（坏47，甕36），土製品2点（袖材），金属製品2点（鎹ヵ，鉸具ヵ）が出土している。また，混入した陶器片1点（碗）も出土している。71は竈右脇，74とTP10は北西部，78は中央部，M19は西部，TP12は北東コーナー部の床面から，M18は南部の覆土下層，75～77は竈の覆土中層から，DP15は竈右袖部，DP16は竈左袖部，72・73，TP11は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第30図　第14号住居跡出土遺物実測図（1）



第31図　第14号住居跡出土遺物実測図（2）

第14号住居跡出土遺物観察表（第30・31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
71	土師器	坏	15.1	6.2	6.9	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り　内面ヘラミガキ	床面	70%　PL21
72	土師器	坏	[13.2]	(3.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形　内面ヘラミガキ	覆土中	10%
73	土師器	坏	－	(0.5)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り　底面墨書	覆土中	5%　PL24
74	須恵器	坏	[14.0]	(5.2)	[6.6]	長石・石英・黒色粒子	灰白	良	底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	20%
75	土師器	甕	[19.4]	(12.4)	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面ナデ　内面ヘラナデ	覆土中層	10%
76	土師器	小甕	[12.6]	(6.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	20%
77	須恵器	甕	[32.4]	(8.9)	－	長石・石英	黒褐 褐灰	良	口縁部外・内面自然釉付着	覆土中層	5%
78	須恵器	甕	－	(13.3)	[19.2]	長石・黒色粒子	褐灰	良	体部下端横位のヘラ削り　底部ヘラ記号ｘ	床面	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP10	土師器	鉢	長石・石英・赤色粒子	灰	体部外・内面ロクロナデ	床面	PL29

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP11	土師器	甕	長石・赤色粒子	にぶい橙	内面ハケナデ	覆土中	PL29
TP12	土師器	甕	長石・石英	明褐	内面ハケナデ	床面	PL29

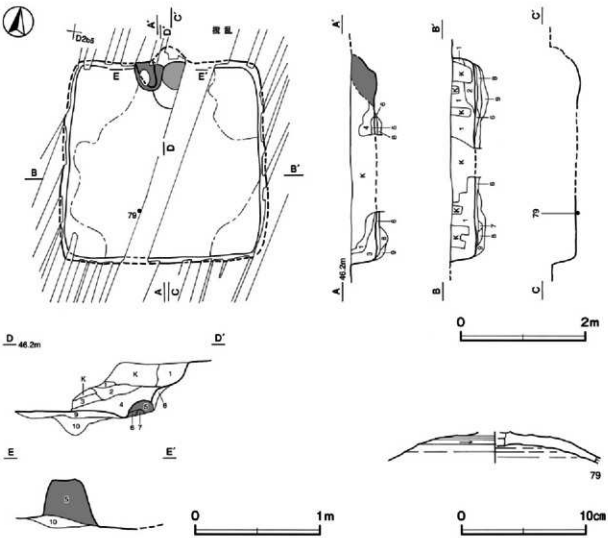
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP15	柚材	19.5	17.0	11.0	3360	長石・石英	ナデ	竈右袖部	
DP16	柚材	19.0	18.0	11.0	2840	長石・石英	ナデ	竈左袖部	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 18	銅ヵ	16.0	1.2	0.4	25.1	鉄	断面長方形	覆土下層	PL32
M 19	鉸具ヵ	(2.1)	(2.0)	0.5	(1.3)	銅	穿孔部1か所残存 楕円形	床面	PL32

第 15 号住居跡（第 32 図）

位置　調査区中央部の中央寄りＤ２b5 区，標高 46.0 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.28 ｍ，短軸 3.22 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 10゜－Ｗである。壁高は 40cmで，壁は外傾して立ち上がっている。



第 32 図　第 15 号住居跡・出土遺物実測図

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は南壁際の中央部と北東・南東コーナー部を土坑状に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を含む黒褐色土・褐色土を埋土して構築している。

竈　北壁の中央部に付設されている。撹乱が激しく，左袖部しか確認できなかった。規模は焚口部から煙道部まで96cmで，燃焼部幅は不明である。袖部は，床面に粘土を主体とした第5～7層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第8～10層は，掘方への埋土である。

竈土層解説

1　にぶい黄色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
2　明黄褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック少量，炭化物微量
3　暗褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化物中量，粘土ブロック少量
5　明赤褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量，ロームブロック微量
6　暗褐色　炭化物中量，粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
7　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　褐色　炭化粒子中量，粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
9　黒褐色　炭化粒子中量，ロームブロック・七本桜ブロック少量，焼土粒子微量
10　黒色　炭化粒子中量，ロームブロック少量

覆土　5層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第6～9層は，貼床の構築土である。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック中量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　黒色　ロームブロック少量（粘性強い）
4　にぶい褐色　ロームブロック多量
5　にぶい褐色　ロームブロック多量（粘性強い）
6　黒褐色　炭化粒子中量，ロームブロック・今市七本桜パミス少量，焼土粒子微量
7　褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　明褐色　ロームブロック・黒色土ブロック・炭化粒子微量
9　褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量

遺物出土状況　土師器片14点（坏1，高台付坏2，甕類11），須恵器片4点（坏3，蓋1）が出土している。また，混入した石鏃1点も出土している。79は，中央部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第15号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
79	須恵器	蓋	－	(2.4)	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け	床面	30%

第16号住居跡（第33・34図）

位置　調査区南部の東寄りD 2e8区，標高45.9 mの台地平坦部に位置している。

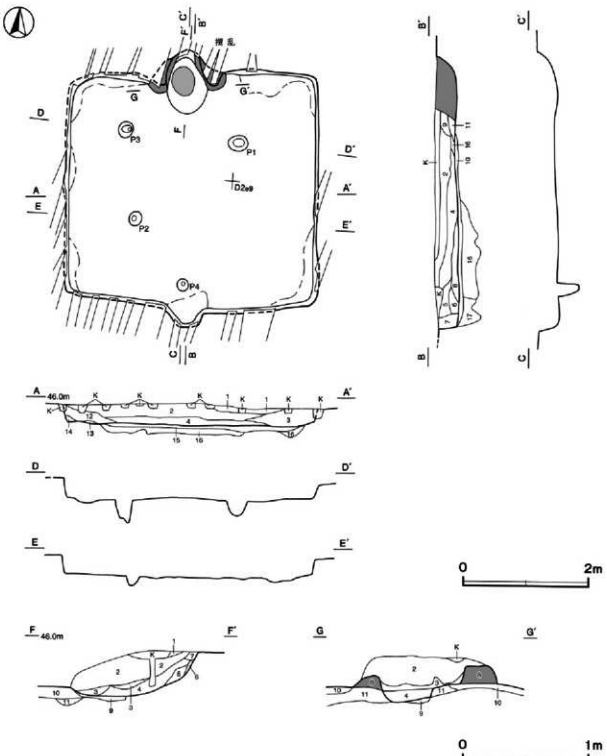
規模と形状　長軸4.00 m，短軸3.94 mの方形で，主軸方向はN－3°－Wである。壁高は32cmで，壁は外傾して立ち上がっている。南壁の中央部に奥行28cmほど掘り込んでいる半円状の張り出し部を有している。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は西壁際を南北方向に，東壁際を土坑状に掘り込み，ロームブロック・炭化物を含むにぶい黄褐色土を埋土して構築している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cmで，燃焼部幅は60cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第8層を積み上げて構築されている。火床部は5cmほど皿状に掘り込み，ロームブロックを含んだ第11層を埋めて構築しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

1 黒 褐 色 粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2 黒 褐 色 焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
3 暗 赤 褐 色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6 暗 褐 色 粘土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
7 にぶい黄色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8 暗 褐 色 粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
9 黒 褐 色 ロームブロック中量，粘土粒子微量
10 にぶい黄褐色 ロームブロック多量，炭化物少量，今市七本桜パミス微量
11 黄 褐 色 ロームブロック多量，炭化物少量，今市七本桜パミス微量



第33図 第16号住居跡実測図

ピット　4か所。P１～P３は深さ12～29cmで，位置と配置から主柱穴と考えられる。P４は深さ34cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

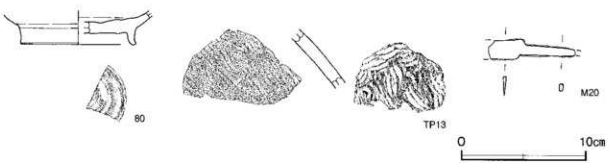
覆土　14層に分層できる。ロームブロックを含むことから埋め戻されている。第15～17層は貼床の構築土である。

土層解説

1　灰　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量（しまり弱）
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
7　黒　　色　ロームブロック少量（粘性弱）
8　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
11　灰　褐　色　ロームブロック微量
12　黒　　色　ロームブロック微量
13　にぶい褐色　ロームブロック多量
14　黒　褐　色　ローム粒子少量
15　にぶい黄褐色　ロームブロック・炭化物少量，今市七本桜パミス微量
16　にぶい黄褐色　ロームブロック・炭化物中量
17　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子・今市七本桜パミス微量

遺物出土状況　土師器片68点（坏10，高台付坏１，鉢１，甕類45，甑11），須恵器片51点（坏34，高台付坏１，蓋２，盤６，甕８），鉄製品１点（刀子）が出土している。また，混入した縄文土器片４点（深鉢）も出土している。80，TP13は竈の覆土中，M20は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



第34図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
80	須恵器	高台付坏	－	(2.7)	(9.0)	長石・石英・雲母	褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	須恵器	甕	長石	褐灰　灰	体部斜位の平行叩き　内面同心円文の当具痕	竈覆土中	PL29

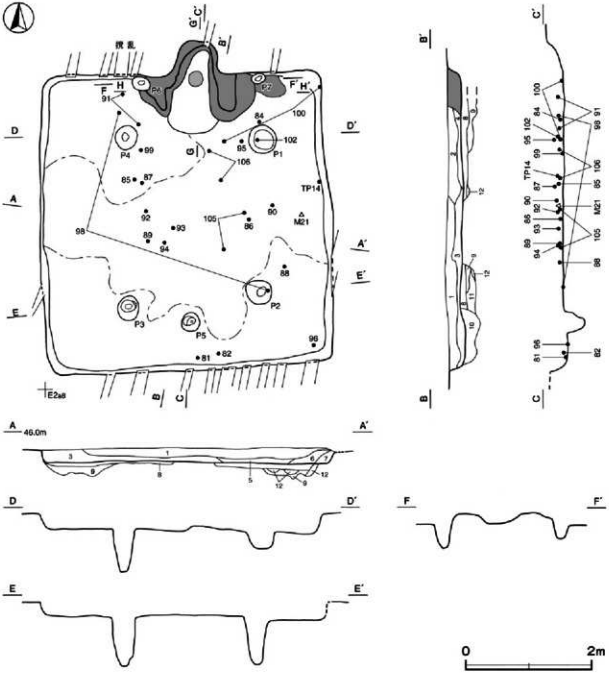
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	刀子	(6.8)	(1.6)	0.3	(6.1)	鉄	刃部欠損　刃部断面三角形　茎部断面方形	覆土中	PL33

第17号住居跡（第35～39図）

位置　調査区南部の東寄りＤ２j8区，標高45.7ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.76ｍ，短軸4.57ｍの方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｗである。壁高は24cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，南部と北西コーナー部を除いて踏み固められている。貼床は西壁際を南北方向に溝状に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子を含む黒色土・黒褐色土を埋土して構築している。



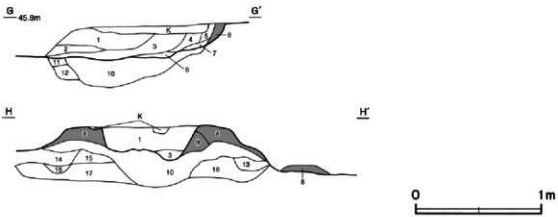
第35図　第17号住居跡実測図（1）

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで136cmで，燃焼部幅は56cmである。袖部は，床面に結土を主体とした第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・結土ブロック・炭化物少量	4	にぶい黄褐色	ロームブロック・結土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，結土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	5	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，結土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
3	灰　褐　色	焼土ブロック・結土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量	6	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・結土粒子少量

7　黒　　色　炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量
8　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
10　明 黄 褐 色　粘土ブロック多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
12　黒　褐　色　炭化粒子多量，粘土ブロック少量
13　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物微量
14　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
15　黒　　色　炭化粒子中量，焼土ブロック・今市七本桜パミス微量
16　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
17　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
18　黒　褐　色　炭化粒子多量，粘土ブロック中量



第36図　第17号住居跡実測図（2）

ピット　7か所。P 1 ～ P 4は深さ18 ～ 79cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ20cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ55cm，P 7は深さ23cmで，配置から補助柱穴の可能性が考えられる。

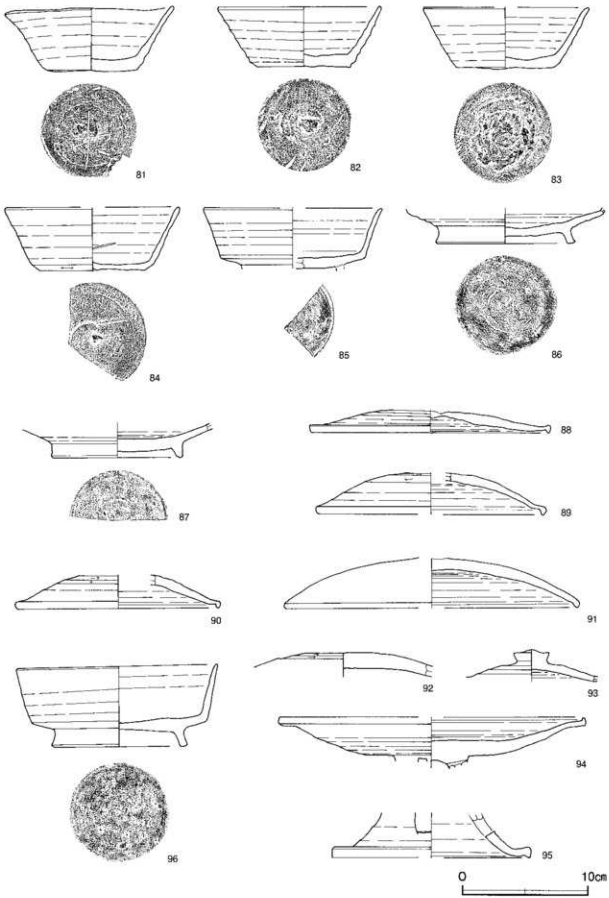
覆土　7層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第8 ～ 12層は貼床の構築土である。

土層解説

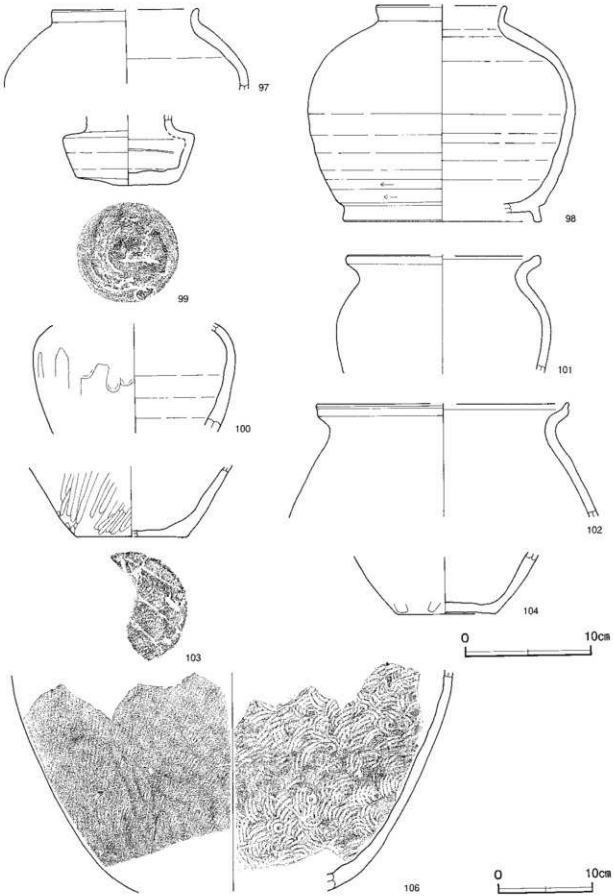
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　灰 黄 褐 色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・今市七本桜パミス少量
7　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子・今市七本桜パミス微量
8　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，・焼土粒子・今市七本桜パミス微量
9　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
10　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，今市七本桜パミス微量
12　灰　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片337点（甕類309点，瓶28），須恵器片151点（坏89，高台付坏8，蓋13，盤5，高盤2，壺3，長頸瓶3，甕28），鉄製品1点（斧），軽石1点が出土している。81は南部，96は南東コーナー部，99は北部，100は北東部，105は中央部の床面からそれぞれ出土し，98は北部と南東部の床面から出土した破片が接合したものである。82は南部，88・90，M21は東部，85・86・89・92 ～ 94・106は中央部，91は北部，84・102は北東部の覆土下層から，95は北東部，87は中央部，TP14は東壁際の覆土中層から，83・97・101・103・104，Q 2は覆土中からそれぞれ出土している。

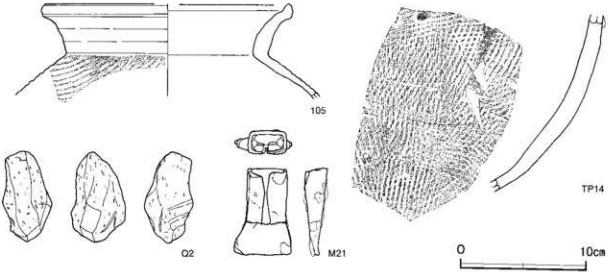
所見　時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。他の住居跡に比べ須恵器の出土数が多く，大甕や高盤などが出土している。



第37図 第17号住居跡出土遺物実測図（1）



第38図　第17号住居跡出土遺物実測図（2）



第 39 図　第 17 号住居跡出土遺物実測図（3）

第 17 号住居跡出土遺物観察表（第 37 ～ 39 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
81	縄恵器	坏	13.3	5.2	7.4	長石・石英・黒色粒子	褐灰	良	底部回転ヘラ切り後ナデ「×」のヘラ記号	床面	80%　PL22
82	縄恵器	坏	13.0	4.8	7.4	長石	黄灰	良	外・内面自然釉付着　底部回転ヘラ切り後ナデ「＝」のヘラ記号	覆土下層	75%　PL22
83	縄恵器	坏	[13.0]	4.9	7.7	長石・黒色粒子	黄灰	良	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	60%　PL22
84	縄恵器	坏	[13.8]	5.0	8.4	長石・雲母	灰	良	底部回転ヘラ切り後ナデ「＝」のヘラ記号	覆土下層	40%　PL22
85	縄恵器	高台付坏	[14.2]	(4.8)	－	長石	灰	良	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土下層	20%
96	縄恵器	高台付坏	15.8	6.5	10.4	長石・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　ヘラ描きによる二本のヘラ記号	床面	90%　PL25
86	縄恵器	鉢	－	(2.9)	11.2	長石・石英	黄灰	良	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土下層	50%
87	縄恵器	鉢	－	(2.8)	10.2	長石・黒色粒子	灰	良	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土中層	20%
88	縄恵器	蓋	19.0	(1.9)	－	長石・黒色粒子	褐灰	良	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け　外面自然釉付着　重ね焼きの痕跡	覆土下層	90%　PL23
89	縄恵器	蓋	[18.0]	(3.3)	－	長石・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け	覆土下層	30%
90	縄恵器	蓋	[15.8]	(2.7)	－	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	30%
91	縄恵器	蓋	[23.2]	(4.0)	－	長石・石英	褐灰 オリーブ褐	普通	外面自然釉	覆土下層	30%
92	縄恵器	蓋	－	(1.9)	－	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	20%
93	縄恵器	蓋	－	(2.5)	－	長石・黒色粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け　外面自然釉付着	覆土下層	10%
94	縄恵器	高盤	[24.2]	(4.0)	－	長石・石英	黄灰	良	外面自然釉付着　二カ所に透窓の切れ込み	覆土下層	20%　PL28
95	縄恵器	高盤	－	(3.6)	[15.6]	長石・黒色粒子	褐灰	良	脚部方形の透窓の切れ込み　内面自然釉付着	覆土中層	5％　PL28
97	縄恵器	壺	[11.6]	(6.5)	－	長石	黄灰 オリーブ黒	普通	ロクロ成形	覆土中	10%
98	縄恵器	壺	[10.2]	17.1	[15.7]	長石・黒色粒子	黄灰	良	ロクロ成形　体部外面・口縁部内面に自然釉付着	床面	10%
99	縄恵器	短頸壺	－	(5.6)	8.1	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ　体部外面自然釉	床面	80%　PL23
100	縄恵器	瓶	－	(8.7)	－	長石・石英・黒色粒子	灰黄 灰オリーブ	良	ロクロ成形　外・内面自然釉	床面	10%
101	土師器	甕	[15.2]	(9.3)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面磨耗により調整不明　内面ナデ	覆土中	10%
102	土師器	甕	[19.8]	(8.9)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面磨耗により調整不明　内面ヘラナデ	覆土下層	5％
103	土師器	甕	－	(5.6)	[8.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラミガキ	覆土中	5％
104	土師器	甕	－	(4.8)	7.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	5％
105	縄恵器	甕	[19.2]	(7.3)	－	長石・石英	灰オリーブ 褐灰黄	普通	体部斜位の平行叩き　体部外面・口縁部内面自然釉付着	床面	5％
106	縄恵器	大甕	－	(23.1)	－	長石・石英・赤色粒子	灰	良	体部斜位の平行叩き　内面同心円文の当具痕	覆土下層	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP14	縄恵器	甕	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	体部縦位の平行叩き後，横位の平行叩き	覆土中層	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	軽石	7.2	4.2	3.9	27.4	軽石	一部に加工痕	覆土中	PL31

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 21	斧	6.9	4.5	1.9	94.7	鉄	一枚の鉄板で成形　折り曲げ痕跡	覆土下層	PL32

第 18A・B 号住居跡（第 40 ～ 42 図）

位置　調査区南部の中央寄りＤ 2j6 区，標高 45.8 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第 19 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　第 18A 号住居跡は長軸 4.67 m，短軸 4.44 m の方形で，主軸方向はＮ－ 1 °－Ｗである。壁高は 30cm で，壁は外傾して立ち上がっている。第 18B 号住居跡は長軸 4.10 m，短軸 3.94 m の方形で，主軸方向はＮ－ 1 °－Ｗである。壁高は 40cm で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。東・西壁下の一部で壁溝を確認した。貼床はほぼ平坦に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を含む黒色土・黒褐色土を埋土して構築している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 136cm で，燃焼部幅は 58cm である。袖部は，床面に粘土を主体とした第８・９層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 42cm 掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。なお第 15・16 層は第 18B 号住居跡の竈材である。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2	浅黄色	粘土ブロック多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子少量，粘土ブロック微量
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量
5	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
6	にぶい赤褐色	粘土ブロック少量，焼土粒子微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量
8	にぶい黄褐色	粘土ブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
9	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10	明黄褐色	粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
11	暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
12	黒色	炭化粒子多量，焼土粒子少量，粘土ブロック微量
13	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量
14	暗褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
15	にぶい黄色	粘土粒子中量，炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
16	黒褐色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量

ピット　２か所。Ｐ１は深さ 24cm で，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は深さ 30cm で，性格は不明である。

ピット１土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2	黒色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

覆土　５層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況から自然堆積である。第６～ 10 層は貼床の構築土である。

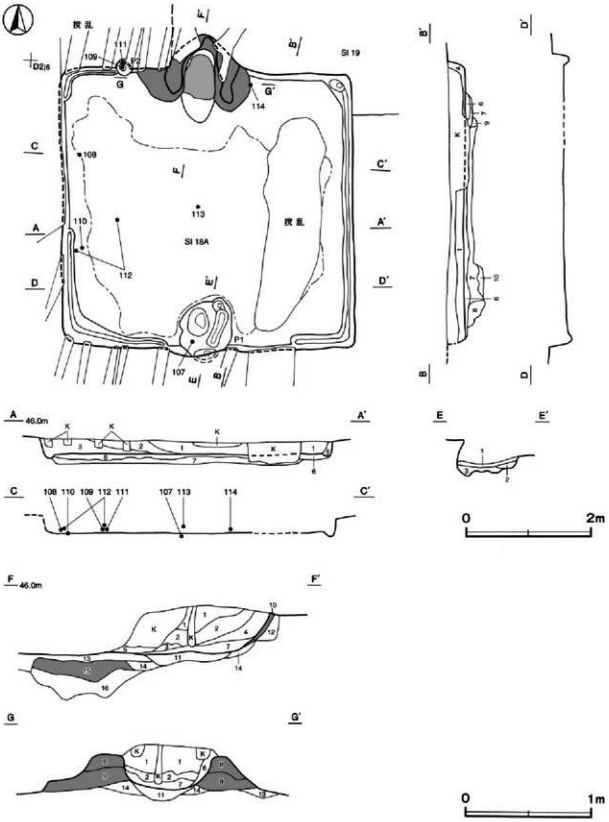
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2	黒色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4	黒褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，今市七本桜パミス微量
5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量
7	黒色	炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量
8	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量
9	黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
10	黒色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量

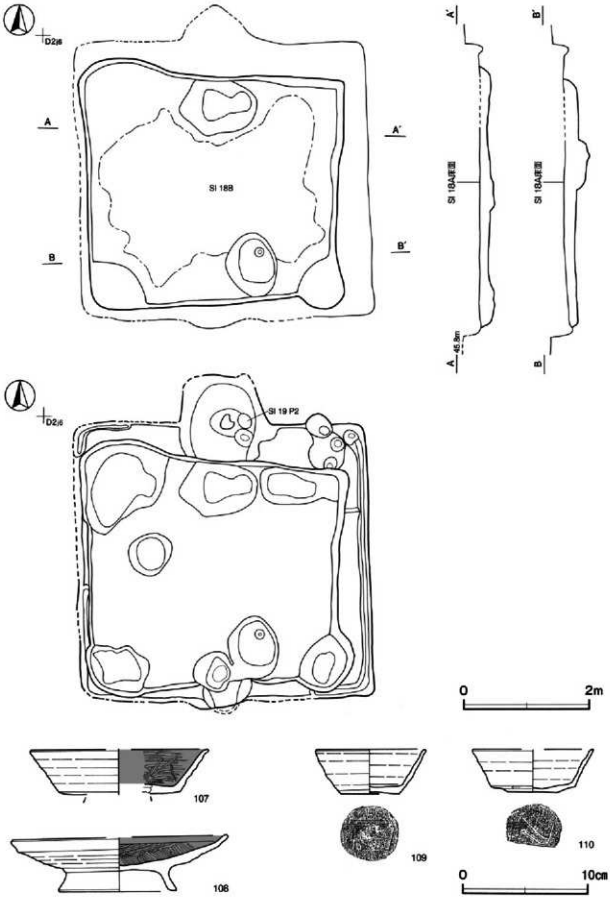
遺物出土状況　土師器片 350 点（坏 10，甕類 340），須恵器片 99 点（坏 68，高台付坏３，蓋２，盤１，甕 16，瓶９），石器１点（砥石）が出土している。また，混入した陶磁器片２点（皿，小杯）も出土している。110 は西壁際の床面から，108・112 は西側，113 は中央部，114 は竈右側の覆土下層から，107 はＰ１の覆土上層

から，109・111はＰ２の覆土中層から，Ｑ３は覆土中からそれぞれ出土している。

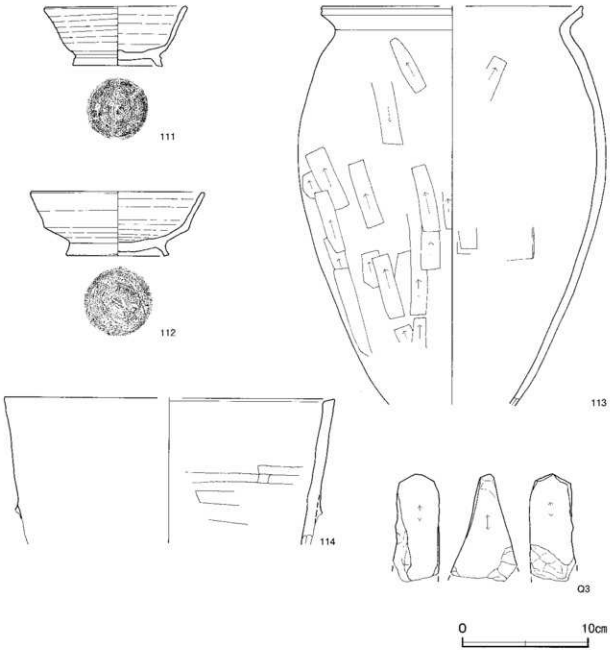
所見　時期は，出土土器から第18A号住居跡が９世紀中葉，第18B号住居跡が９世紀中葉以前に比定できる。主軸方向が変わらないことや，掘方調査から第18B号住居跡を北東側へ拡張したものと考えられる。



第40図　第18A・B号住居跡実測図



第41図　第18A・B号住居跡・第18A号住居跡出土遺物実測図



第42図　第18A号住居跡出土遺物実測図

第18 A号住居跡出土遺物観察表（第41・42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
109	須恵器	坏	8.7	3.5	4.6	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	P 2覆土中層	95%　PL22
110	須恵器	坏	[9.6]	3.4	4.2	長石・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り「万ヵ」の刻書	床面	55%　PL24
107	土師器	高台付坏	[14.0]	3.5	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	良	内面横位のヘラミガキ	P 1覆土上層	25%
111	須恵器	高台付坏	11.2	4.8	7.1	長石・石英・針状鉱物・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け　「×」のヘラ記号　内面重ね焼きの痕跡	P 2覆土中層	100%　PL23
112	須恵器	高台付坏	13.5	5.1	8.2	長石・黒色粒子・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	95%　PL23
108	土師器	甕	[17.1]	4.5	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け　内面ヘラミガキ	覆土下層	85%　PL24
113	土師器	甕	[20.6]	[30.8]	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	35%　PL25
114	須恵器	瓶	[26.2]	[11.5]	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　貼り付け把手痕	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	砥石	(8.5)	5.2	3.7	(133.8)	凝灰岩	砥面3面　他は破断面	覆土中	PL31

第 19 号住居跡（第 43・44 図）

位置　調査区南部の中央寄りＤ 2 17 区，標高 45.8 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　南西コーナー部を第 18A・B 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.47 m，短軸 4.38 m の方形で，主軸方向はＮ－ 90゜である。壁高は 35cm で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。確認できた範囲では，壁下に壁溝がほぼ全周している。貼床は東・西壁際を南北方向に溝状に掘り込み，ローム ブロック・粘土ブロック炭化粒子を含む黒褐色土を埋土して構築している。

竈　2 か所。竈 2 は袖部が壊され，埋め戻されていたことから竈 2 から竈 1 に作り替えが行われている。竈 1 は東壁の北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 94cm で，燃焼部幅は 40cm である。袖部は，床面に粘土を主体とした第 10 層を積み上げて構築されている。火床部は 11cm ほど皿状に掘り込み，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子を含んだ第 15・16 層を埋めて構築しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 20cm 掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈 2 は北壁の東寄りに付設されている。壁際に袖材の粘土が一部確認できた。規模は不明で，火床部は 13cm ほど皿状に掘り込み，ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロックを含んだ第 14 層を埋めて構築している。煙道部は壁外に 36cm 掘り込まれている。

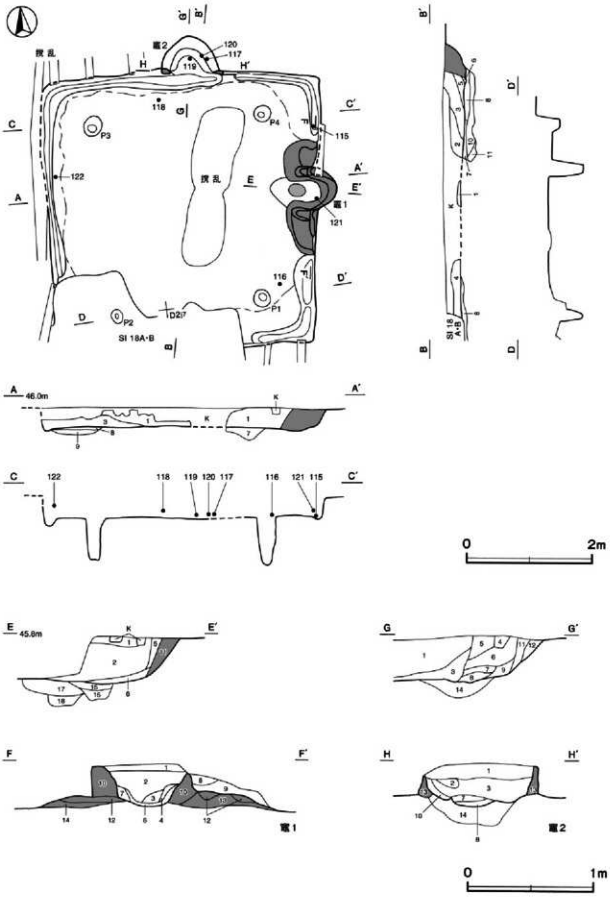
竈 1 土層解説

1　黒　褐　色　ローム ブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
2　黒　　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
3　黒　　色　炭化物中量，焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　黄　褐　色　焼土ブロック多量，粘土ブロック中量，ローム ブロック・炭化物微量
5　にぶい黄橙色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
7　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム ブロック少量
8　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム ブロック・炭化粒子微量
9　にぶい黄褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10　黄　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11　にぶい黄褐色　ローム ブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
12　黒　　色　炭化粒子中量，ローム ブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
13　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
15　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
16　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム ブロック・粘土粒子微量
17　明　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，今市七本桜パミス微量
18　褐　　色　炭化粒子少量，ローム ブロック・今市七本桜パミス微量

竈 2 土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム ブロック・粘土ブロック微量
2　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量
3　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
4　明 黄 褐 色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物微量
5　褐　　色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化物微量
7　灰　褐　色　灰多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
8　明 赤 褐 色　炭化粒子少量，焼土ブロック微量
9　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
10　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
12　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
13　にぶい黄色　粘土ブロック多量
14　にぶい黄褐色　ローム ブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

ピット　4 か所。Ｐ 2 は第 18 号Ｂ住居跡の掘方の調査で確認した。Ｐ 1 ～ Ｐ 4 は深さ 50 ～ 74cm で，配置から主柱穴と考えられる

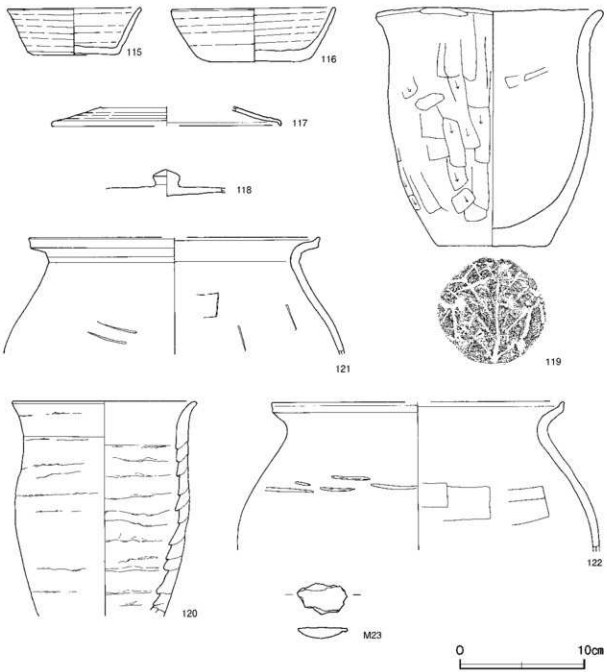


第43図　第19号住居跡実測図

覆土　6層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第7～11層は貼床の構築土である。

土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量	7	黒　褐　色	ロームブロック・今市七本桜パミス中量、粘土ブロック微量
2	灰黄褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量	8	明　褐　色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、今市七本桜パミス微量
3	黒　褐　色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量	9	褐　　色	炭化粒子少量、ロームブロック・今市七本桜パミス微量
4	黒　　色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・粘土ブロック・今市七本桜パミス微量	10	黒　褐　色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
5	暗　褐　色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量	11	黒　褐　色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量			



第44図　第19号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片422点（坏5，鉢2，甕類373，甑42），須恵器片33点（坏23，高台付坏1，蓋4，盤1，甕4），鉄滓1点が出土している。また，混入した陶器片1点（皿）も出土している。115は竈1の左側，116は南東部の床面から，118は北部の覆土下層，122は西壁際の覆土中層，121は竈1の燃焼部から，119と120は竈2の燃焼部から並列して逆位の状態で，M23は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉に比定できる。

第19号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
115	須恵器	坏	10.6	3.8	6.4	長石・石英・黒色粒子	黄灰 黒褐	良	底部回転ヘラ切り　外面自然釉付着	床面	70%　PL22
116	須恵器	坏	12.9	4.3	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部ヘラ切り	床面	90%　PL22
117	須恵器	蓋	[18.2]	(1.6)	－	長石	灰	普通	ロクロ成形　内面自然釉	竈2燃焼部	10%
118	須恵器	蓋	－	(2.1)	－	長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロ成形　外面自然釉	覆土下層	20%
119	土師器	甕	17.8	19.8	8.6	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　内面一部ヘラナデ	竈2燃焼部	100%　PL26
120	土師器	甕	14.5	(17.0)	－	長石・石英・赤色粒子・雲母	橙	普通	体部外面ナデ　内面輪積み痕	竈2燃焼部	70%　PL26
121	土師器	甕	[23.0]	(9.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ状工具痕　内面ヘラナデ	竈1燃焼部	10%
122	土師器	甕	[23.2]	(11.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ状工具痕　内面ヘラナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M23	鉄滓	2.5	4.0	1.0	8.4	鉄	椀状滓ヵ　磁性なし	覆土中	PL33

第20号住居跡（第45～47図）

位置　調査区南部の中央寄りD 2i5区，標高45.8 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第5号土坑を掘り込んでいる。

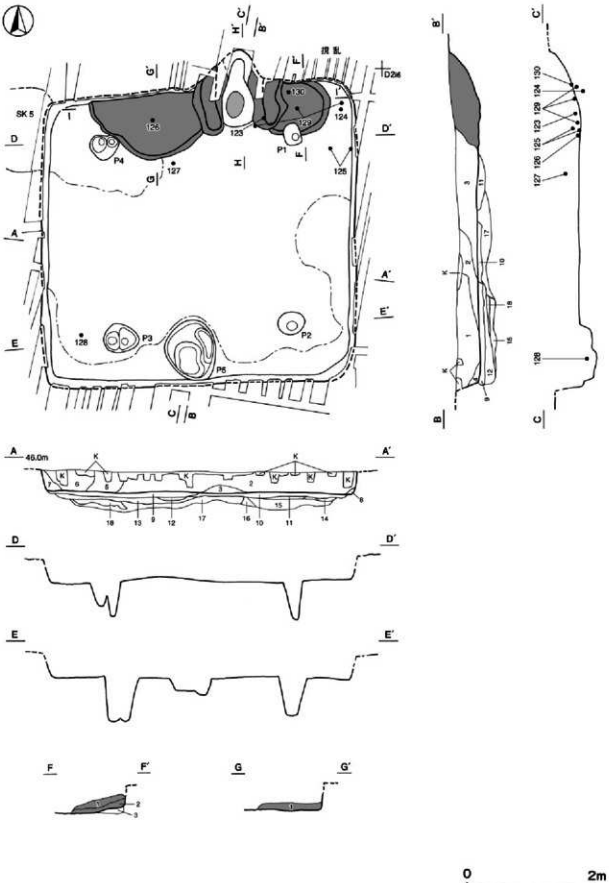
規模と形状　長軸4.97 m，短軸4.80 mの方形で，主軸方向はN－3°－Eである。壁高は40cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。竈の両袖脇に粘土を利用した棚状施設を有している。貼床はほぼ平坦に掘り込み，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含む黒色土・黒褐色土を埋土して構築している。

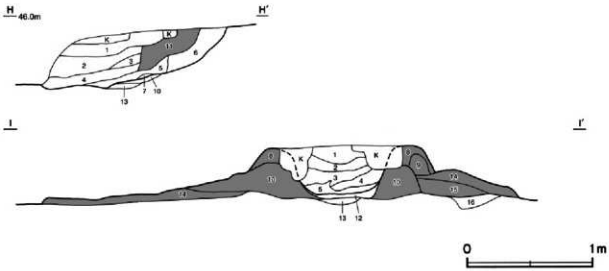
竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで106cmで，燃焼部幅は54cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第8～10層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　オリーブ褐色　粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
3　黄　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
4　にぶい黄色　粘土ブロック多量，焼土ブロック微量
5　赤　褐　色　焼土ブロック多量，粘土ブロック・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子微量
7　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
9　黄　褐　色　粘土ブロック少量，炭化粒子中量
10　黄　褐　色　粘土ブロック多量
11　明黄褐色　粘土多量
12　浅黄橙色　灰多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
13　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子微量
14　暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化物微量
15　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子少量
16　にぶい黄色　焼土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量



第45図　第20号住居跡実測図（1）



第46図　第20号住居跡実測図（2）

ピット　5か所。P１～P４は深さ60～74cmで，配置から主柱穴と考えられる。P５は深さ24cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

棚状施設　竈の両袖脇に粘土を貼ったもので，長さ74～168cm，幅84～104cmである。構築土は２層に分層でき，粘土ブロックを主体として床面に構築されている。

棚状施設土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化物微量
2　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子少量
3　にぶい黄色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量

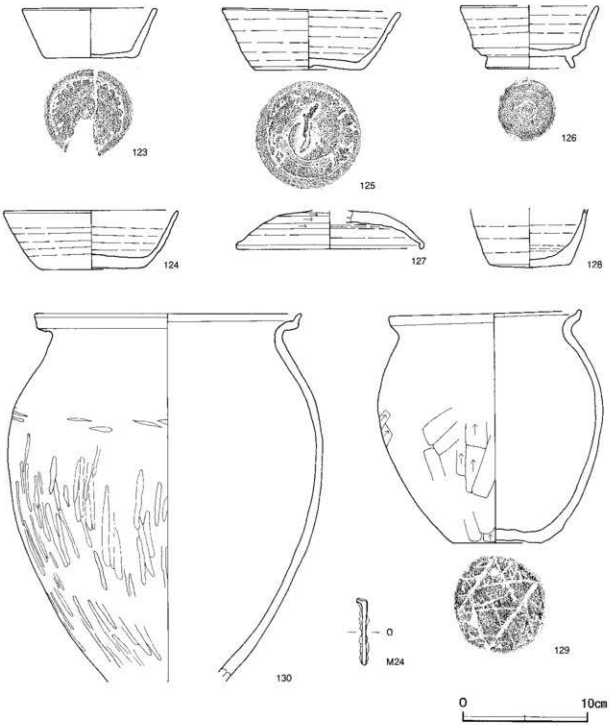
覆土　8層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第9～18層は貼床の構築土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・今市七本桜パミス少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　灰 黄 褐 色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・今市七本桜パミス微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・今市七本桜パミス微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
8　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
9　黒　　色　炭化物少量，ロームブロック微量
10　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
11　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
12　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック微量
13　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
14　黒　褐　色　ローム粒子少量
15　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
16　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック微量
17　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
18　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子中量

遺物出土状況　土師器片395点（甕類393，甑２），須恵器片90点（坏65，高台付坏５，蓋17，甕２，壺１），灰釉陶器片１点，鉄製品３点（釘１，鉄滓２）が出土している。また，流れ込んだ陶器片１点（碗）も出土している。124は掘方の底面から，128は南西部，129は北東部の床面から，126は左側の棚状施設の上面，130は右側の棚状施設の上面から，123は竈の右袖部，125は北東部の覆土下層から床面，127は北部の覆土中層から，M24は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第 47 図　第 20 号住居跡出土遺物実測図

第 20 号住居跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
123	須恵器	坏	10.5	4.0	7.4	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部ヘラ切り後ナデ「一」のヘラ記号	竈石袖部	80%　PL22
124	須恵器	坏	13.7	4.6	8.0	長石・黒色粒子	灰	普通	底部ヘラ切り後ナデ　体部外面一部自然釉付着	覆土	60%　PL22
125	須恵器	坏	14.0	5.1	8.3	長石・黒色粒子	灰	良	底部回転ヘラ切り　重ね焼きの痕跡　外面自然釉付着	覆土下層～床面	60%　PL22
126	須恵器	高台付坏	(10.6)	4.9	7.1	長石・石英・針状鉱物・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	焼成施設上面	60%　PL23
127	須恵器	蓋	14.7	(3.1)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	覆土中層	40%　PL23
128	須恵器	壺	－	(4.7)	6.4	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り　体部外面自然釉付着	床面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
129	土師器	甕	15.0	18.4	7.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	70%　PL26
130	土師器	甕	21.0	(29.3)	–	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下端ヘラミガキ　内面ナデ	柵状施設上面	60%　PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 24	釘	5.3	0.9	0.9	4.8	鉄	上端部方形　断面長方形	覆土中	

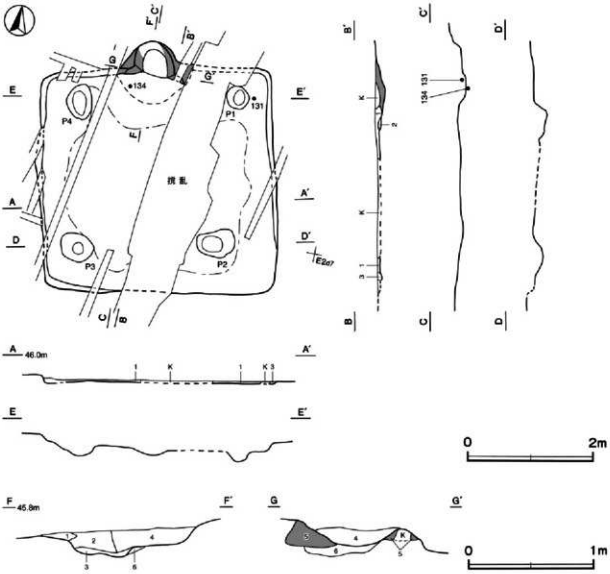
第 21 号住居跡（第 48・49 図）

位置　調査区南部の中央寄りＥ 2c6 区，標高 45.6 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.79 m，短軸 3.50 m の方形で，主軸方向はＮ－ 12゜－Ｗである。壁高は 12cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cmで，燃焼部幅は 40cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第５層を積み上げて構築されている。火床部は 16cmほど皿状に掘り込み，ロームブ



第 48 図　第 21 号住居跡実測図

ロック・焼土ブロック・炭化粒子を含んだ第6層を埋土して構築されており，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている

竈土層解説

1　灰　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量
5　にぶい赤褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黄　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量

ピット　4か所。P 1 ～ P 4 は深さ 12 ～ 20cmで，配置から主柱穴の可能性が考えられる。

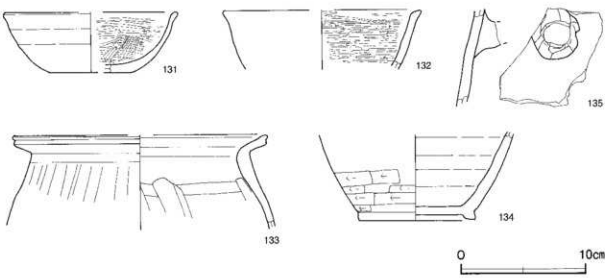
覆土　3層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 136 点（坏 24，甕類 112），須恵器片 33 点（坏 9，高台付坏 3，蓋 1，甕 18，甑 2）が出土している。また，流れ込んだ陶器片 2 点（碗）と磁器片 1 点（碗）も出土している。131 は北東コーナー部，134 は竈左袖部前の床面から，132・133・135 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 49 図　第 21 号住居跡出土遺物実測図

第 21 号住居跡出土遺物観察表（第 49 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
131	土師器	坏	[13.6]	4.8	[6.3]	長石・石英	にぶい黄黄灰	普通	底部摩耗により調整不明　内面ヘラミガキ	床面	40%
132	土師器	鉢	[15.8]	(4.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラミガキ	覆土中	10%
134	須恵器	長頸瓶	－	(7.0)	9.2	長石・雲母	灰	普通	体部下端横位のヘラ削り　底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	床面	10%
133	土師器	甕	[20.0]	(7.4)	－	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ハケナデ	覆土中	10%
135	須恵器	甑	－	(7.7)	－	長石・石英	褐灰	普通	貼り付け把手	覆土中	5%

第 22 号住居跡（第 50・51 図）

位置　調査区中央部の中央寄り C 2c6 区，標高 46.0 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第 4 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.50 m，短軸4.13 mの方形で，主軸方向はN－77°－Eである。壁高は8㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，踏み固められていない。貼床はほぼ平坦に掘り込まれ，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含む黒色土・黒褐色土で構築している。

竈　東壁のやや北寄りに付設されている。左袖部のみが残存していた。規模は焚口部から煙道部まで92㎝で，燃焼部幅は不明である。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

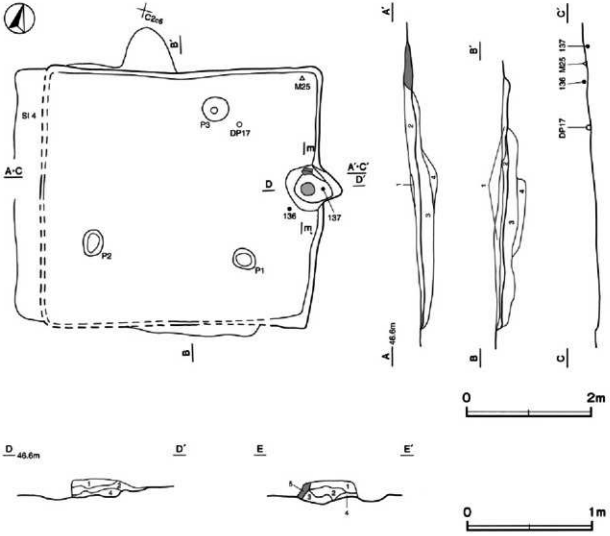
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　暗　褐　色　砂粒少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗 赤 褐 色　今市七本桜パミス多量，ローム粒子中量

ピット　3か所。P１～P３は，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　2層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。第３・４層は貼床の構築土である。

土層解説

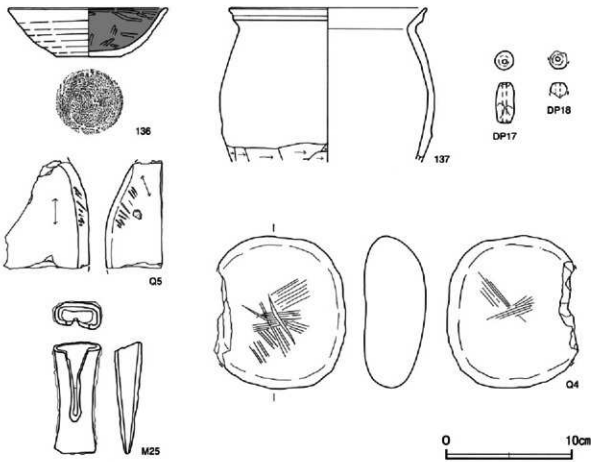
1　黒　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　色　ロームブロック少量，炭化粒子極微量
3　黒　褐　色　今市七本桜パミス少量，ロームブロック微量
4　黒　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第50図　第22号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片302点（坏42，高台付坏5，甕類252，甑3），須恵器片50点（坏36，蓋5，瓶3，甕6），土製品2点（管状土錘），石器2点（砥石ヵ），鉄製品7点（斧1・不明6）が出土している。136は竈の前面，DP17・M25は北東部の床面から，137は竈の煙道部付近から，DP18，Q4・5は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第51図　第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表（第51図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
136	土師器	坏	12.4	3.9	5.3	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り　内面ヘラミガキ	床面	90%　PL23
137	土師器	甕	15.5	(12.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	竈煙道部	30%　PL27

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP17	管状土錘	3.2	1.5	0.35	8.1	長石・黒色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL20
DP18	管状土錘	(1.2)	[1.5]	0.35	(1.6)	長石	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	砥石ヵ	12.2	(10.5)	4.9	(879.0)	凝灰岩	砥面2面　両面に溝状の研磨痕有り	覆土中	PL31
Q5	砥石ヵ	(8.5)	(6.8)	(4.1)	(326.0)	凝灰岩	砥面2面	覆土中	PL31

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 25	斧	8.8	3.7	2.0	129.5	鉄	一枚の鉄板で成形　折り曲げ痕跡	床面	PL.32

第 23 号住居跡（第 52 図）

位置　調査区北部の中央寄り B 2i4 区，標高 46.5 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3 号掘立柱建物に掘り込まれている。

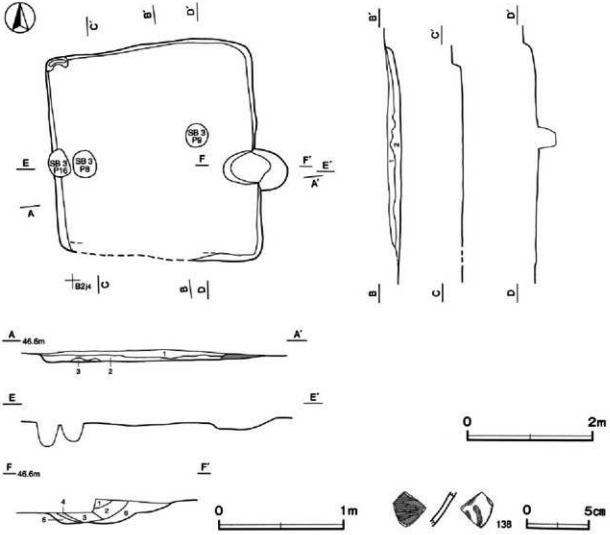
規模と形状　長軸 3.51 m，短軸 3.28 m の方形で，主軸方向は N－87°－E である。壁高は 13cm で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　平坦な床で，踏み固められていない。

竈　東壁のやや南寄りに付設されている。掘方のみが確認できた。規模は不明である。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
4　黒　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・今市七本桜パミス微量
5　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量



第 52 図　第 23 号住居跡・出土遺物実測図

覆土　3層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示しているため自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子・今市七本桜パミス微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・今市七本桜パミス微量
3　黒　　色　ロームブロック・今市七本桜パミス少量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片49点（坏23，甕類26），須恵器片3点（坏，蓋，甕），灰釉陶器片1点が出土している。また，混入した陶器片1点も出土している。138は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉から10世紀前葉とみられる。

第23号住居跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
138	土師器	坏	－	(2.7)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形　体部外面墨書	覆土中	5％　PL.24

第24号住居跡（第53・54図）

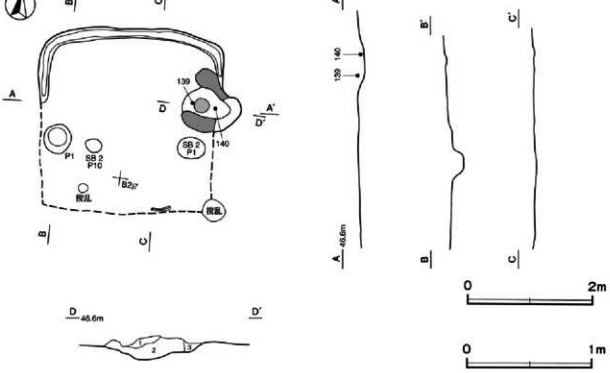
位置　調査区北部の中央寄りB 2i7区，標高46.4 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第2号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　北壁の壁溝と竈，出入り口施設に伴うピットのみを確認した。推定規模は長軸2.94 m，短軸2.92 mの方形で，主軸方向はN－84°－Eである。

床　ほぼ平坦で，踏み固められていない。西壁下から北，東壁下にかけて壁溝が確認できた。

竈　東壁の北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cmで，燃焼部幅は44cmである。袖部は，床面に粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



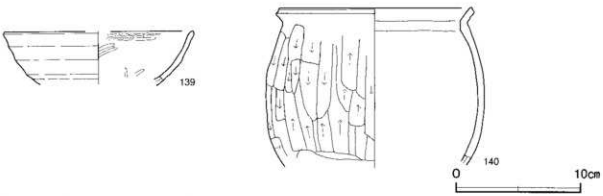
第53図　第24号住居跡実測図

竈土層解説
1　黒　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　砂粒中量，炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　深さ16cmで，西壁際の中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況　土師器片14点（坏1，甕類13），須恵器片1点（甕）が出土している。139・140は竈の燃焼部からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第54図　第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
139	土師器	坏	(15.0)	(4.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形　内面ヘラミガキ	竈燃焼部	10%
140	土師器	甕	15.2	(12.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈燃焼部	50%　PL26

第25号住居跡（第55図）

位置　調査区中央部の東寄りC 2e9区，標高46.2 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第27号住居に掘り込まれている。

規模と形状　削平されているため竈の掘方と掘方への埋土しか確認できなかった。推定規模は長軸4.55 m，短軸4.32 mの方形で，主軸方向はN－23°－Wである。

床　ほぼ平坦な貼床で，踏み固められていない。貼床はほぼ平坦に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子を含む黒褐色土を埋土して構築している。

竈　掘方しか確認できなかった。規模は不明である。火床部は床面から深さ23cmほど土坑状に掘り込み，ロームブロックを含んだ第1・2層を埋土して構築されており，火床面は確認できなかった。

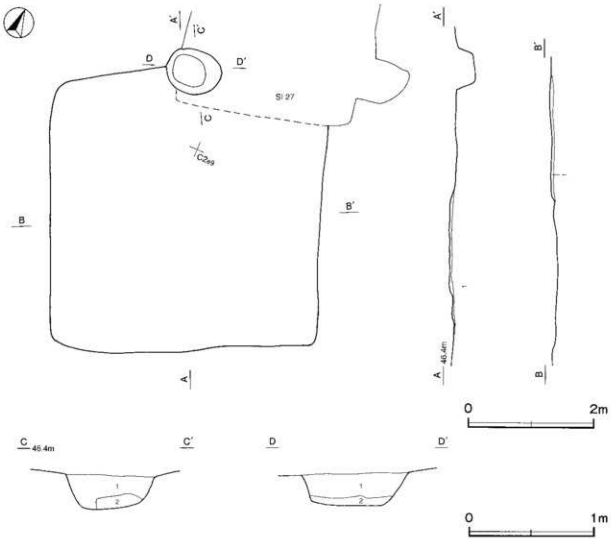
竈土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量，今市七本桜パミス微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土ブロック中量，今市七本桜パミス微量

覆土　掘方への埋土である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片4点（坏1，甕類3）が出土している。また，混入した縄文土器片1点（深鉢）も出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器片から9世紀から10世紀代とみられる。



第55図　第25号住居跡実測図

第26号住居跡（第56・57図）

位置　調査区南部の中央寄りＥ２a4区，標高45.7ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.18ｍ，短軸3.12ｍの方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｅである。壁高は10cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床はほぼ平坦に掘り込み，ロームブロック・粘土ブロックを含む灰褐色土・極暗褐色土を埋土して構築している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで，燃焼部幅は44cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第４・５層を積み上げて構築されている。火床部は床面から17cmほど皿状に掘り込み，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を含んだ第６・７層を埋土して構築されており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　灰　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　にぶい橙色　粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　2か所。P１は深さ12cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P２は深さ19cmで，性格は不明である。

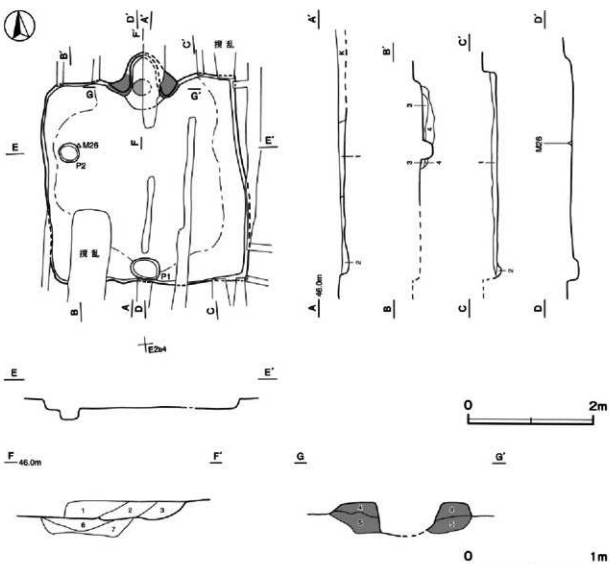
覆土　2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第３・４層は貼床の構築土である。

土層解説

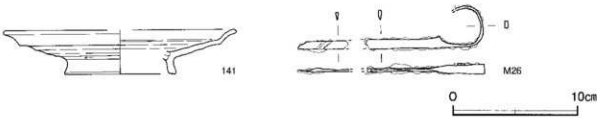
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　灰　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片21点（坏２，甕類19），須恵器片６点（坏５，盤１），鉄製品１点（鉄ヵ）が出土している。また，混入した陶器片１点（瓶）も出土している。M26は西部の床面，141は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第56図　第26号住居跡実測図



第 57 図　第 26 号住居跡出土遺物実測図

第 26 号住居跡出土遺物観察表（第 57 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
141	須恵器	甕	(18.2)	3.5	(8.8)	長石	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 26	鉄ヵ	(13.5)	3.5	0.8	(134)	鉄	刃部断面三角形	床面	PL.33

第 27 号住居跡（第 58 図）

位置　調査区中央部の東寄りＣ２d9 区，標高 46.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第 25 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　削平されているため竈の掘方しか確認できなかった。推定規模は長軸 2.90 m，短軸 2.73 m の方形で，主軸方向はＮ－ 76°－Ｅである。

床　ほぼ平坦で，踏み固められていない。

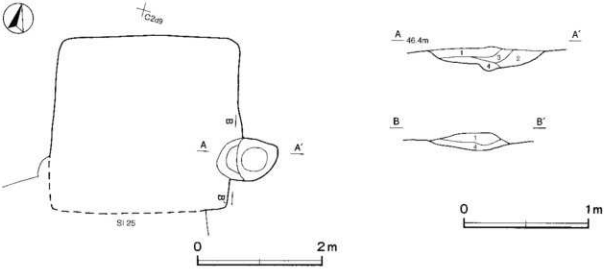
竈　東壁に付設されている。掘方は，床面から皿状に 13cm掘り込まれている。規模は，不明である。

竈土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子・今市七本桜パミス微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック・今市七本桜パミス微量

遺物出土状況　土師器片２点(高台付坏)，須恵器片 13 点(甕)が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から９世紀から 10 世紀代とみられる。



第 58 図　第 27 号住居跡実測図

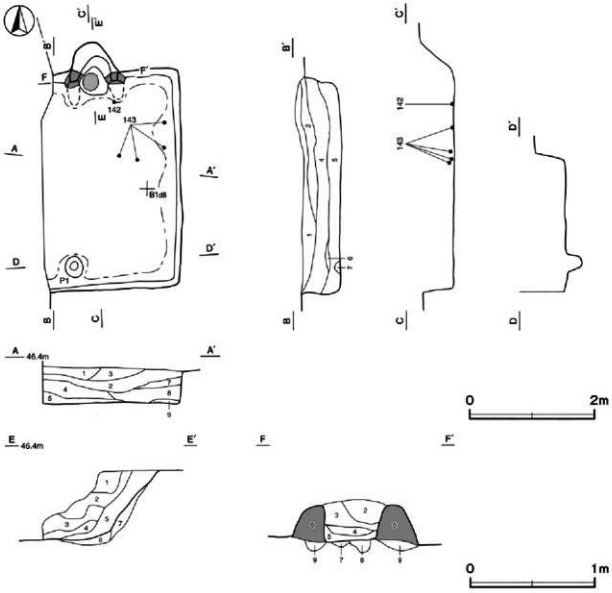
第 28 号住居跡（第 59・60 図）

位置　調査区北部の西寄りＢ１c7 区，標高 46.2 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　西部が調査区域外に延びているため，南北軸は 3.47 mで，東西軸は 2.21 mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は 45 ～ 55cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。

竈　北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 84cmで，燃焼部幅は 44cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第６層を積み上げて構築されている。火床部は床面から５cmほど皿状に掘り込み，ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックを含んだ第７・８層を埋土して構築されており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 16cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第 59 図　第 28 号住居跡実測図

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・今市七本桜パミス微量
2	にぶい黄褐色	粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化物・今市七本桜パミス微量
4	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子微量
5	にぶい黄橙色	粘土ブロック多量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
8	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
9	明 黄 褐 色	粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット　深さ24cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

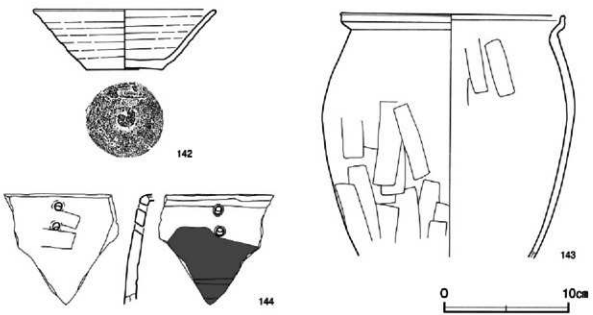
覆土　9層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子・今市七本桜パミス微量
2	暗　褐　色	今市七本桜パミス少量，炭化物・ローム粒子微量
3	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子・今市七本桜パミス微量
4	黒　褐　色	今市七本桜パミス中量，粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
5	黒　　色	炭化粒子中量，今市七本桜パミス少量，粘土ブロック・ローム粒子微量
6	黒　　色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，今市七本桜パミス微量
7	黒　　色	炭化粒子少量，粘土ブロック・ローム粒子・今市七本桜パミス微量
8	黒　　色	炭化粒子中量，粘土ブロック・ローム粒子・今市七本桜パミス微量
9	にぶい黄褐色	ロームブロック中量，今市七本桜パミス少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片103点（坏1，甕類102），須恵器片9点（坏8，甕1）が出土している。142は竈前の床面，143は北東部の覆土下層から床面にかけて，144は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第60図　第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
142	須恵器	坏	14.2	4.8	6.2	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り	床面	90%　PL23
143	土師器	甕	17.6	(19.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層～床面	60%　PL27
144	土師器	甑	－	(8.7)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　補修孔二孔	覆土中	5%　PL28

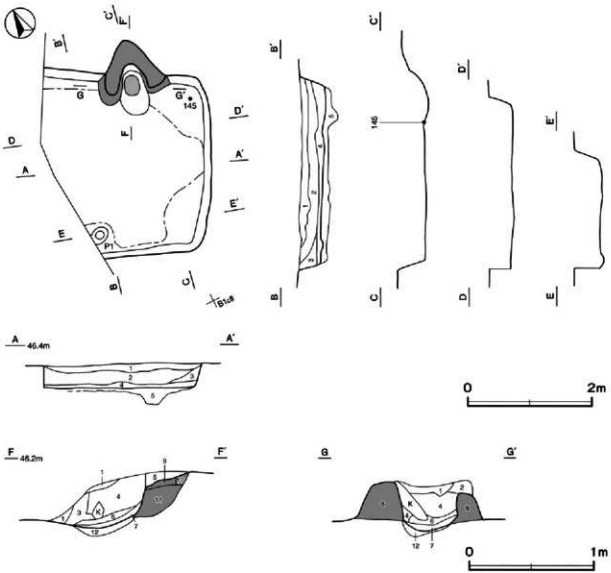
第29号住居跡（第61・62図）

位置　調査区北部の西寄りＢ１b7区，標高46.1ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　西部が調査区域外に延びているため，南北軸は2.81ｍで，東西軸は2.70ｍしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－28°－Ｅである。壁高は42cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。貼床はほぼ平坦に掘り込まれ，ロームブロック・炭化粒子・今市七本桜パミスを含む黒褐色土を埋土して構築している。

竈　北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm で，燃焼部幅は36cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第８層を積み上げて構築されている。火床部は床面から５cmほど皿状に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子を含んだ第12層を埋土して構築されており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に14cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第61図　29号住居跡実測図

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土ブロック・今市七本桜パミス少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　黄　褐　色　粘土ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子少量
5　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子微量
8　にぶい黄色　粘土ブロック多量
9　灰 黄 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子少量
10　にぶい褐色　粘土ブロック多量
11　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ロームブロック少量
12　明　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　深さ8cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

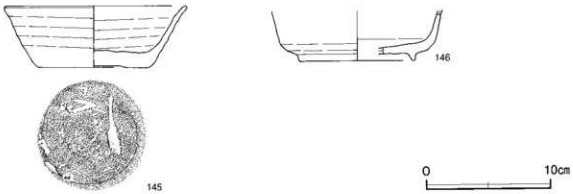
覆土　4層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示しているため自然堆積である。第5層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・今市七本桜パミス少量，炭化物微量
2　にぶい黄褐色　粘土ブロック・炭化粒子・今市七本桜パミス少量，ロームブロック微量
3　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・今市七本桜パミス微量
4　灰 黄 褐 色　ロームブロック・今市七本桜パミス少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・今市七本桜パミス少量

遺物出土状況　土師器片6点（坏1，高台付坏1，甕類4），須恵器片2点（坏，高台付坏）が出土している。また，混入した弥生土器片2点（壺），石器1点（掻器）も出土している。145は東コーナー部の床面，146は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第62図　第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
145	須恵器	坏	14.4	4.9	8.8	長石・石英	灰褐	普通	底部回転ヘラ削り	床面	80%　PL23
146	須恵器	高台付坏	－	(4.0)	[9.2]	長石・石英	オリーブ黒 灰黒	普通	体部外面・底部内面自然釉付着　底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土中	5%

第30号住居跡（第63・64図）

位置　調査区北部の東寄りB 2e9区，標高46.3 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北壁と西壁は削平されているため，規模は東西軸が4.05 mで，南北軸は2.44 mしか確認できなかっ

た。平面形は方形もしくは長方形で，主軸方向はN－79°－Eである。壁高は残存している部分では6㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，確認できた範囲では踏み固められていない。南壁下で壁溝を確認した。

竈　東壁の南寄りに付設されている。袖部は残存しておらず，地山を削り残した基部のみが確認できた。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
4　黒　褐　色　炭化粒子・今市七本桜パミス少量，焼土ブロック微量
5　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

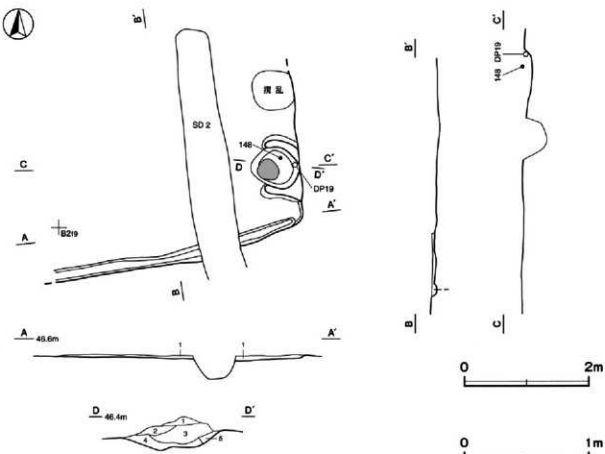
覆土　単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

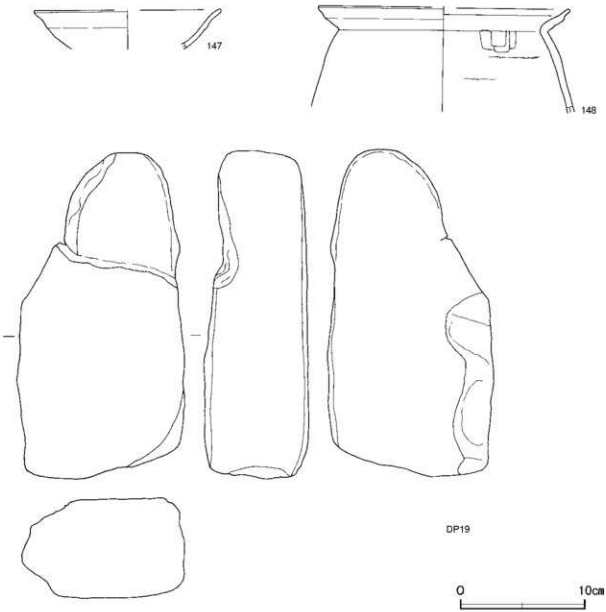
1　黒　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片35点（坏6，高台付坏2，甕類27），土製品2点（袖材）が出土している。また，混入した石器1点（凹石）も出土している。148は竈の燃焼部，DP19は竈の煙道部，147は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第63図　第30号住居跡実測図



第 64 図　第 30 号住居跡出土遺物実測図

第 30 号住居跡出土遺物観察表（第 64 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
147	土師器	坏	[14.8]	(3.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形	覆土中	20%
148	土師器	甕	[19.7]	(8.2)	－	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部外面ナデ	竈燃焼部	10%

番号	器種	長さ	厚さ	幅	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP19	軸材	26.0	8.3	13.3	2460	長石・石英	ナデ	竈煙道部	PL30
DP20	軸材	18.5	11.3	7.5	916	長石・石英	ナデ	竈左袖部	

第 31 号住居跡（第 65 図）

位置　調査区北部の東寄り B 2h8 区，標高 46.4 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第 5 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　削平されているため，東・西壁の一部と南西・北西コーナーの壁溝しか確認できなかった。壁溝の周り方から，長軸4.53 m，短軸4.41 mの方形と推定される。主軸方向はN－5°－Wである。壁高は不明である。

床　平坦で，踏み固められていない。

竈　北壁のやや東寄りに掘方のみが確認できた。規模は，不明である。

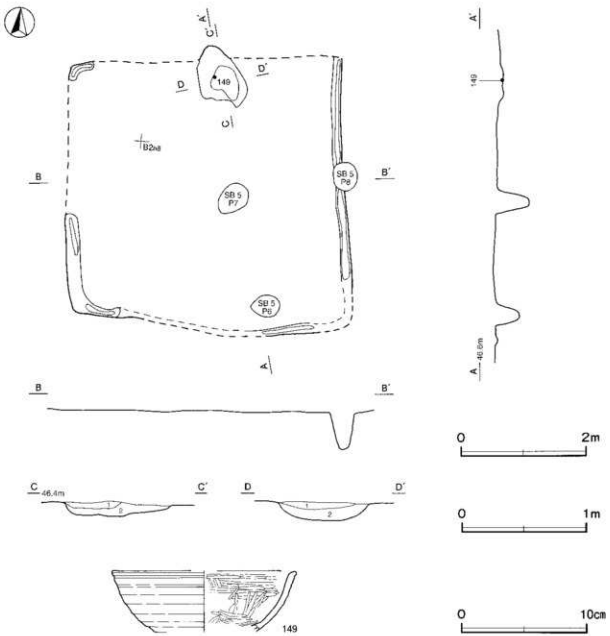
竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量

2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック極微量

遺物出土状況　土師器片２点（坏，甕類）が出土している。149は竈の火床部から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第65図　第31号住居跡・出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
149	土師器	坏	(14.4)	(4.8)	－	石英	にぶい褐 褐灰	普通	内面横ナデ後ヘラミガキ	竈火床部	20%

第32号住居跡（第66図）

位置　調査区中央部の西寄りB 2i0区，標高46.4 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　南部を第9号住居，北西部を第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状　第9号住居に掘り込まれているため，東西軸は3.00 mで，南北軸は2.20 mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－0°である。壁高は10cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，確認できた範囲では踏み固められていない。

竈　北壁の中央部に掘方と構築材と思われる粘土のみが確認できた。規模は，不明である。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は確認できなかった。

竈土層解説

1　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　にぶい褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ロームブロック微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量

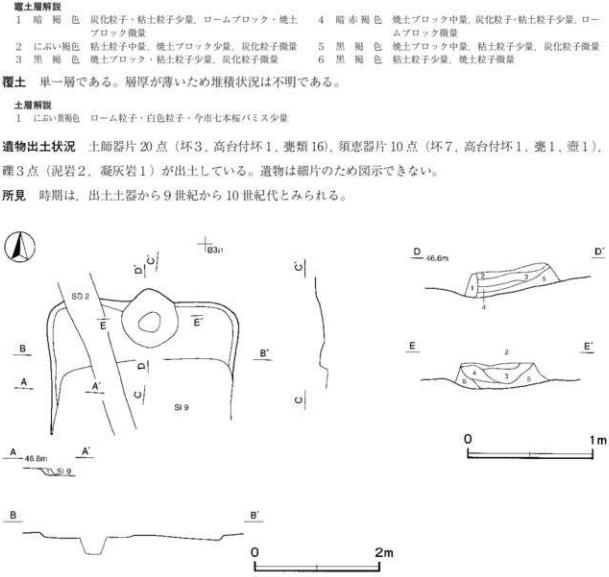
覆土　単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1　にぶい黄褐色　ローム粒子・白色粒子・今市七本桜パミス少量

遺物出土状況　土師器片20点（坏3，高台付坏1，甕類16），須恵器片10点（坏7，高台付坏1，甕1，壺1），礫3点（泥岩2，凝灰岩1）が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から9世紀から10世紀代とみられる。



第66図　第32号住居跡実測図

第 33 号住居跡（第 67 図）

位置　調査区南部の東寄りＤ３h1 区，標高 45.9 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　東部が調査区域外に延びているため，南北軸は 3.80 ｍで，東西軸は 0.62 ｍしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定され，長軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁高は 10㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，確認できた範囲では踏み固められていない。確認できた範囲には壁溝が巡っている。

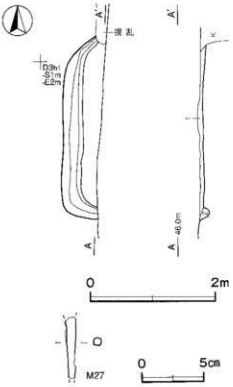
覆土　２層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック・今市七本桜パミス微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片５点（甕類），須恵器片１点（坏），鉄製品１点（釘）が出土している。M27 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀から 10 世紀代とみられる。



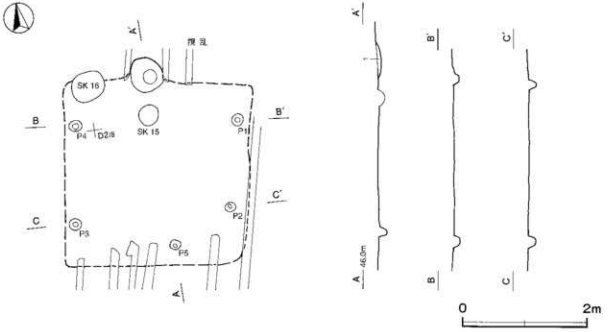
第 67 図　第 33 号住居跡・出土遺物実測図

第 33 号住居跡出土遺物観察表（第 67 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	釘	(4.8)	0.9	0.6	(5.6)	鉄	上・下端部欠損　断面方形	覆土中	

第 34 号住居跡（第 68 図）

位置　調査区南部のやや東寄りＤ２i8 区，標高 45.8 ｍの台地平坦部に位置している。



第 68 図　第 34 号住居跡実測図

重複関係　第15・16号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　削平されているため竈の掘方とピットしか確認できなかった。竈・主柱穴の広がりから，規模は長軸2.96 m，短軸2.94 mの方形と推定される。主軸方向はN－8°－Eである。

床　平坦で，踏み固められていない。

竈　北壁のやや西寄りに掘方のみが確認できた。規模は，不明である。

竈土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土ブロック微量

ピット　5か所。P 1～P 4は深さ6～12cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ10cmで，南壁際の中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

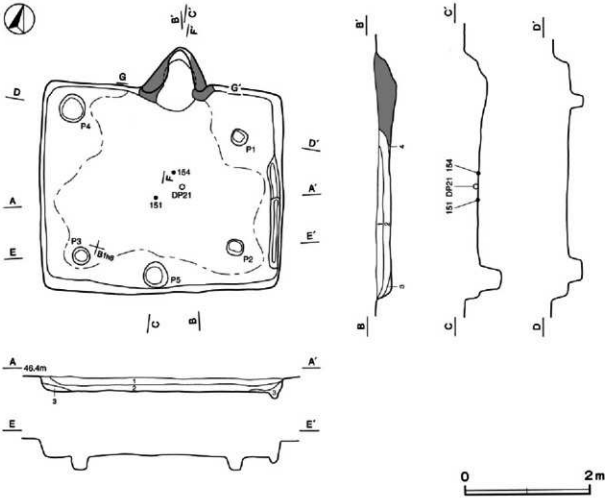
遺物出土状況　土師器片2点（甕類）が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から9世紀から10世紀代とみられる。

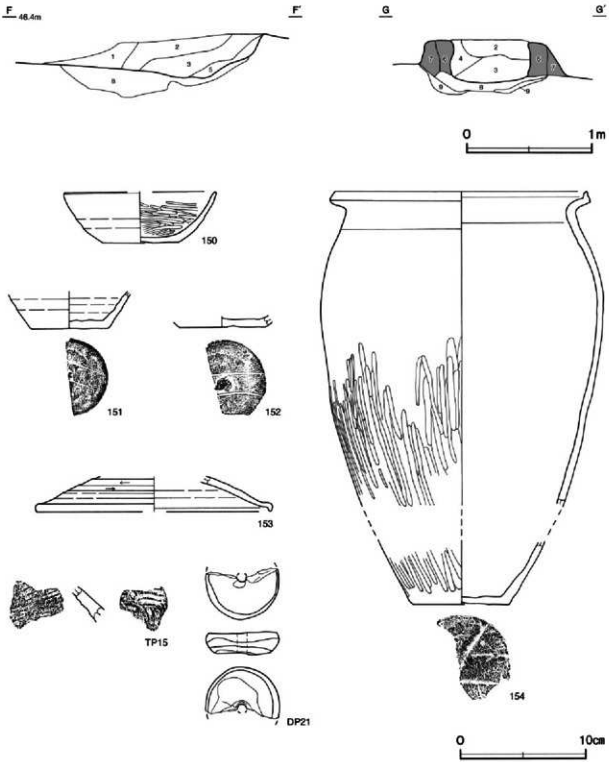
第35号住居跡（第69・70図）

位置　調査区北部の西寄りB 1 g8区，標高46.3 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.86 m，短軸3.34 mの長方形で，主軸方向はN－14°－Wである。壁高は28cmで，壁は外傾して立ち上がっている。



第69図　第35号住居跡実測図



第70図　第35号住居跡・出土遺物実測図

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cmで，燃焼部幅は50cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第6・7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から22cmほど皿状に掘り込み，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子を含んだ第8層を埋土して構築されており，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・粘土粒子微量
2　灰　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子微量
3　にぶい褐色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
5　明　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　明　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　5か所。P 1 ～ P 4は深さ20 ～ 22cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ34cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片143点（坏5，甕類138），須恵器片24点（坏17，蓋1，盤1，甕5），土製品1点（紡錘車）が出土している。151・154，DP21は中央部の床面から，150・152は竈の燃焼部の覆土中から，153，TP15は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第35号住居跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
150	土師器	坏	[12.4]	5.0	5.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り　内面ヘラミガキ	竈燃焼部	15%
151	須恵器	坏	－	(3.0)	6.0	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り「丹」状のヘラ記号	床面	30%
152	須恵器	坏	－	(0.8)	7.0	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ「＝」のヘラ記号	竈燃焼部	10%
153	須恵器	蓋	[18.6]	(2.8)	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%
154	土師器	甕	19.9	[32.8]	7.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラミガキ　内面ヘラナデ	床面	70%　PL27

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP15	須恵器	甕	長石・石英	褐灰	体部肩位の平行叩き　内面同心円文の当具痕	覆土中	PL29

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP21	紡錘車	5.8	1.8	0.8	(40.0)	土（長石・石英・赤色粒子）	ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL30

第36号住居跡（第71図）

位置　調査区北部の西寄りB 1 g9区，標高46.3 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　ピットと竈の掘方しか確認できなかった。ピットの配置から規模は南北軸は3.25 m，東西軸は3.13 mの方形と推定される。主軸方向はN－3°－Eである。

床　平坦で，踏み固められていない。

竈　北壁に付設されている。掘方のみが確認できた。規模は，不明である。

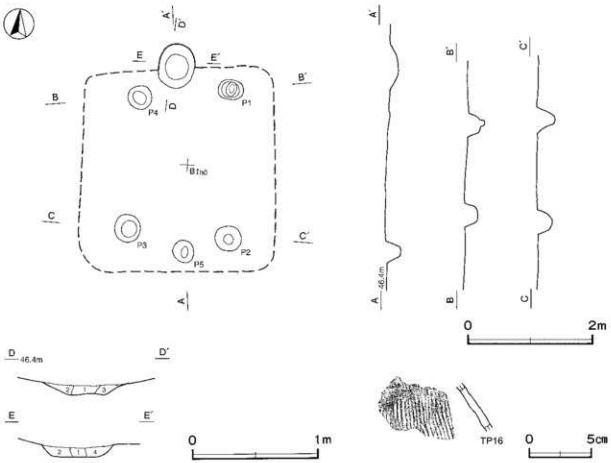
竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　明　褐　色　ローム粒子中量
4　極暗褐色　ローム粒子微量

ピット　5か所。P 1 ～ P 4は深さ20 ～ 30cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ20cmで，南壁際の中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況　須恵器片1点（甕）が出土している。TP16は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀から10世紀代とみられる。



第71図　第36号住居跡・出土遺物実測図

第36住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP16	須恵器	甕	長石・石英・雲母	にぶい橙	体部縦位の平行叩き	覆土中	PL29

第38号住居跡（第72図）

位置　調査区北部のやや西寄りＢ２il区，標高46.3ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.73ｍ，短軸2.75ｍの長方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁高は８㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。壁下に壁溝がほぼ全周している。中央部の南北184㎝，東西100㎝の範囲に粘土が遺存していた。

竈　北壁の東寄りに掘方のみが確認できた。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量　　2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ８㎝で，配置から主柱穴と考えられる。

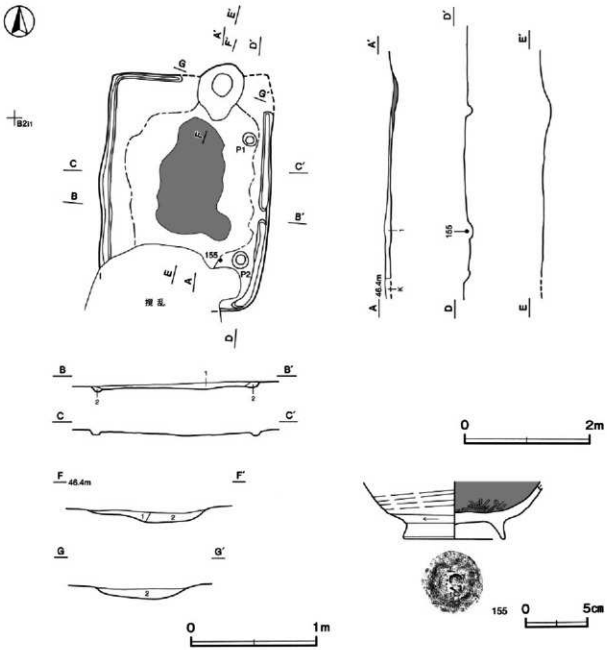
覆土　２層に分層できる。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量　　2　極暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片47点（坏17，高台付坏2，甕類28），須恵器片3点（坏1，甕2），灰釉陶器片1点が出土している。155は，南東部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第72図　第38号住居跡・出土遺物実測図

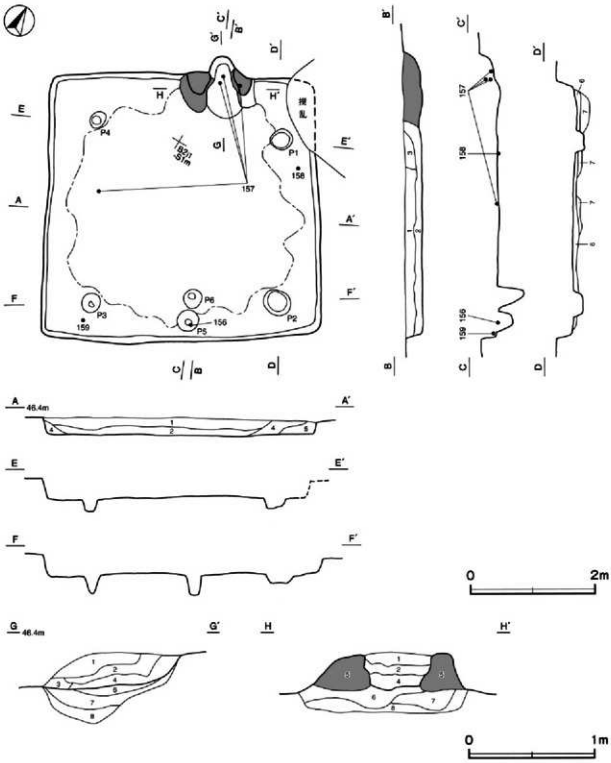
第38号住居跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
155	土師器	高台付坏	－	(4.5)	7.9	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転糸切り後，高台貼り付け　内面ヘラミガキ	床面	40%

第 39 号住居跡（第 73・74 図）

位置　調査区北部のやや西寄り B 2j1 区，標高 46.2 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　一辺 4.33 m の方形で，主軸方向はN－24°－Wである。壁高は 20 ～ 30cm で，壁は外傾して立ち上がっている。



第 73 図　第 39 号住居跡実測図

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床はほぼ平坦に掘り込まれ，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子を含む黒褐色土を埋土して構築している。

竈　北西壁の北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cmで，燃焼部幅は50cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第5層を積み上げて構築されている。火床部は床面から27cmほど皿状に掘り込み，焼土ブロック・炭化粒子を含んだ第6～8層を埋土して構築されており，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

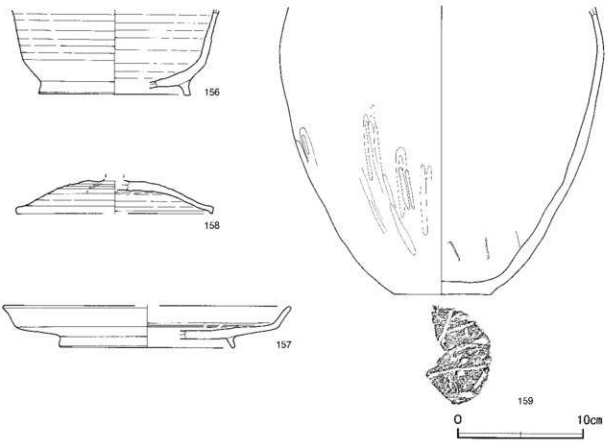
1　黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
5　明　褐　色　粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量
7　黒　　色　炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
8　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット　6か所。P1～P4は深さ10～25cmで，配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ20cm，P6は深さ40cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。第6・7層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量



第74図　第39号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 91 点（坏 6，高台付坏 1，甕類 84），須恵器片 20 点（坏 12，高台付坏 1，盤 1，蓋 3，甕 1，壺 2）が出土している。また，混入した石製品 1 点（石棒）も出土している。156，159 は南部，158 は北東部の床面から，157 は竈の燃焼部からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 39 号住居跡出土遺物観察表（第 74 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
156	須恵器	高台付坏	－	(6.8)	(12.0)	長石・石英	褐灰 灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	床面	20%
157	須恵器	盤	(22.8)	3.3	(13.8)	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　口縁部付近自然釉付着	竈燃焼部	40%
158	須恵器	蓋	(15.4)	(2.7)	－	長石・石英	にぶい褐 灰	普通	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け	床面	40%
159	土師器	甕	－	(22.8)	(7.8)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下半ヘラミガキ	床面	30%

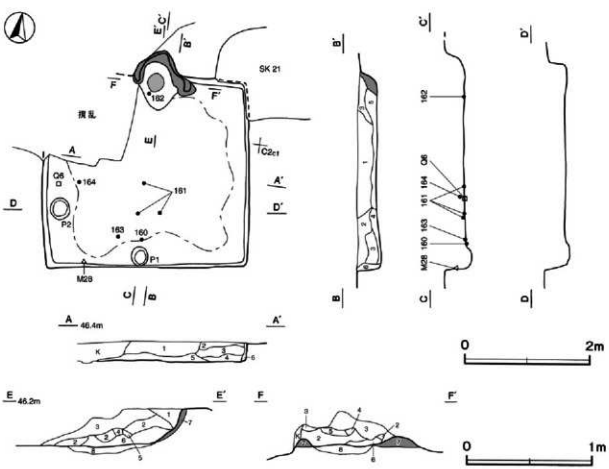
第 40 号住居跡（第 75・76 図）

位置　調査区中央部の北西寄り C 1c0 区，標高 46.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第 21 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.29 m，短軸 3.03 m の方形で，主軸方向はN－6°－Wである。壁高は 32cm で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。



第 75 図　第 40 号住居跡実測図

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92cmで，燃焼部幅は46cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cmほど皿状に掘り込み，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含んだ第8層を埋土して構築されており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子微量
2　黄　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　にぶい黄褐色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
5　にぶい黄橙色　ローム粒子・粘土粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

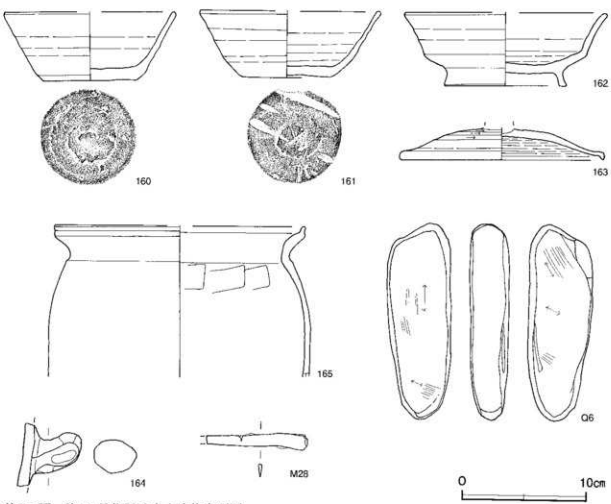
ピット　2か所。P 1は深さ8cmで，南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2は深さ6cmで，性格は不明である。

覆土　6層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
2　にぶい黄橙色　ローム粒子・粘土粒子少量
3　にぶい黄褐色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　黄　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片110点（坏5，甕類105），須恵器片27点（坏20，高台付坏2，蓋1，盤2，甕1，甑1），石器1点（砥石），鉄製品1点（刀子）が出土している。160・163は南部，161は中央部，Q 6は西部の床面，



第76図　第40号住居跡出土遺物実測図

162は竈の燃焼部，164は西部の覆土下層，M28は南壁際の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第40号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
160	須恵器	坏	[13.5]	5.5	7.5	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り	床面	60%
161	須恵器	坏	[14.1]	5.3	7.2	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り　籐状圧痕	床面	60%　PL23
162	須恵器	高台付坏	16.2	5.8	[9.8]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	竈燃焼部	20%
163	須恵器	蓋	16.2	(2.5)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け	床面	50%　PL23
165	土師器	甕	[19.8]	(12.0)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中	10%
164	須恵器	甑	－	(5.0)	－	長石・石英	灰	普通	ナデ整形　貼り付け把手	覆土下層	5%　PL28

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	砥石	10.8	8.7	2.7	312.0	凝灰岩	砥面2面	床面	PL31

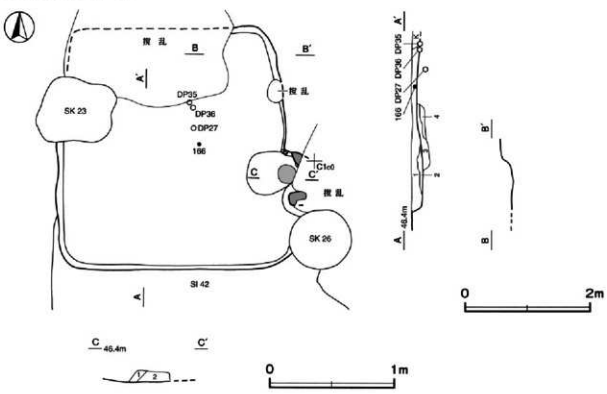
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 28	刀子	(8.1)	1.2	0.3	(6.8)	鉄	茎部欠損　茎部断面三角形	覆土中層	

第41号住居跡（第77・78図）

位置　調査区中央部の北西寄りＣ１c9区，標高46.3ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第42号住居跡を掘り込み，北部と竈煙道部を撹乱，西部の一部を第23号土坑，南東コーナー部を第26号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.85ｍ，短軸3.65ｍの方形で，主軸方向はＮ－85°－Ｅである。壁高は17cmで，壁は外傾して立ち上がっている。



第77図　第41号住居跡実測図

床　ほぼ平坦な貼床で，踏み固められていない。貼床はほぼ平坦に掘り込まれ，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子を含む黒褐色土・褐色土を埋土して構築している。

竈　東壁のやや南寄りに付設されているが，火床部しか確認できなかった。火床面は赤変硬化している。

竈土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

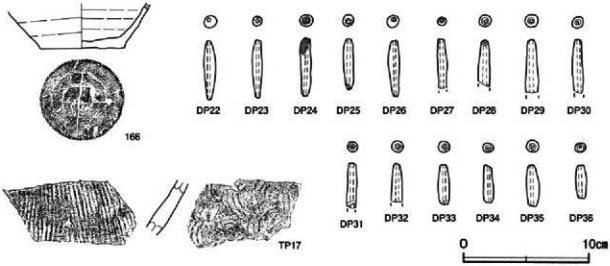
覆土　2層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。第3・4層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片56点（坏6，甕類50），須恵器片13点（坏11，甕2），土製品17点（管状土錘）が出土している。166は中央部，DP35・36は北部の床面，DP27は貼床の構築土から，TP17，DP22～DP26・DP28～DP34は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第78図　第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
166	須恵器	坏	－	(3.6)	6.6	長石・石英・針状鉱物・雲母	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り　ヘラ記号	床面	50%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP17	須恵器	甕	長石・石英	にぶい橙	体部破片の平行叩き　内面同心円文の当具痕	覆土中	PL29

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP22	管状土錘	4.7	1.0	0.25	3.5	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP23	管状土錘	4.6	0.8	0.2	2.0	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP24	管状土錘	4.6	1.0	0.18	3.5	長石・針状鉱物・赤色粒子・黒色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP25	管状土錘	4.1	0.9	0.25	2.7	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP26	管状土錘	4.5	0.9	0.15	2.7	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL30
DP27	管状土錘	(4.0)	0.7	0.2	(1.7)	長石	ナデ　一方向からの穿孔	貼床構築土	PL30

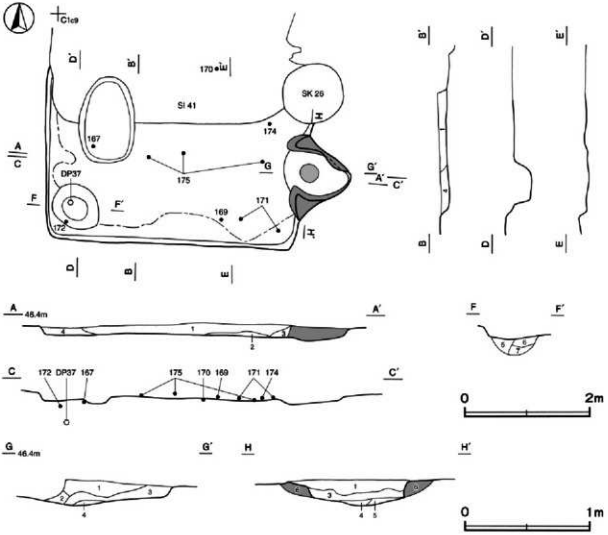
番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP28	管状土錘	(3.8)	0.9	0.2	(2.3)	長石・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL20
DP29	管状土錘	(4.2)	1.0	0.3	(4.0)	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL20
DP30	管状土錘	(4.3)	0.9	0.2	(2.6)	長石・石英・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL20
DP31	管状土錘	(3.6)	0.8	0.2	(1.9)	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL20
DP32	管状土錘	(3.0)	0.9	0.3	(2.0)	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL20
DP33	管状土錘	3.1	0.9	0.2	4.9	長石・石英・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL20
DP34	管状土錘	3.0	0.8	0.2	1.9	長石・石英・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL20
DP35	管状土錘	3.3	1.0	0.2	2.5	長石	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL20
DP36	管状土錘	2.7	0.8	0.2	1.4	長石	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL20

第 42 号住居跡（第 79 ～ 81 図）

位置　調査区中央部の西寄りＣ１c9 区，標高 46.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　北部を第 41 号住居，第 26 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北部が第 41 号住居に掘り込まれているため，東西軸は 4.22 m，南北軸は 2.25 m しか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－ 92゜－Ｅである。壁高は 14cm で，壁は外傾して



第 79 図　第 42 号住居跡実測図

立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。貼床は南西コーナー部と西壁際の中央部を土坑状に掘り込み，ローム粒子・炭化粒子を含む黒褐色土・暗褐色土を埋土して構築している。

竈　東壁のやや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで106cmで，燃焼部幅は56cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第６層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に70cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

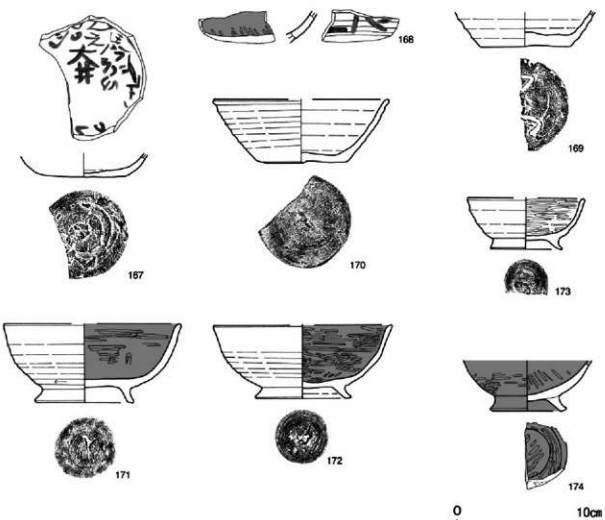
竈土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
4　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子粒子微量
6　にぶい橙色　粘土ブロック中量，ローム粒子微量

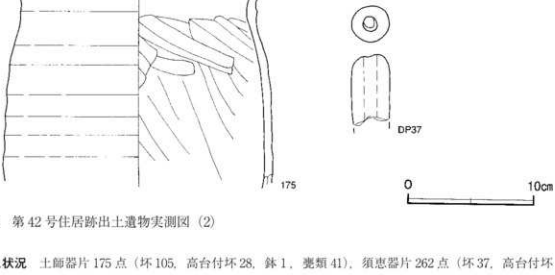
覆土　４層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。第５～７層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子微量
3　灰　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量（しまり強）
6　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
7　にぶい褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第80図　第42号住居跡出土遺物実測図（1）



第81図　第42号住居跡出土遺物実測図（2）

遺物出土状況　土師器片175点（坏105，高台付坏28，鉢1，甕類41），須恵器片262点（坏37，高台付坏1，甕224），灰釉陶器片1点（瓶），土製品1点（管状土錘）が出土している。169・171は南部，174は東部，170は北部，175は中央部の床面，167・172，DP37は掘方の埋土から，168は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉から後葉に比定できる。

第42号住居跡出土遺物観察表（第80・81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
167	土師器	坏	－	(1.9)	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ　内面「大井」は小墨書	掘方	40%　PL24
168	土師器	坏	－	(2.6)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロ成形　体部外面に墨書　内面ヘラミガキ	覆土中	5%　PL24
169	須恵器	坏	－	(2.8)	(7.2)	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ　刻書	床面	30%
170	須恵器	坏	[13.8]	5.1	7.2	長石・石英・針状鉱物・黒色粒子	灰黄	不良	底部回転ヘラ切り後ナデ　ヘラ記号	床面	40%　PL22
171	土師器	高台付坏	[13.8]	6.3	7.6	長石・石英	浅黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転糸切り後，高台貼り付け　内面ヘラミガキ	床面	50%
172	土師器	高台付坏	[14.0]	5.9	7.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　内面ヘラミガキ	掘方	50%
173	土師器	高台付坏	[9.2]	4.1	5.6	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け　内面ヘラミガキ	覆土中	40%　PL23
174	土師器	高台付坏	－	(4.0)	[5.6]	長石・石英・雲母	黄灰黒	普通	外・内面ヘラミガキ	床面	30%
175	土師器	甕	[20.8]	(16.1)	－	長石・石英・赤色粒子・雲母	橙	普通	体部外面ナデ　内面ヘラナデ	覆土下層～床面	20%

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP37	管状土錘	(5.6)	3.1	1.1	(39.5)	長石・石英・赤色粒子	ナデ　一方向からの穿孔	掘方	PL30

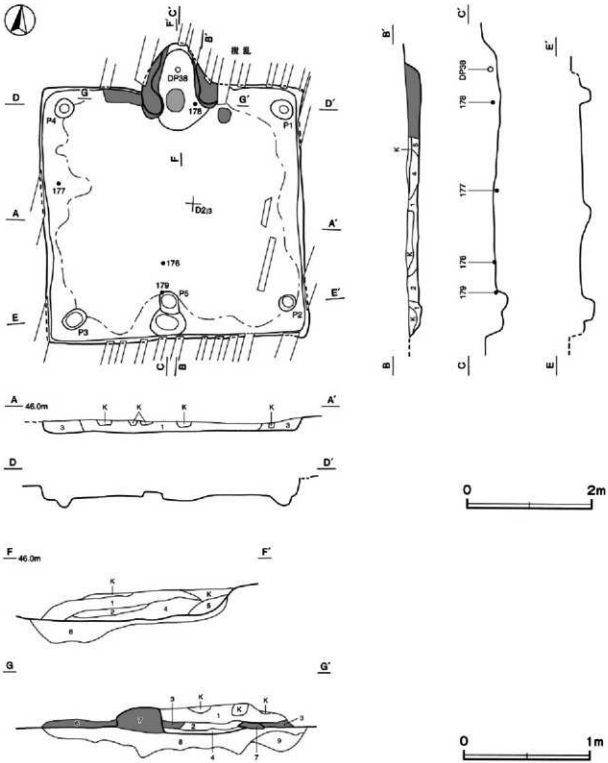
第43号住居跡（第82・83図）

位置　調査区南部のやや西寄りD 2i2区，標高45.7 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.13 m，短軸4.08 mの方形で，主軸方向はN－2°－Wである。壁高は20～28cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで138cmで，燃焼部幅は54cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から15cmほど皿状に掘り込み，ロームブロックを含んだ第8層を埋土して構築されており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に65cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第3・6層は袖材の流出土である。



第82図　第43号住居跡実測図

覆土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6　にぶい褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
9　褐　色　ロームブロック中量

ピット　5か所。P 1 ～ P 4は深さ 12 ～ 18cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ 20cmで，南壁側の中央部に位置していることや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

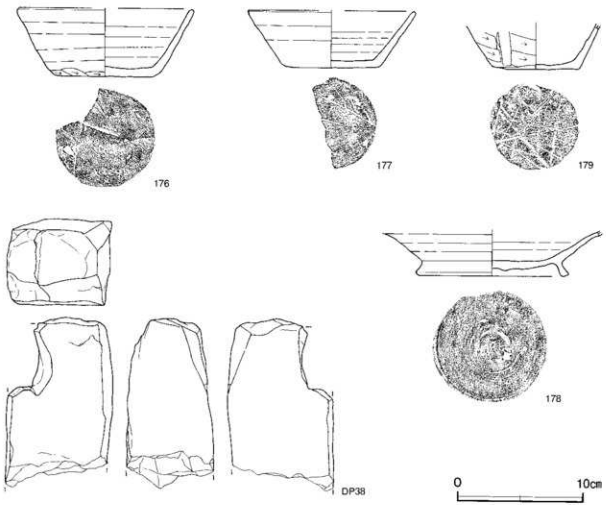
覆土　5層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　灰　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 66 点（坏 4，高台付坏 2，甕類 60），須恵器片 20 点（坏 11，蓋 1，盤 7，甕 1），土製品 1 点（紡材）が出土している。176 と 179 は南部，177 は西部の床面，178 は竈の燃焼部，DP38 は竈の煙道部からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 83 図　第 43 号住居跡出土遺物実測図

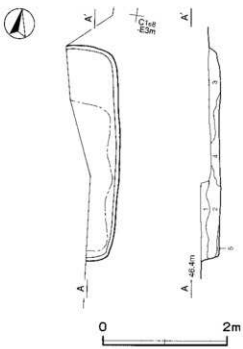
第 43 号住居跡出土遺物観察表（第 83 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
176	須恵器	坏	[13.8]	5.5	8.0	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向の手持ちヘラ削り	床面	50%
177	須恵器	坏	[13.2]	4.6	7.2	長石・石英・雲母	灰	普通	底部ヘラ切り後ナデ　ヘラ記号	床面	30%
178	須恵器	盤	－	(3.7)	11.6	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　[一] のヘラ記号	竈焼成部	60%
179	土師器	甕	－	(3.7)	6.9	長石・石英	明赤褐	普通	体部下端横位のヘラ削り	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP38	無材	(13.5)	8.4	6.9	(524)	長石・石英	ナデ	竈煙道部	

第 44 号住居跡（第 84・85 図）

位置　調査区中央部の北西寄りＣ１e8 区，標高 46.2 m の台地平坦部に位置している。



規模と形状　西側が調査区域外に延びているため，南北軸は 3.42 m で，東西軸は 0.74 m しか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定され，長軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁高は 12 ～ 28㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。

覆土　５層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

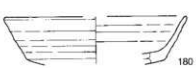
土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・今市七本桜パミス微量
2　黒　褐　色　今市七本桜パミス中量（しまり弱）
3　黒　褐　色　炭化粒子・今市七本桜パミス微量
4　黒　褐　色　今市七本桜パミス少量
5　黒　褐　色　今市七本桜パミス中量

遺物出土状況　土師器片２点（甕類），須恵器片３点（坏）が出土している。180 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。

第 84 図　第 44 号住居跡実測図



第 85 図　第 44 号住居跡出土遺物実測図

第 44 号住居跡出土遺物観察表（第 85 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
180	須恵器	坏	(14.4)	(3.8)	－	長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロ成形	覆土中	20%　PL30

第 45 号住居跡（第 86・87 図）

位置　調査区中央部の北西寄りＣ１c8 区，標高 46.3 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　西部が調査区域外に延びているため，南北軸は 3.84 m で，東西軸は 1.21 m しか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－ 82°－Ｅである。壁高は 41㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。

竈　東壁のやや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 90㎝で，燃焼部幅は右袖が残存して

いないため不明である。袖部は，床面に粘土を主体とした第３～８層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　灰　褐　色　粘土粒子・焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
3　極暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　粘土粒子多量
5　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ローム粒子微量
6　橙　　色　ローム粒子中量
7　暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
8　極暗褐色　ローム粒子微量
9　赤　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量

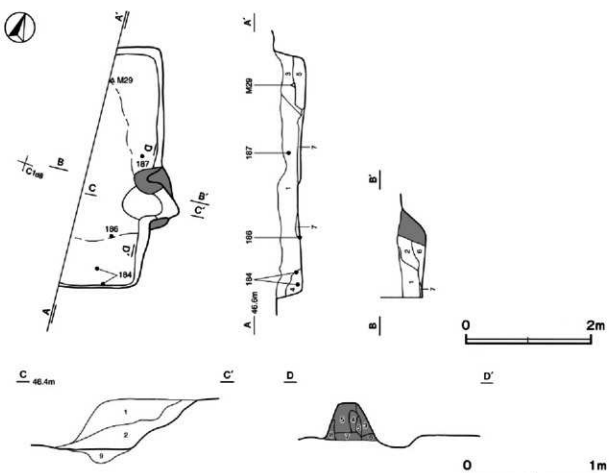
覆土　７層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

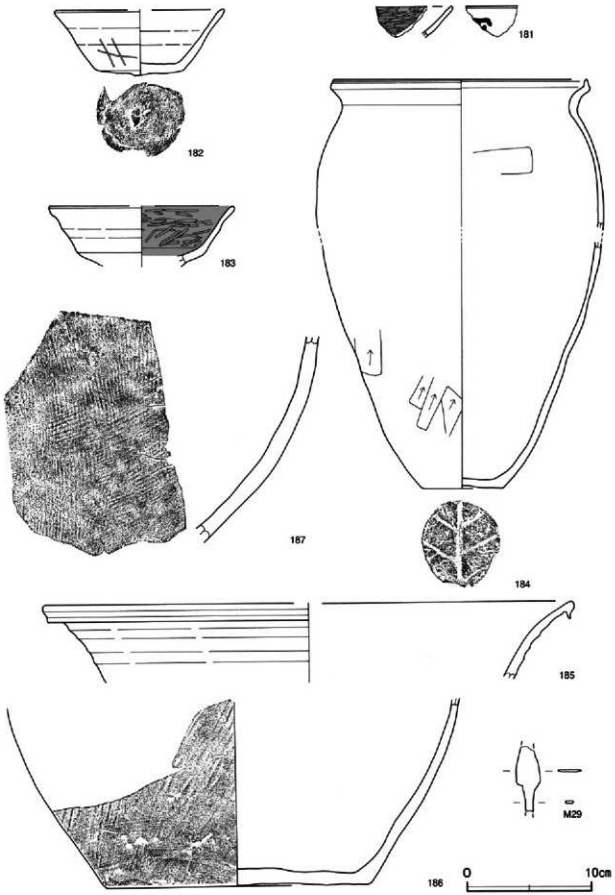
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　灰　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　にぶい褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　灰　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
7　明　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片188点（坏27，高台付坏1，甕類160），須恵器片35点（坏21，甕14），鉄製品１点（鎌）が出土している。186は南東部の床面，184は南東コーナー部の覆土下層，187は竈の左袖部付近，M29は北部の覆土中層から，181～183・185は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第86図　第45号住居跡実測図



第87図　第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
181	土師器	坏	－	(2.4)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロ成形　体部外面に墨書　内面ヘラミガキ	覆土中	5％
182	須恵器	坏	[13.2]	5.2	6.9	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り　体部外面にヘラ記号ａ	覆土中	20％
183	土師器	高台付坏	[14.6]	(4.7)	－	長石・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け　内面ヘラミガキ	覆土中	15％
184	土師器	甕	20.2	[32.4]	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	覆土下層	50％
185	須恵器	甕	[41.8]	(6.2)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	外・内面ナデ	覆土中	5％
186	須恵器	甕	－	(14.6)	21.0	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	不良	体部回径の半行叩き	床面	10％　PL27
187	須恵器	甕	－	(16.2)	－	長石・黒色粒子	黄灰	普通	体部平行叩き　外・内面自然釉付着	覆土中層	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 29	鉄鏃	(5.2)	1.9	0.2	(4.9)	鉄	茎部欠損	覆土中層	PL32

表2　奈良・平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向（長軸）	規模（m）［長軸×短軸］	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	B 2j4	長方形	N－12°－W	2.72 × 2.23	10	地山	一部	4	－	－	竈1	－	入為	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀後葉	
2	C 2a7	方（長方形）	N－15°－W	3.08 × (1.86)	7	地山	一部	－	－	－	竈1	－	入為	土師器・須恵器	10世紀中葉	本跡→SD 1，SK 2・4
3	B 2j9	方　形	N－82°－E	2.83 × 2.79	15	貼床	－	－	－	－	竈1ヵ	－	入為	土師器・須恵器	9世紀後葉	
4	C 2c6	方　形	N－14°－W	4.18 × 4.13	53	貼床	－	4	2	－	竈1	－	入為	土師器・須恵器・鉄製品	8世紀後葉	本跡→SI22
5	C 2d8	方　形	N－7°－W	4.10 × 3.78	15	貼床	－	－	－	－	竈2	－	自然	土師器・須恵器	9世紀中葉	
6	C 2d0	長方形	N－88°－E	(2.54) × 2.40	11	地山	一部	1	－	2	－	－	入為	土師器・須恵器・土製品	10世紀前葉	本跡→SD 1
7	C 2f8	長方形	N－88°－E	3.90 × 3.10	11	貼床	－	3	－	3	竈1	－	不明	土師器・須恵器・鉄製品	10世紀前葉	
8	C 2g8	方（長方形）	N－88°－E	4.68 × (1.85)	42	地山	北壁	－	－	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器・土製品・鉄製品	9世紀後葉	
9	B 2i0	方　形	N－6°－E	2.86 × 2.77	17	貼床	－	－	－	－	－	－	自然	土師器・須恵器・土製品	10世紀前葉	SI32→本跡→SD 2
10	C 2c3	方　形	N－6°－W	5.19 × 5.16	46	貼床	一部	4	1	13	竈1	－	自然	土師器・須恵器・土製品	9世紀中葉	
11	C 2g4	長方形	N－86°－E	5.38 × 4.74	6～18	地山	北壁	4	2	3	竈1	－	自然	土師器・須恵器・鉄製品	10世紀前葉	本跡→SK13・14
13	D 2a8	長方形	N－8°－W	4.64 × 4.05	42	貼床	西壁	4	1	2	竈1	－	入為	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀中葉	
14	D 2b6	方　形	N－9°－W	4.32 × 3.94	38	貼床	西壁	－	1	－	竈1	－	入為	土師器・須恵器・金属製品	9世紀後葉	
15	D 2b5	方　形	N－10°－W	3.28 × 3.22	40	貼床	－	－	－	－	竈1	－	入為	土師器・須恵器・石器	8世紀後葉	
16	D 2e8	方　形	N－3°－W	4.00 × 3.94	32	貼床	－	3	1	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀前葉	
17	D 2j8	方　形	N－1°－W	4.76 × 4.57	24	貼床	－	4	1	2	竈1	－	入為	土師器・須恵器・鉄製品	8世紀後葉	
18A	D 2j6	方　形	N－1°－W	4.67 × 4.44	30	貼床	ほぼ全周	－	1	1	竈1	－	自然	土師器・須恵器・石器	9世紀中葉	SI19→SI18B→本跡
18B	D 2j6	方　形	N－1°－W	4.10 × 3.94	40	貼床	－	－	－	－	竈1	－	－	－	9世紀中葉以降	SI19→本跡→SI18A
19	D 2i7	方　形	N－90°	4.47 × 4.38	35	貼床	[全周]	4	－	－	竈2	－	入為	土師器・須恵器・鉄製品	8世紀中葉	本跡→SI18A・B
20	D 2i5	方　形	N－3°－E	4.97 × 4.80	40	貼床	－	4	1	－	竈1	－	入為	土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品	8世紀後葉	本跡→SK 5
21	E 2c6	方　形	N－12°－W	3.79 × 3.50	12	貼床	－	4	－	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器	9世紀後葉	
22	C 2e6	方　形	N－77°－E	4.50 × 4.13	8	貼床	－	3	－	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器・土製品・石器・鉄製品	SI 4→本跡	10世紀前葉
23	B 2i4	方　形	N－87°－E	3.51 × 3.28	13	地山	一部	－	－	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器・灰釉陶器	9世紀後葉～10世紀前葉	本跡→SB 3
24	B 2i7	方　形	N－84°－E	[2.94 × 2.92]	不明	地山	一部	－	1	－	竈1	－	－	土師器・須恵器	10世紀前葉	本跡→SB 2
25	C 2e9	方　形	N－23°－W	4.55 × 4.32	－	貼床	－	－	－	－	竈1	－	不明	土師器	9～10世紀	本跡→SI27
26	E 2a4	方　形	N－7°－E	3.18 × 3.12	10	貼床	－	－	1	1	竈1	－	入為	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀中葉	

番号	位置	平面形	主軸方向	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
27	C 2 e9	方形	N－76°－E	2.90 × 2.73	－	地山	－	－	－	－	竈1	－	－	土師器・須恵器	9～10世紀	SI25→本跡
28	B 1 e7	方・長方形	N－3°－W	3.47 × (2.21)	45～55	地山	－	－	1	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器	9世紀中葉	
29	B 1 b7	方・長方形	N－28°－E	2.81 × (2.70)	42	貼床	－	－	1	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器	8世紀後葉	
30	B 2 e9	方・長方形	N－79°－E	(4.05) × (2.44)	6	地山	一部	－	－	－	竈1	－	不明	土師器	10世紀前葉	本跡→SD 2
31	B 2 h8	方形	N－5°－W	4.53 × (4.41)	不明	地山	一部	－	－	－	竈1	－	－	土師器	9世紀後葉	本跡→SD 5
32	B 2 i0	方・長方形	N－0°	3.00 × (2.20)	10	地山	－	－	－	－	竈1	－	不明	土師器・須恵器	9～10世紀	本跡→SI 9，SD 2
33	D 3 h1	方・長方形	N－5°－E	3.80 × (0.62)	10	地山	〔全周〕	－	－	－	－	－	不明	土師器・須恵器・鉄製品	9～10世紀	
34	D 2 i8	方形	N－8°－E	(2.96) × (2.94)	不明	地山	－	4	1	－	竈1	－	－	土師器	9～10世紀	本跡→SK15，16
35	B 1 g6	長方形	N－14°－W	3.86 × 3.34	28	地山	一部	4	1	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器・土製品	9世紀中葉	
36	B 1 g9	方形	[N－3°－E]	(3.25) × (3.13)	不明	地山	－	4	1	－	竈1	－	－	須恵器	9～10世紀	
38	B 2 i1	長方形	N－4°－E	3.73 × 2.75	8	地山	〔全周〕	2	－	－	竈1	－	不明	土師器・須恵器・灰釉陶器	10世紀前葉	
39	B 2 j1	方形	N－26°－W	4.33 × 4.33	20～30	貼床	－	4	2	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器	8世紀後葉	
40	C 1 e0	方形	N－6°－W	3.29 × 3.03	32	地山	－	－	1	1	竈1	－	人為	土師器・須恵器・石器・鉄製品	9世紀前葉	本跡→SK21
41	C 1 e9	方形	N－85°－E	3.85 × 3.65	17	貼床	－	－	－	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器・土製品	9世紀後葉	SI42→本跡→SK23，26
42	C 1 e9	方・長方形	N－92°－E	4.22 × (2.25)	14	貼床	－	－	－	－	竈1	－	自然	土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品	9世紀中葉～後葉	本跡→SI41，SK26
43	D 2 i2	方形	N－2°－W	4.13 × 4.08	20～28	地山	－	4	1	－	竈1	－	人為	土師器・須恵器・土製品	9世紀前葉	
44	C 1 e8	方・長方形	N－8°－W	3.42 × (0.74)	12～28	地山	－	－	－	－	－	－	自然	土師器・須恵器	8世紀後葉	
45	C 1 e8	方・長方形	N－82°－E	3.84 × (1.21)	41	地山	－	－	－	－	竈1	－	人為	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀中葉	

（2）掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第88図）

位置　調査区中央部のＣ2a6区，標高46.4ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号住居跡を掘り込み，第２号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行３間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－10°－Ｗの南北棟である。規模は桁行4.90ｍ，梁行4.56ｍで，面積は22.34㎡である。柱間寸法は桁行が1.6ｍ，梁行が1.5ｍで，柱筋はほぼ揃っている。

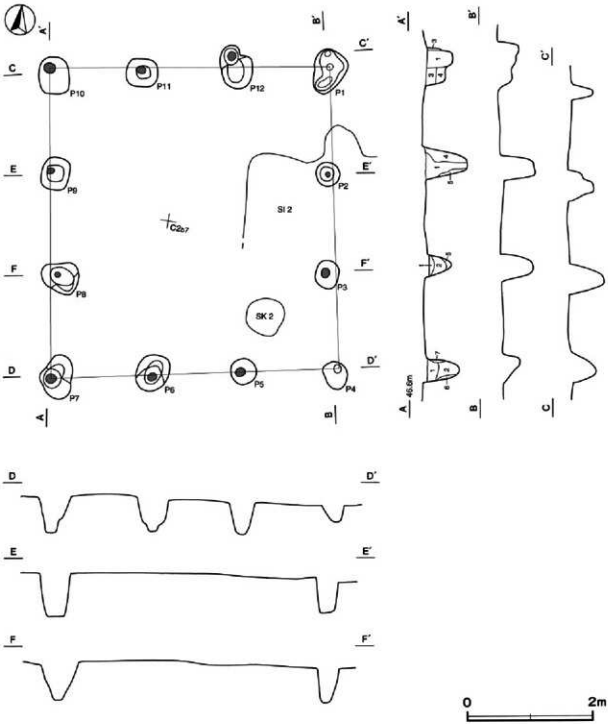
柱穴　12か所。平面形は円形・楕円形で，長径32～64cm，短径32～52cmである。深さは30～72cmである。第１・２層は柱抜き取り後の覆土，第３～７層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子極微量
5　黒　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子少量，粘土ブロック微量
6　黒　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子極微量
7　黒　褐　色　ローム ブロック・粘土ブロック微量，炭化粒子極微量

遺物出土状況　土師器片24点（坏4，甕20），須恵器片８点（坏4，盤1，甕3）が覆土中から出土しているが，細片のため図示できない。

所見　覆土中から出土している土器片の様相や主軸方向から10世紀代と推定される。



第 88 図　第１号掘立柱建物跡実測図

第２号掘立柱建物跡（第 89 図）

位置　調査区中央部のＢ2j6 区，標高 46.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第 24 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の総柱建物跡で，桁行方向がＮ－９°－Ｗの南北棟である。規模は桁行 4.80 m，梁行 3.00 m で，面積は 14.40㎡である。柱間寸法は桁行が 1.6 m，梁行が 1.5 m で，柱筋はほぼ揃っている。

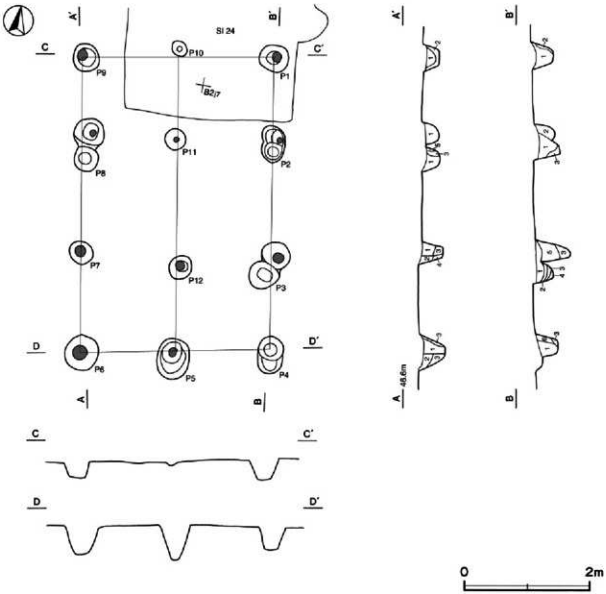
柱穴　12か所。平面形は円形・楕円形で，長径28～64cm，短径22～52cmである。深さは24～55cmである。第1・2層は柱抜き取り後の覆土，第3～6層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　灰　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片2点（坏，甕），須恵器片3点（甕）が覆土中から出土しているが，細片のため図示できない。

所見　出土土器が細片のため時期の判断は困難であるが，覆土中から出土している土器片の様相や桁行方向から10世紀代と推定される。



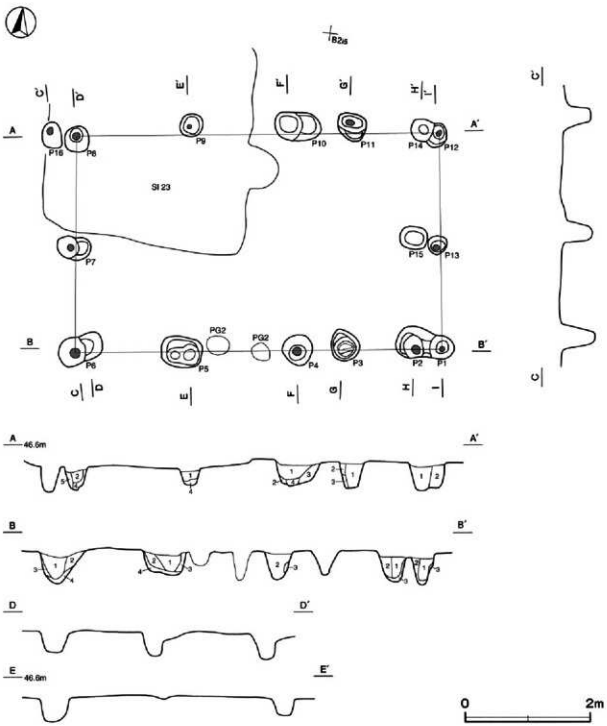
第89図　第2号掘立柱建物跡実測図

第３号掘立柱建物跡（第 90・91 図）

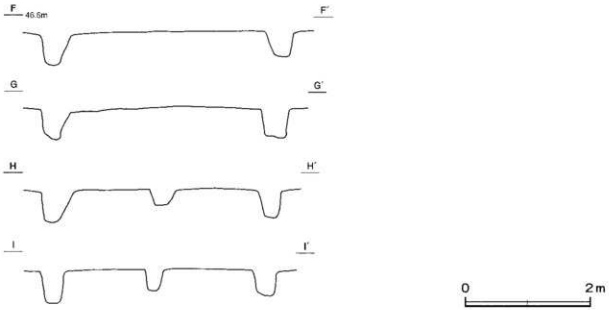
位置　調査区東部のＢ2i4 区，標高 46.3 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 23 号住居跡を掘り込んでいる。第２号ピット群と重複しているが新旧は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－82°－Ｅの東西棟である。規模は桁行5.86 ｍ，梁行 3.50 ｍで，面積は 20.51㎡である。柱間寸法は桁行が 1.7 ｍ，梁行が 1.7 ｍで，柱筋は，ほぼ揃っている。



第 90 図　第３号掘立柱建物跡実測図（1）



第91図　第3号掘立柱建物跡実測図（2）

柱穴　16か所。平面形は円形・楕円形で，長径32～65cm，短径25～50cmである。深さは26～52cmである。第1・2層は柱抜き取り後の覆土，第3～5層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，今市七本桜パミス微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・今市七本桜パミス少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，今市七本桜パミス微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，今市七本桜パミス微量
5　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片2点（坏，甕），須恵器片3点（甕）が覆土中から出土しているが，細片のため図示できない。

所見　出土土器が細片のため時期の判断は困難であるが，覆土中から出土している土器片の様相や桁行方向から10世紀代と推定される。

第4号掘立柱建物跡（第92図）

位置　調査区南部のE2c9区，標高45.7mの台地平坦部に位置している。

規模と構造　桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN－87°－Eの東西棟である。規模は桁行6.30m，梁行4.40mで，面積は27.72㎡である。柱間寸法は桁行が2.1m，梁行が2.2mで，柱筋はほぼ揃っている。

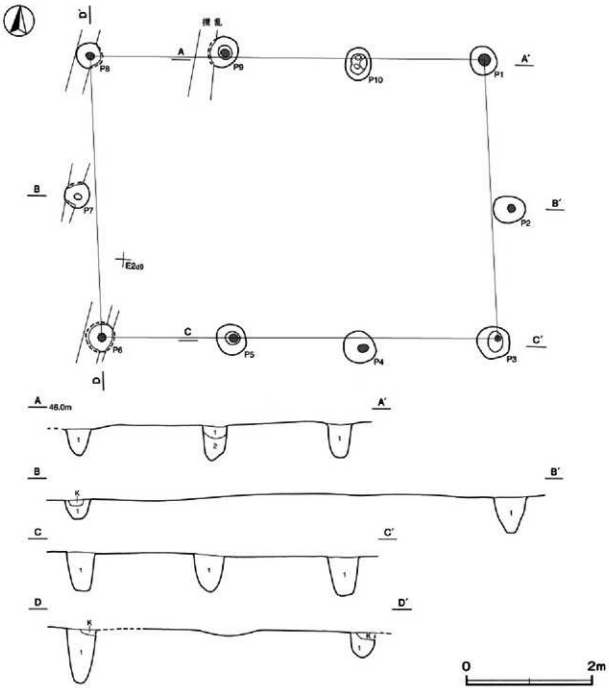
柱穴　10か所。平面形は円形・楕円形で，長径40～52cm，短径34～52cmである。深さは32～88cmである。第1・2層は，柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片7点（坏1，甕6），須恵器片1点（坏）が覆土中から出土しているが，細片のため図示できない。

所見　出土土器が細片のため時期の判断は困難であるが，覆土中から出土している土器片の様相や桁行方向から9世紀前葉と推定される。



第92図　第4号掘立柱建物跡実測図

第5号掘立柱建物跡（第93図）

位置　調査区中央部のB2h8区，標高46.4 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第31号住居跡を掘り込んでいる。

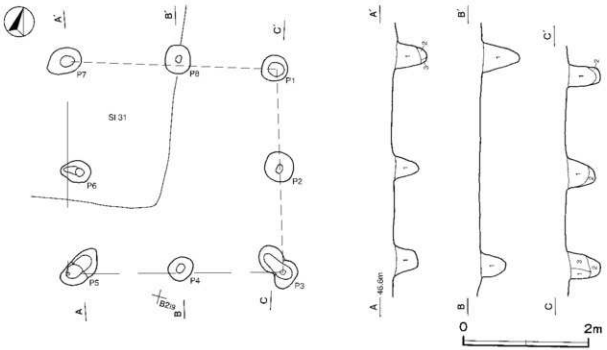
規模と構造　桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，主軸方向はN－15°－Wである。規模は桁行3.40 m，梁行3.40 mで，面積は11.56㎡である。柱間寸法は桁行が1.7 m，梁行が1.7 mで，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　8か所。平面形は円形・楕円形で，長径38～57㎝，短径36～45㎝である。深さは43～60㎝である。第1層は柱抜き取り後の覆土，第2・3層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，今市七本桜パミス微量

遺物出土状況　土師器片２点（甕）が覆土中から出土しているが，細片のため図示できない。

所見　出土土器が細片のため時期の判断は困難であるが，覆土中から出土している土器片の様相や主軸方向から10世紀代と推定される。



第93図　第５号掘立柱建物跡実測図

第６号掘立柱建物跡（第94・95図）

位置　調査区南部のＤ2g9区，標高45.8ｍの台地平坦部に位置している。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－90゜の東西棟である。規模は桁行5.14ｍ，梁行3.90ｍで，面積は20.05㎡である。柱間寸法は桁行が1.7ｍ，梁行が2.0ｍで，柱筋はほぼ揃っている。

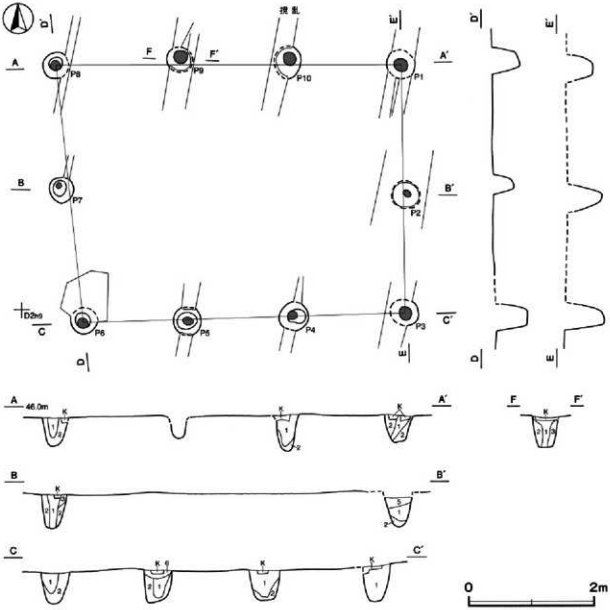
柱穴　10か所。平面形は円形で，長径44～52cm，短径36～45cmである。深さは33～57cmで，第１～４層は柱抜き取り後の覆土，第５・６層は埋土である。

第94図　第６号掘立柱建物跡出土遺物実測図

土層解説（各柱穴共通）
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・今市七本桜パミス少量，焼土ブロック微量
2　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
4　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子極微量

遺物出土状況　土師器片31点（坏１，甕30），須恵器片５点（坏３，蓋２），石製品１点（紡錘車）が覆土中から出土している。188はP10の覆土中，Ｑ７はＰ２の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器と主軸方向から８世紀中葉と推定される。



第95図　第6号掘立柱建物跡実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
188	須恵器	坏	[11.2]	3.7	7.6	長石・黒色粒子	灰青	良	底部回転ヘラ削り　「一」のヘラ記号	覆土中	60%　PL22

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	紡錘車	－	(0.4)	0.8	(2.7)	粘板岩	上部・下部欠損，側面研磨痕　一方向からの穿孔	覆土中	

第7号掘立柱建物跡（第96図）

位置　調査区南部のD 2g5区，標高45.9 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第6号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がN－90°の東西棟である。規模は，桁行4.60 m，梁行3.64 mで，面積は16.74㎡である。柱間寸法は，桁行が1.5 m，梁行が1.8 mで，柱筋はほぼ揃っている。

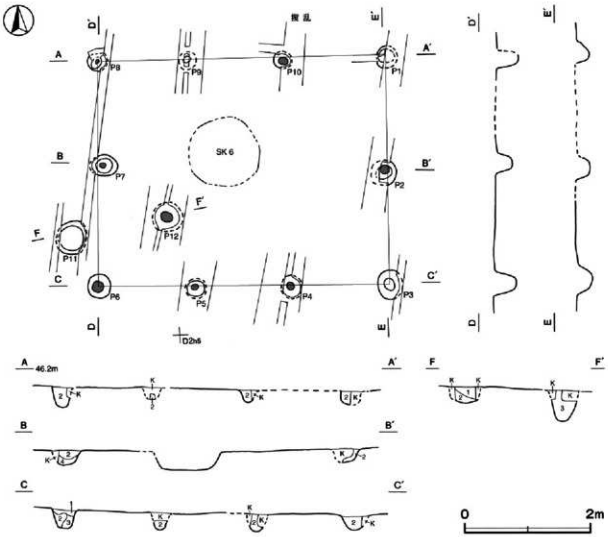
柱穴　12か所。平面形は円形で，長径27～52cm，短径25～47cmである。深さは20～34cmで，第１～４層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子中量，今市七本桜パミス少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片２点（坏），須恵器片５点（坏３，蓋２）が覆土中から出土しているが，細片のため図示できない。

所見　出土土器が細片のため時期の判断は困難であるが，覆土中から出土している土器片の様相や桁行方向から９世紀前葉と推定される。



第96図　第７号掘立柱建物跡実測図

第８号掘立柱建物跡（第97図）

位置　調査区中央部のＢ１区Ｘ区，標高46.3ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第24号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，南側の柱穴が１か所多い。桁行方向はＮ－82°－Ｅの東西棟である。規模は桁行4.00ｍ，梁行3.64ｍで，面積は14.56㎡である。柱間寸法は桁行が2.0ｍ，梁行が1.8ｍで，柱筋はほぼ揃っている。

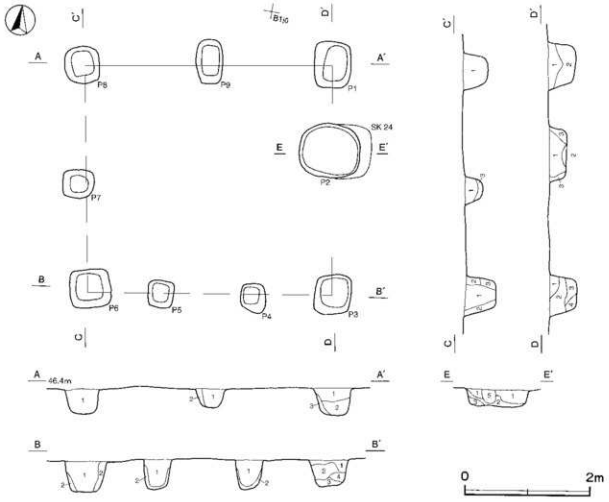
柱穴　９か所。平面形は方形・長方形で，長軸42～100cm，短軸40～86cmである。深さは28～50cmで，第１～５層は抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　今市七本桜パミス極微量
2　黒　褐　色　今市七本桜パミス中量
3　黒　褐　色　今市七本桜パミス少量
4　黒　褐　色　今市七本桜パミス多量
5　暗　褐　色　今市七本桜パミス多量

遺物出土状況　土師器片２点（甕）が覆土中から出土しているが，細片のため図示できない。

所見　出土土器が少なく，細片のため時期の判断は困難であるが，覆土中から出土している土器片の様相や桁行方向から10世紀代と推定される。



第97図　第８号掘立柱建物跡実測図

第９号掘立柱建物跡（第 98 図）

位置　調査区東部のＢ2h2 区，標高 46.3 ｍの台地平坦部に位置している。

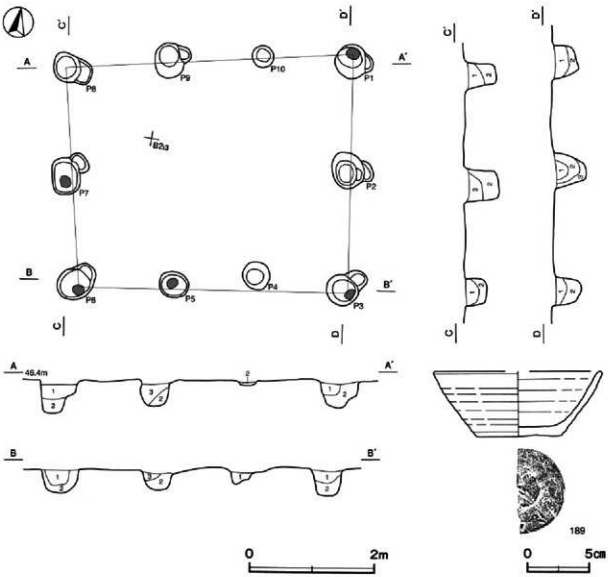
規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－78°－Ｅの東西棟である。規模は桁行 4.50 ｍ，梁行 3.60 ｍで，面積は 16.20㎡である。柱間寸法は桁行が 1.5 ｍ，梁行が 1.8 ｍで，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10 か所。平面形は円形・楕円形で，長径 34 ～ 58㎝，短径 34 ～ 50㎝である。深さは 22 ～ 57㎝で，第１～３層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片２点（甕），須恵器片３点（坏１，甕２）が覆土中から出土している。189 は，Ｐ８の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や桁行方向から９世紀中葉と推定される。



第 98 図　第９号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第９号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 98 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
189	須恵器	坏	[13.4]	5.2	6.8	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り 「×」のヘラ記号	覆土中	40% PL22

第 10 号掘立柱建物跡（第 99 図）

位置　調査区中央部のＣ２el 区，標高 46.1 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と構造　桁行２間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－ 15°－Ｗの南北棟である。規模は桁行 3.30 ｍ，梁行 3.00 ｍで，面積は 9.90㎡である。柱間寸法は桁行が 1.5 ｍ～ 1.8 ｍ，梁行が 3.0 ｍで，柱筋はほぼ揃っている。

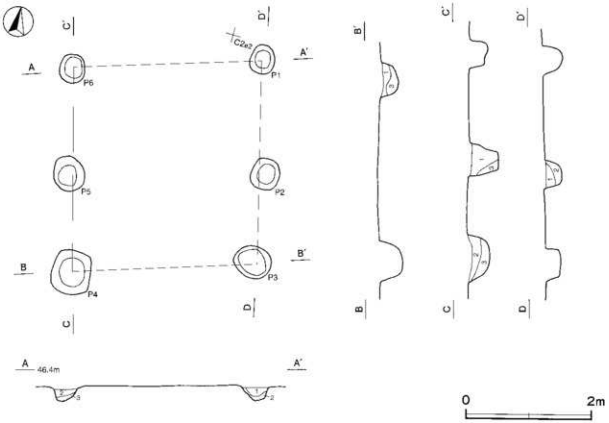
柱穴　６か所。平面形は円形・楕円形で，長径 44 ～ 70cm，短径 40 ～ 60cmである。深さは 26 ～ 45cmで，第１～３層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片３点（甕），須恵器片２点（坏，甕）が覆土中から出土しているが，細片のため図示できない。

所見　出土土器が細片のため時期の判断は困難であるが，覆土中から出土している土器片の様相や桁行方向から 10 世紀代と推定される。



第 99 図　第 10 号掘立柱建物跡実測図

表3　奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴					主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁（間）	桁×梁（m）	（㎡）	桁（m）	梁（m）	構造	柱穴数	平面形	深さ（cm）				重複関係（古→新）
1	C 2a6	N－10°－W	3×3	4.90×4.56	22.34	1.6	1.5	掘形	12	円形・楕円形	30～72	土師器，須恵器	10世紀代	SI2→本跡，SK2
2	B 2j6	N－9°－W	3×2	4.80×3.00	14.40	1.6	1.5	総柱	12	円形・楕円形	24～55	土師器，須恵器	10世紀代	SI24→本跡，PG2
3	B 2i4	N－82°－E	3×2	5.86×3.50	20.51	1.7	1.7	掘形	16	円形・楕円形	36～52	土師器，須恵器	10世紀代	SI23→本跡
4	E 2c9	N－87°－E	3×2	6.30×4.40	27.72	2.1	2.2	掘形	10	円形・楕円形	32～88	土師器，須恵器	9世紀前葉	
5	B 2h8	N－15°－W	2×2	3.40×3.40	11.56	1.7	1.7	掘形	8	円形・楕円形	43～60	土師器	10世紀代	SI31→本跡
6	D 2g9	N－90°	3×2	5.14×3.90	20.05	1.7	2.0	掘形	10	円形	33～57	土師器，須恵器，石製品	8世紀中葉	
7	D 2g5	N－90°	3×2	4.60×3.64	16.74	1.5	1.8	掘形	12	円形	20～34	土師器，須恵器	9世紀前葉	本跡→SI56
8	B 1j9	N－82°－E	2×2	4.00×3.64	14.56	2.0	1.8	掘形	9	方形・長方形	28～50	土師器	10世紀代	SK24→本跡
9	B 2h2	N－78°－E	3×2	4.50×3.60	16.20	1.5	1.8	掘形	10	円形・楕円形	22～57	土師器，須恵器	9世紀中葉	
10	C 2e1	N－15°－W	2×1	3.30×3.00	9.90	1.5～1.8	3.0	掘形	6	円形・楕円形	26～45	土師器，須恵器	10世紀代	

（3）土坑

第2号土坑（第100図）

位置　調査区中央部のやや東寄りのＣ2b7区，標高46.3ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第2号住居跡を掘り込んでいる。第1号掘立柱建物跡とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　径0.64ｍの円形で，深さは20㎝で，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

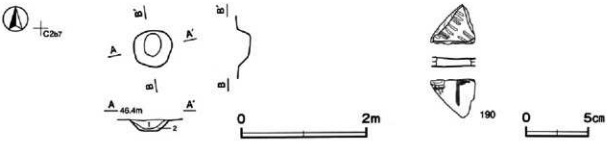
覆土　2層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・今市七本桜パミス微量　　2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・今市七本桜パミス微量

遺物出土状況　土師器片2点（坏，甕）のほか，混入した須恵器片2点（坏，甕）が出土している。190は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀から10世紀代と推定される。



第100図　第2号土坑・出土遺物実測図

第2号土坑出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
190	土師器	坏	－	(0.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り　底部墨書	覆土中	5％

第8号土坑（第 101 図）

位置　調査区東部のＢ 2a2 区，標高 46.0 ｍの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　径 2.95 ｍの円形である。深さは 160㎝で，底面は平坦である。壁は緩斜して立ち上がっている。ピットが８か所で確認できたが，性格は不明である。

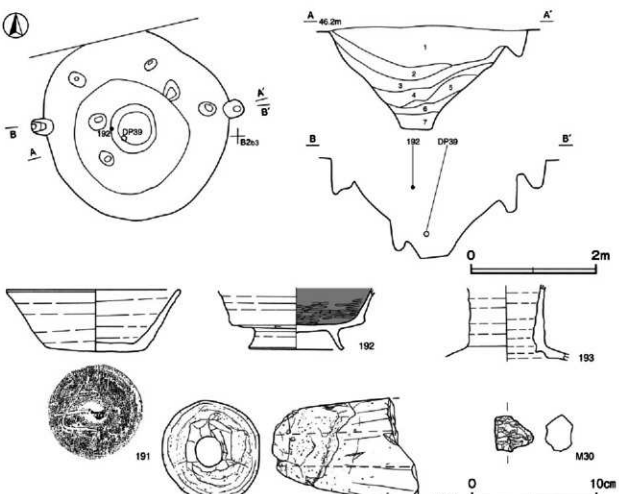
覆土　7 層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック・今市七本桜パミス微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化物・今市七本桜パミス微量
3　黒　褐　色　炭化粒子・今市七本桜パミス少量，ローム粒子微量
4　灰 黄 褐 色　ロームブロック・炭化粒子・今市七本桜パミス微量
5　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・今市七本桜パミス微量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 34 点（甕類），須恵器片 27 点（坏 10，高台付坏 4，蓋 1，盤 3，壺 1，瓶 1，甕 6，瓫 1），羽口 1 点，鉄滓 2 点のほか，混入した縄文土器片 3 点（鉢）が出土している。DP39 は中央部の覆土下層，192 は中央部の覆土中層，191・193，M30 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀前葉と推定できる。



第 101 図　第８号土坑・出土遺物実測図

第８号土坑出土遺物観察表（第 101 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
191	須恵器	坏	13.6	5.0	7.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ「毛ヵ」の刻書	覆土中	100% PL24
192	土師器	高台付坏	－	(4.9)	7.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラミガキ	覆土中層	60%
193	須恵器	長頸瓶	－	(6.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外・内面自然釉付着	覆土中	10% PL23

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP39	羽口	(11.7)	7.2 ～ 8.2	2.4	(479.0)	長石・石英	ナデ　鉄滓付着	覆土下層	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 30	鉄滓	2.9	3.1	2.2	20.0	鉄	着磁性なし	覆土中	PL33

第 23 号土坑（第 102 図）

位置　調査区北部の西寄りのＣ 1b9 区，標高 46.3 m の台地平坦部に位置している。

重複関係　第 41 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 1.19 m，短軸 1.05 m の隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 80°－Ｗである。深さは 18cm で，底面は東にやや傾斜している。壁は緩斜して立ち上がっている。

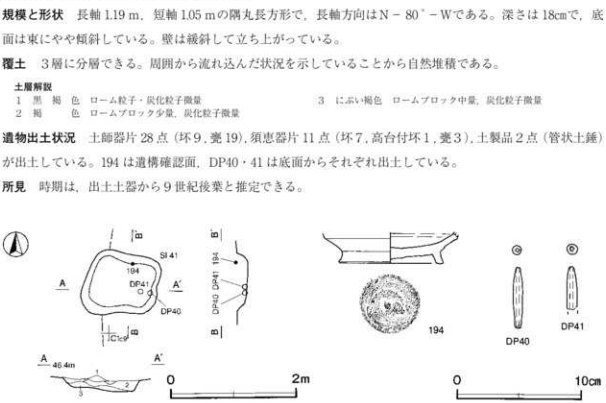
覆土　３層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 28 点（坏 9，甕 19），須恵器片 11 点（坏 7，高台付坏 1，甕 3），土製品２点（管状土錘）が出土している。194 は遺構確認面，DP40・41 は底面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉と推定できる。



第 102 図　第 23 号土坑・出土遺物実測図

第 23 号土坑出土遺物観察表（第 102 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
194	須恵器	高台付坏	－	(2.5)	8.3	長石・黒色粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	確認面	20%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP40	管状土錘	4.9	0.7	0.2	2.1	長石	ナデ　一方向からの穿孔	底面	PL20
DP41	管状土錘	(3.3)	0.9	0.3	(1.9)	長石・雲母	ナデ　一方向からの穿孔	底面	PL20

表4　奈良・平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
2	C 2h7	～	円　形	0.64 × 0.64	20	平坦	外傾	自然	土師器	SI2→本跡、SB1
8	B 2a2	～	円　形	2.95 × 2.95	160	平坦	緩斜	自然	土師器・須恵器・羽口・鉄滓	
23	C 1b9	N－80°－W	隅丸長方形	1.19 × 1.05	18	やや傾斜	緩斜	自然	土師器・須恵器・土製品	SI41→本跡

（4）不明遺構

第1号不明遺構（第103図）

位置　調査区の南部のD 3c1区，46.0 mの台地平坦部に位置している。

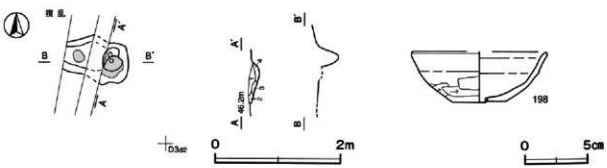
規模と形状　西部が撹乱により削平されているため，南北軸は0.64 mで，東西軸は1.02 mしか確認できなかった。平面形は不整楕円形と推定される。深さは10cmで，壁は緩斜して立ち上がっている。また，東部には深さ32cmのピット状の掘り込みがある。

覆土　4層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片6点（坏2，甕4），陶器片1点（碗）が出土している。198は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉から10世紀前葉に比定できる。



第103図　第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表（第103図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
198	土師器	坏	[10.6]	4.0	[4.4]	長石	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中	40%

2　中世の遺構と遺物

当時代の遺構は，溝跡2条である。ここでは，土層断面図と土層解説を掲載する。なお，平面図については遺構全体図で示す。以下，遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

溝跡

第1号溝跡（第104・126図）

位置　調査区中央部のC 2h9区からC 3a1区にかけて，標高46.2 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第６号住居跡と第２号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びているため，長さ 26.0 m しか確認できなかった。北方向（N － 17゜－ E）に直線的に延びている。上幅 162 ～ 223cm，下幅 17 ～ 42cm，深さ 86cm である。断面形は箱薬研状で，壁は外反状に立ち上がっている。

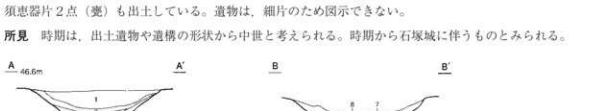
覆土　17 層に分層できる。第１～ 13 層はロームブロックを含んでいることから埋め戻されており，第 14 ～ 17 層は周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量，焼土粒子極微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量（粘性弱）
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック極微量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量
10　褐　　色　ロームブロック多量
11　灰　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック微量
13　褐　　色　ロームブロック多量（粘性弱）
14　黒　褐　色　ロームブロック少量（粘性弱）
15　暗　褐　色　ロームブロック少量
16　暗　褐　色　ロームブロック中量（粘性弱）
17　暗　褐　色　ロームブロック多量（粘性弱）

遺物出土状況　土師質土器片１点（皿）が出土している。また，混入した土師器片 20 点（坏 11，甕７，甑２），須恵器片２点（甕）も出土している。遺物は，細片のため図示できない。

所見　時期は，出土遺物や遺構の形状から中世と考えられる。時期から石塚城に伴うものとみられる。



第 104 図　第１号溝跡土層断面図

第３号溝跡（第 105・126 図）

位置　調査区北部のＢ１f8 区からＢ２c8 区にかけて，標高 46.1 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　南側が調査区域外へ延びているため，長さ 19.0 m しか確認できなかった。北東方向（N － 60゜－ E）に湾曲して延びている。上幅 137 ～ 148cm，下幅 32 ～ 53cm，深さ 88cm である。断面形は箱薬研状で，壁は外反状に立ち上がっている。

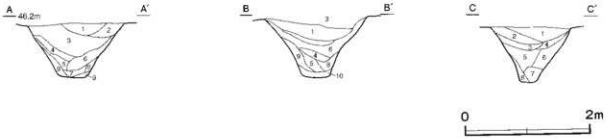
覆土　10 層に分層できる。第 10 層は自然堆積で，第１～９層は今市七本桜パミスを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　今市七本桜パミス中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・今市七本桜パミス微量
3　褐　　色　今市七本桜パミス多量，ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・今市七本桜パミス微量
5　黄　褐　色　今市七本桜パミス中量，ローム粒子少量
6　黒　　色　今市七本桜パミス中量，炭化物・ローム粒子微量
7　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，今市七本桜パミス少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・今市七本桜パミス少量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量，今市七本桜パミス微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，今市七本桜パミス微量

遺物出土状況　混入した土師器片 36 点（坏 10，高台付坏１，甕 25），須恵器片８点（坏５，甕３）が出土している。

所見　伴う遺物はないが，時期は遺構の形状などから中世と考えられる。時期から石塚城に伴うものとみられる。



第105図　第3号溝跡土層断面図

表5　中世溝跡一覧表

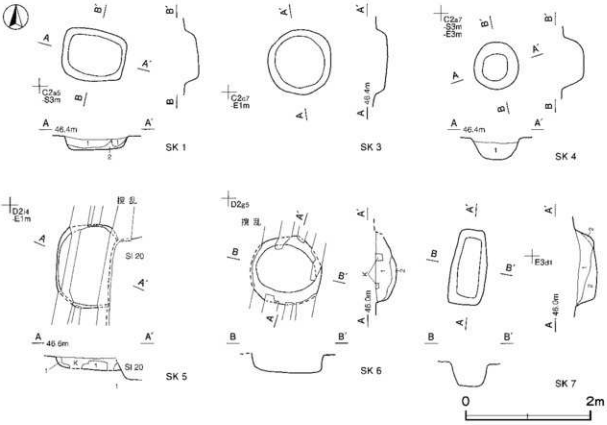
番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	底面	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					新旧関係（古→新）
1	C 2b9～C 3a1	N－17°－E	直線	(26.0)	162～223	17～42	86	箱薬研状	自然人為	平坦	土師質土器	SI6・SD2→本跡
3	B 1f8～B 2c0	N－60°－E	湾曲	(19.0)	137～148	32～53	88	箱薬研状	自然人為	平坦	－	

3　その他の遺構と遺物

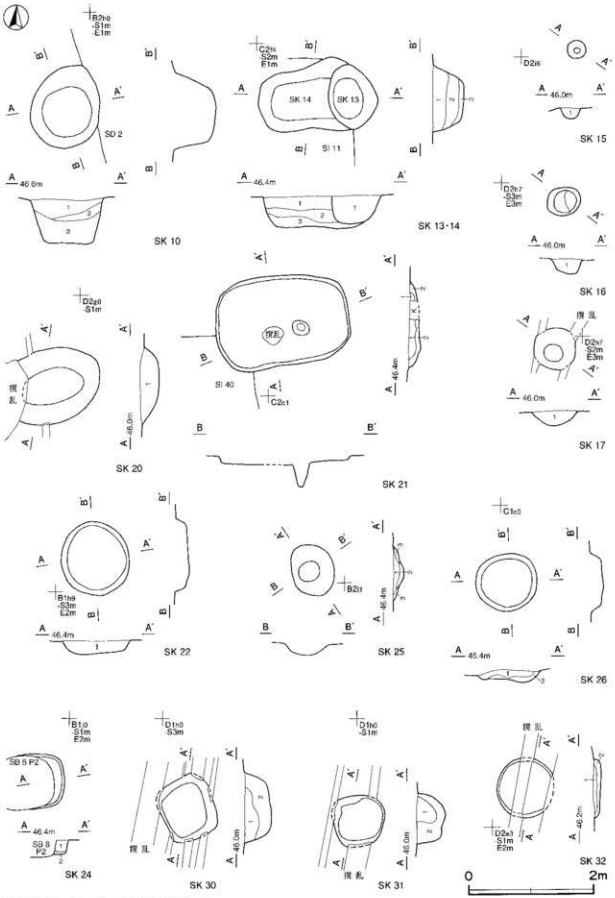
ここでは，出土遺物がないことから，時期を決定できない土坑24基，溝跡4条，柵列跡1か所，ピット群4か所について記述する。

(1) 土坑（第106～108図）

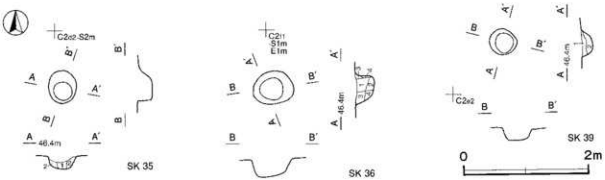
性格と時期が不明な土坑を24基確認した。これらについては，平面図と土層解説，一覧表で掲載する。



第106図　その他の土坑実測図 (1)



第 107 図　その他の土坑実測図（2）



第 108 図　その他の土坑実測図（3）

第 1 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

第 4 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子・今市七本桜パミス少量，焼土粒子微量

第 5 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物中量

第 6 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・今市七本桜パミス中量，粘土ブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，今市七本桜パミス・粘土粒子微量

第 7 号土坑土層解説
1　黒　　色　今市七本桜パミス中量，ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子・今市七本桜パミス・灰少量

第 10 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子・今市七本桜パミス微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

第 13 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量

第 14 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・今市七本桜パミス少量
3　黒　　色　ロームブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量

第 15 ～ 17 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，粘土ブロック・今市七本桜パミス微量

第 20 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子・今市七本桜パミス微量

第 21 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　にぶい褐色　ロームブロック少量

第 22 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量

第 24 号土坑土層解説
1　黒　　色　今市七本桜パミス微量
2　黒　褐　色　今市七本桜パミス中量

第 25 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　今市七本桜パミス中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　今市七本桜パミス中量
3　暗　褐　色　今市七本桜パミス多量

第 26 号土坑土層解説
1　黒　　色　今市七本桜パミス中量
2　暗　褐　色　今市七本桜パミス多量

第 30 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第 31 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量

第 32 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 35 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 36 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量

第 39 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

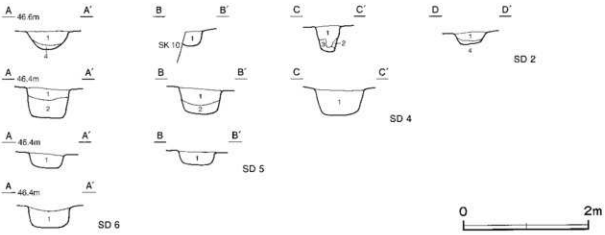
表6　その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
1	C 2ふ	N－81°－W	長方形	1.02 × 0.85	21	平坦	外傾	人為	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					重複関係（古→新）
3	C 2i7	－	円　形	1.04 × 1.02	18	平坦	緩斜	－	土師器・須恵器	
4	C 2i8	－	円　形	0.75 × 0.72	28	平坦	緩斜	自然	－	SI2→本跡
5	D 2i4	N－6°－E	［楕円形］	1.33 ×（0.76）	9	平坦	緩斜	自然	－	本跡→SI20
6	D 2j5	－	円　形	1.11 × 1.10	31	平坦	外傾	自然	－	SI37→本跡
7	E 2d0	N－7°－E	長方形	1.21 × 0.57	38	平坦	外傾	人為	土師器・須恵器	
10	B 2i0	N－18°－E	楕円形	1.34 × 1.09	72	平坦	外傾	自然	土師器・須恵器・陶器・石器	SI32→本跡
13	C 2f4	N－5°－W	楕円形	1.03 × 0.79	47	皿状	外傾	人為	土師器	SI11・SK14→本跡
14	C 2f4	N－83°－E	［隅丸長方形］	（1.50）× 1.04	50	平坦	外傾	人為	土師器・須恵器	SI11→本跡→SK13
15	D 2i7	－	円　形	0.31 × 0.30	18	皿状	外傾	自然	土師器	SI34→本跡
16	D 2i7	N－59°－E	楕円形	0.54 × 0.46	25	皿状	外傾	自然	－	SI34→本跡
17	D 2i7	－	円　形	0.68 × 0.67	24	皿状	緩斜	自然	土師器・須恵器	
20	D 2g7	N－70°－E	［楕円形］	（1.24）× 1.19	29	皿状	緩斜	人為	－	
21	C 2h1	N－82°－E	長方形	2.15 × 1.47	16	平坦	外傾	自然	土師器・須恵器	SI40→本跡
22	B 1h9	N－13°－W	楕円形	1.18 × 1.07	22	平坦	外傾	自然	土師器・須恵器	
24	B 1j0	－	［方形・長方形］	0.87 ×（0.55）	24	平坦	外傾	自然	土師器・須恵器	本跡→SI38
25	B 1h0	N－34°－W	楕円形	0.86 × 0.70	18	皿状	緩斜	自然	－	
26	C 1e9	－	円　形	0.98 × 0.92	20	平坦	緩斜	自然	土師器・須恵器	SI41・42→本跡
30	D 1i0	N－21°－W	長方形	0.98 × 0.82	42	平坦	外傾	人為	－	
31	D 1h0	－	方　形	0.81 × 0.80	43	平坦	外傾	人為	－	
32	D 2e3	－	円　形	0.94 × 0.94	12	平坦	外傾・緩斜	自然	－	
35	C 2d2	N－3°－W	楕円形	0.53 × 0.44	22	平坦	外傾・緩斜	自然	－	
36	C 2f1	N－75°－E	楕円形	0.66 × 0.52	30	平坦	外傾・緩斜	自然	－	
39	C 2d2	－	円　形	0.43 × 0.41	21	平坦	外傾・緩斜	自然	－	

（2）溝跡（第109・126図）

性格と時期が不明な溝跡４条を確認した。ここでは，土層断面図と土層解説を掲載する。なお，平面図は遺構全体図で示す。



第109図　その他の溝跡土層断面図

第２号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，今市七本桜パミス微量
2　黄　褐　色　今市七本桜パミス多量
3　灰　褐　色　ローム粒子・今市七本桜パミス少量
4　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，今市七本桜パミス微量

第４号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　今市七本桜パミス中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量

第５号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・今市七本桜パミス微量

第６号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・今市七本桜パミス少量，粘土ブロック・炭化粒子少量

表６　その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	底面	主な出土遺物	備考
				長さ（m）	上幅（cm）	下幅（cm）	深さ（cm）					新旧関係（古→新）
2	B 2e9～C 3b1	N－15°－W	直線	29.8	45～74	22～40	27	U字状	人為	平坦	土師器・須恵器	SD9・30・32→本跡→SK10，SD1
4	B 2d6～B 2d7	N－10°－E N－77°－W	直線 屈曲	7.1	67～83	38～62	45	U字状	自然	平坦	土師器・須恵器・土師質土器	
5	B 2d5	N－79°－W	直線	3.1	55	45	20	U字状	人為	平坦	－	
6	B 2e8	N－18°－W	直線	2.1	68	57	32	U字状	人為	平坦	－	

（3）柵列跡

時期不明の柵列跡を１か所を確認した。ここでは，計測表を掲載する。なお，平面図については遺構全体図に示す。

第１号柵列跡（第 126 図）

位置　調査区北部のＢ 2h1～Ｂ 2i2 区にかけての東西４ｍ，南北４ｍの範囲から，柱穴状のピット５か所を確認した。ピットはＬ字状に並んでいる。

規模　平面形は長径 38～77cm，短径 35～53cmの円形あるいは隅丸長方形で，深さは 24～46cmである。

所見　出土遺物がなく，時期・性格ともに不明である。

第１号柵列計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）							
			長軸（径）	×	短軸（径）	深さ	ピット番号	位置	形状	規模（cm）					深さ
1	B 2h1	楕円形	77	×	52	41	4	B 2i2	楕円形	49	×	43	46
2	B 2h1	円形	38	×	35	24	5	B 2i2	楕円形	59	×	53	45
3	B 2h1	隅丸長方形	47	×	39	40									

（4）ピット群

今回の調査で，４か所のピット群を確認した。いずれも建物跡を想定できるような配置ではなく，時期も不明である。ここでは，群ごとに計測表を掲載する。なお，平面図については遺構全体図に示す。

第１号ピット群（第 126 図）

位置　調査区北部のＢ 1e8～Ｂ 1f0 区にかけての東西８ｍ，南北４ｍの範囲から，柱穴状のピットを 19 か所確認した。

規模　平面形は長径 22～44cm，短径 19～35cmの円形あるいは楕円形で，深さは 11～45cmである。

所見　出土遺物がなく，時期・性格ともに不明である。

第１号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ
1	B 1e9	円形	26	×	24	17
2	B 1e9	円形	26	×	23	36
3	B 1e9	楕円形	33	×	29	45
4	B 1e9	［楕円形］	30	×	(21)	21
5	B 1e8	不整円形	36	×	34	18
6	B 1e8	長方形	32	×	20	17
7	B 1e9	楕円形	26	×	22	11
8	B 1e8	楕円形	26	×	23	15
9	B 1e8	円形	30	×	29	23
10	B 1e8	楕円形	37	×	25	26
11	B 1e8	楕円形	27	×	20	26
12	B 1f9	［楕円形］	(20)	×	(16)	[89]
13	B 1f9	［円形］	33	×	(13)	31
14	B 1f8	［円形］	(29)	×	(25)	[73]
15	B 1f10	円形	38	×	35	33
16	B 1f9	楕円形	44	×	33	41
17	B 1f9	円形	26	×	24	13
18	B 1f8	楕円形	35	×	27	36
19	B 1f8	楕円形	22	×	19	12

第２号ピット群（第126図）

位置　調査区北部のＢ2h5～Ｃ2a6区にかけての東西６ｍ，南北９ｍの範囲から，柱穴状のピットを８か所確認した。

重複関係　第３号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模　平面形は長径31～41cm，短径24～37cmの円形あるいは楕円形で，深さは21～50cmである。

所見　出土遺物がなく，時期・性格ともに不明である。

第２号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ
1	B 2h5	円形	32	×	30	50
2	B 2h5	楕円形	41	×	37	44
3	B 2h5	円形	31	×	29	36
4	B 2j4	楕円形	34	×	30	21
5	B 2j4	楕円形	31	×	27	47
6	B 2j6	楕円形	33	×	24	32
7	C 2a6	楕円形	40	×	34	42
8	C 2a6	楕円形	32	×	24	38

第３号ピット群（第126図）

位置　調査区中央部のＣ1c0～Ｃ2f3区にかけての東西12ｍ，南北12ｍの範囲から，柱穴状のピットを９か所確認した。

規模　平面形は長径30～60cm，短径26～43cmの円形あるいは楕円形で，深さは20～54cmである。

所見　出土遺物がなく，時期・性格ともに不明である。

第３号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ
1	C 1e0	楕円形	33	×	30	24
2	C 1e0	楕円形	38	×	32	21
3	C 1e8	楕円形	35	×	26	40
4	C 1e9	楕円形	33	×	26	37
5	C 2f2	円　形	30	×	28	33
6	C 2f3	楕円形	32	×	27	20
7	C 2f3	円　形	37	×	35	54
8	C 2f2	楕円形	60	×	43	32
9	C 2e2	楕円形	46	×	35	28

第４号ピット群（第 126 図）

位置　調査区南部のＤ 2h2 ～ Ｅ 2a3 区にかけての東西４m，南北 12 mの範囲から，柱穴状のピットを 11 か所確認した。

規模　平面形は長径 27 ～ 49cm，短径 38 ～ 51cmの円形あるいは楕円形で，深さは 16 ～ 51cmである。

所見　出土遺物がなく，時期・性格ともに不明である。

第４号ピット群計測表

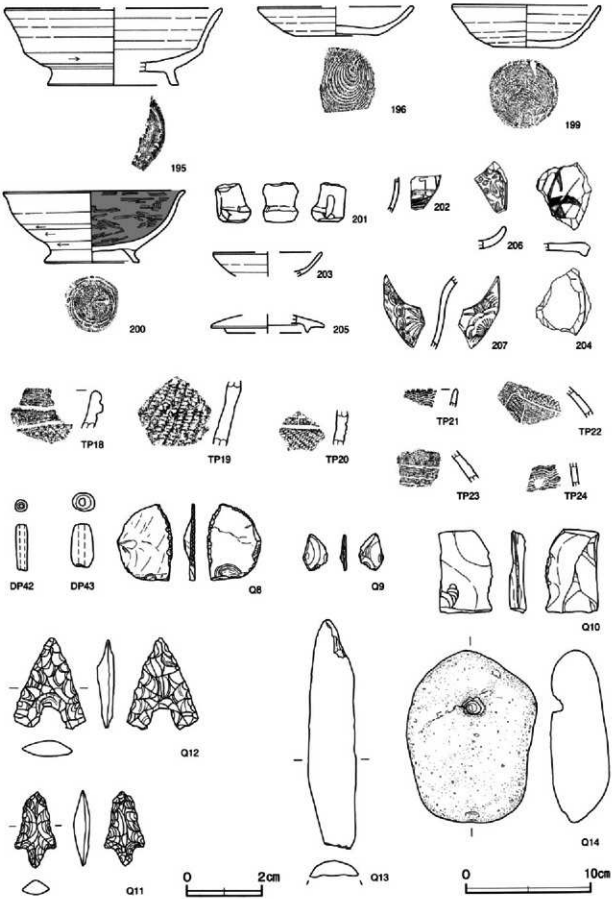
ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ
1	E 2a3	円　形	39	×	38	42
2	D 2f3	［楕円形］	37	×	［30］	27
3	D 2f3	［楕円形］	42	×	［33］	34
4	D 2f2	円　形	36	×	［34］	36
5	D 2h3	円　形	27	×	［27］	51
6	D 2h3	円　形	［48］	×	44	26
7	D 2h2	円　形	45	×	43	41
8	D 2h2	円　形	42	×	41	36
9	D 2h2	円　形	49	×	45	46
10	D 2h3	円　形	［54］	×	51	16
11	D 2h3	円　形	45	×	41	49

表７　ピット群一覧表

番号	位置	柱穴（長さの単位はすべてcm）					出土遺物	時期	備考（重複関係　古→新）
		柱穴	平面形	長径	短径	深さ			
1	**B 1e8 ～ B 1f0**	19	**円形・楕円形**	**22 ～ 44**	**19 ～ 35**	**11 ～ 45**	－	－	
2	**B 2h5 ～ C 2a6**	8	**円形・楕円形**	**31 ～ 41**	**24 ～ 37**	**21 ～ 50**	－	－	
3	**C 1e0 ～ C 2f3**	9	**円形・楕円形**	**30 ～ 60**	**26 ～ 43**	**20 ～ 54**	－	－	
4	**D 2h2 ～ E 2a3**	11	**円形・楕円形**	**27 ～ 49**	**38 ～ 51**	**16 ～ 51**	－	－	

（5）遺構外出土遺物（第 110 図）

ここでは遺構に伴わない主な遺物について，特徴的なものを実測図及び観察表で掲載する。



第 110 図　遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
199	土師器	坏	12.4	5.0	5.9	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	表採	90% PL21
200	土師器	高台付坏	14.4	5.8	7.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，内面ヘラミガキ	表土	60% PL21
195	須恵器	高台付坏	[17.2]	6.1	[10.4]	長石・石英	灰褐	普通	体部外・内面自然釉付着　体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	SI2 覆土中	30%
196	土師質土器	皿	[12.2]	2.3	6.6	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	SI25 覆土中	30% PL21
201	土師器	脚付盤	－	(3.1)	－	長石・赤色粒子	橙	普通	脚部ナデ	表土	5％ PL28
202	陶器	碗	－	(2.6)	－	長石	橙	不良	外・内面施釉　絵付け不明	SI14 覆土中	5％ PL28
203	陶器	灯明皿	[8.6]	(1.9)	－	微密	赤褐	良	外・内面鉄釉	SI17 覆土中	5％
204	陶器	皿	－	(1.0)	－	長石	灰白	良	外・内面長石釉　底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け糸切り文	SI19 覆土中	5％ PL28
205	陶器	蓋	[6.4]	(1.4)	－	黒色粒子	にぶい黄橙 黄褐	普通	天井部施釉	SI14 覆土中	5％
206	瓦器	皿	－	(1.8)	－	長石・微密	灰白 緑灰	良	黄瓦　外・内面施釉	SI10 覆土中	5％
207	瓦器	鉢 a	－	(5.8)	－	長石・微密	灰白	良	外・内面施釉　草華文の絵付け	表土	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	縄文施文→隆帯貼り付け	SI17 覆土中	PL28
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	縄文施文	表土	PL28
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	縄文施文　沈線	SI25 覆土中	PL28
TP21	弥生土器	壺	長石・雲母	にぶい赤褐	6条の櫛歯状工具による波状文	SI29 覆土中	PL28
TP22	弥生土器	壺	長石・雲母	にぶい橙	沈線	SI17 覆土中	PL28
TP23	弥生土器	壺	長石・石英	灰黄褐	撚り糸文	表土	PL28
TP24	弥生土器	壺	長石	にぶい橙	4条の櫛歯状工具による波状文	SI29 覆土中	PL28

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP42	管状土錘	3.7	0.9	0.4	3.1	長石	ナデ　一方向からの穿孔	表土	PL30
DP43	管状土錘	3.4	1.8	0.5	9.3	長石	ナデ　一方向からの穿孔	表土	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	磨製	6.1	4.3	0.8	20.3	チャート	刃部両面急斜度調整	SI29 覆土中	PL31
Q 9	剥片	2.9	1.9	0.5	1.4	チャート	使用痕 a	SI17 覆土中	PL31
Q 10	剥片	6.6	4.2	1.3	42.8	チャート	未製品　片面一部稜線に鋸歯状の調整痕 a	表土	
Q 11	石鏃	2.0	1.1	0.4	0.5	白鶏瑞	両面押圧剥離	SI10 覆土中	PL31
Q 12	石鏃	2.4	1.9	0.5	1.4	黒曜石	両面押圧剥離	SI15 覆土中	PL31
Q 13	石棒	(18.2)	(3.9)	(1.3)	(107.7)	緑泥片岩	剥離した表面の一部，損部不明	SI29 覆土中	PL31
Q 14	円石	13.7	10.4	4.7	932	凝灰岩	円部一か所	SI30 覆土中	PL31

第4節　ま　と　め

今回の調査で，奈良・平安時代の住居跡43軒，掘立柱建物跡10棟，土坑3基，不明遺構1か所，中世の溝跡2条，時期不明の土坑24基，溝跡4条，横列跡1か所，ピット群4か所を確認した。ここでは，遺跡の中心となる奈良・平安時代の住居跡と中世の溝跡について若干の考察をする。

1　奈良・平安時代の時代の遺構と遺物について

ここでは出土土器をもとに住居跡と掘立柱建物跡を8期（Ⅰ～Ⅷ期）に分類し，各期の特徴について述べることにする。

Ⅰ期（8世紀中葉）

第19号住居跡と第6号掘立柱建物跡が該当する。出土土器は，土師器（甕），須恵器（坏・蓋）で，坏の底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。甕はいわゆる常総形をしており，外面調整は残存率が低いことから明確でなく，内面はヘラナデされている。

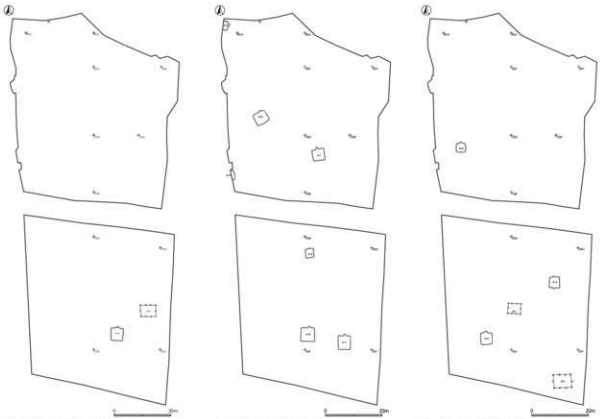
住居跡の特徴は，北竈から東竈に作り替えられている。掘方は床全体をほぼ平坦に掘り込み，炭化粒子を含む黒色土を埋土して構築している。主軸方向は住居跡，掘立柱建物跡共にN－90°で，計画的に配置されている。

Ⅱ期（8世紀後葉）

第4・15・17・20・29・39・44号住居跡が該当する。出土土器は，土師器（甕・甑），須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・高盤・瓶・壺）で，須恵器の出土率が高い。須恵器の坏・高台付坏の底部の切り離し技法はヘラ切りでその後ナデ整形を行っている。底面にヘラ記号が施されているものが見られ，「×」「＝」「－」の三種類が確認できた。土師器の甕は常総形で，外面調整はヘラミガキを施している。

住居跡は全て北竈で，掘方は第15号住居跡のみが竈と平行する壁際を溝状に掘り込んでおり，その他はほぼ平坦に掘り込んでいる。貼床は，共通して炭化粒子を含む黒色土もしくは黒褐色土を埋土して構築している。主軸方向は第29号住居跡がN－28°－E，第4・15・39・44号住居跡がN－1～24°－Wである。

第17・20号住居跡はN－1°－WとN－3°－Eで，主軸方向がほぼ同じ配置からみても両遺構が一単位集団となるものと考えられる。



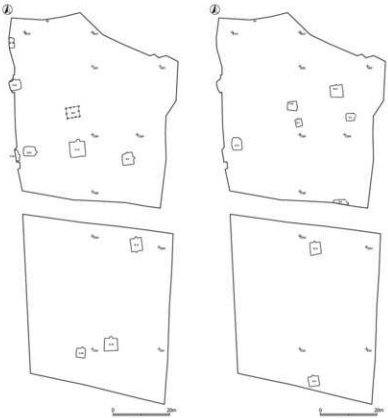
第Ⅰ期（8世紀中葉）　第Ⅱ期（8世紀後葉）　第Ⅲ期（9世紀前葉）

第111図　藤前遺跡遺構配置図（1）

Ⅲ期（9世紀前葉）

第16・40・43号住居跡，第4・7号掘立柱建物跡が該当する。出土土器は，土師器（甕），須恵器（坏･高台付坏，蓋，盤，瓶）で，Ⅱ期と同じく須恵器の出土率が高い。須恵器の坏・高台付坏・盤の底部の切り離し技法は回転ヘラ切りで，その後回転ヘラ削りを施した個体がみられる。また，外面下端に手持ちヘラ削り整形を施した個体もみられる。甕は常総形で，外面調整は残存率が低いことから明確でない。瓶には把手がつく。

住居跡は，全て北竈である。床面は，第40・43号住居跡は地山を床面で，第16号住居跡のみが四隅を掘り込み，炭化粒子を含む黒褐色土を埋土して構築している。住居跡の主軸方向はN－2～6°－W，掘立柱建物跡の桁行方向はほぼN－90°で，住居跡と掘立柱建物跡の主軸方向はほぼ90°の角度で計画的に配置している。



第112図 藤前遺跡遺構配置図（2）

Ⅳ期（9世紀中葉）

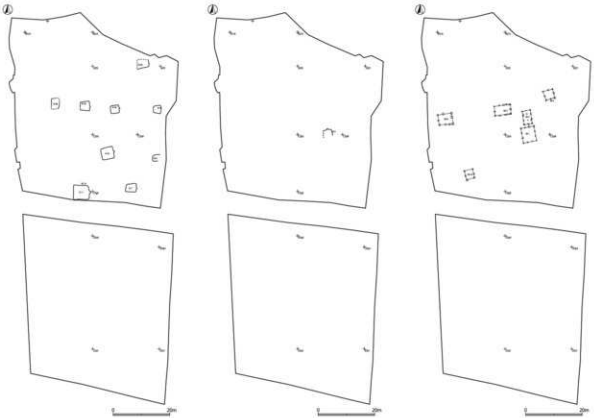
第5･10･13･18･26･28･35･42･45号住居跡，第9号掘立柱建物跡が該当する。出土土器は，土師器（坏･高台付坏・盤・鉢・甕・瓶），須恵器（坏・皿・甕・瓶）で，Ⅱ期に比べ土師器の坏・高台付坏・鉢などの器種が増加するが，まだ須恵器の出土率が高い。坏・高台付坏の底部切り離し技法は須恵器・土師器ともに回転ヘラ切りで，須恵器はその後ナデ整形，土師器は無調整のものがほとんどである。土師器の坏・高台付坏は内面黒色処理で磨きを施している。甕は常総形で，外面調整は下半部にヘラミガキを施したもののほかに縦位のヘラ削り，若干横位のヘラ削りのものが存在し，内面はヘラナデ調整である。

住居跡は第42・45号住居跡が東竈で，その他は北竈である。掘方は，第5・13号住居跡が溝状，第10・35号住居跡がほぼ平坦，第18号住居跡が四隅を掘り込む形状で，バラエティーに富んでいる。いずれも炭化粒子を含む黒褐色土を埋土して構築している。主軸方向は第42号住居跡がN－92°－E，第45号住居跡がN－82°－Eと異なるが，その他の住居跡はN－3～14°－E・Wでほぼ同軸である。掘立柱建物跡の主軸方向はN－78°－Eで，第45号住居跡とほぼ同軸でセット関係になる可能性がある。

Ⅴ期（9世紀後葉）

第1・3・8・14・21・23・31・41号住居跡が該当する。出土土器は，土師器（坏・高台付坏・鉢・甕），須恵器（坏・高台付坏・甕・壺）で，Ⅳ期に比べ土師器の出土率が高くなる。

坏は土師器・須恵器ともに底部の切り離し技法は回転ヘラ切り後にナデを施したものがほとんどで，一部



第 113 図　藤前遺跡遺構配置図（3）

に回転ヘラ削りを施した個体がみられる。また，土師器の坏は，体部下端を回転ヘラ削りのものと，手持ちヘラ削りのものの２種類，内面は黒色処理のヘラミガキを施している。甕は常総形であるが，残存率が低く明確な個体は少ないが，確認できたものは外面調整が共通して縦位のヘラ削りである。

住居跡は，北竈の第１・14・21・31 号住居跡と，東竈の第３・８・23・41 号住居跡に分類できる。貼床は全て平坦に掘り込まれ，炭化粒子を含む黒色土もしくは黒褐色土を埋土して構築している。主軸方向は，N－５～12°－W，N－82～88°－E と２つに分けられる。

Ⅵ期（10 世紀前葉）

第６・７・９・11・22・24・30・38 号住居跡が該当する。これらの住居跡は，調査区北部にまとまっている。出土土器は，土師器（坏・高台付坏・甕）で，須恵器の供膳具は確認できなかった。坏は回転ヘラ切りも認められるが，ほとんどが回転糸切りで，内面は黒色処理され，ヘラミガキが施されている。甕は常総形で，外面調整は縦位のヘラ削りである。また，体部下端に横位のヘラ削りを施す個体が存在する。

住居跡は，ほぼ東竈に統一されている。貼床は，第 22 号住居跡が平坦，第７・９号住居跡が溝状に掘り込まれ，炭化粒子を含む黒色土もしくは黒褐色土を埋土して構築している。主軸・長軸方向は第９・38 号住居跡が N－４～６°－E，第６・７・11・22・24・30 号住居跡が N－77～88°－E と２つの主軸方向がみられる。

Ⅶ期（10 世紀中葉）

第２号住居跡のみと住居跡が激減し，小集落の様相を示している。出土土器は土師器（坏・高台付坏・甕）で，坏は，回転ヘラ切りのままで，高台付坏は回転ヘラ切り後，ナデを施している。内面は，黒色処理・ヘ

ラミガキが施されているものも見られるが少ない。住居跡は，北竈で地山を床面としている。主軸方向はN－15°－Wである。

Ⅷ期（10世紀後葉以降）

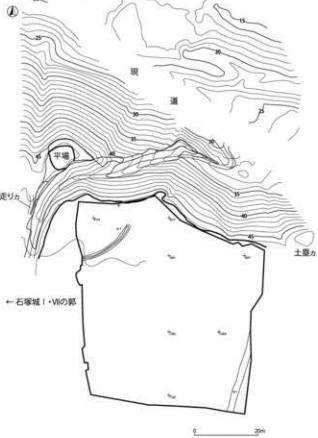
本期になると住居跡が確認できなくなり，第1～3・5・8・10号掘立柱建物跡の構成となる。第1号掘立柱建物跡が3間×3間，第2・3号掘立柱建物跡が3間×2間，第5・8号掘立柱建物跡が2間×2間，第10号掘立柱建物跡が2間×1間と規模は大小様々である。桁行方向は，第1・2・5・10号掘立柱建物跡がN－9～15°－W，第3・8号掘立柱建物跡がN－82°－Eと2つに分けられ，第3・8号掘立柱建物跡が東西棟，第1・2・5・10号掘立柱建物跡が南北棟で，L字状に配置されている。住居跡がないことから末端の役所の可能性も考えられるが，関連する遺物の出土が認められないことや両遺跡の近接地に「字蔵前」や「字蔵脇」という字名が残ることから，倉庫として機能していた可能性もある。

住居内の施設は，43軒中竈が確認できたものは39軒で，26軒が北竈，13軒が東竈。残りの4軒は竈を敷設していないもしくは不明である。時期別に見てみると8・9世紀では北竈が多く，10世紀になると東竈にほぼ統一されている。また，第13・16号住居跡でみられた出入口部に関係する張り出し施設は，9世紀中葉以降確認できなくなる。

床は地山を床面としているものと貼床のものがある。貼床のものは全体を平坦に掘り込んでいるもの・竈に対して平行して溝状に掘り込んでいるもの・四隅を掘り込んでいるものの3通りで，四隅が掘り込まれているものは2軒のみであるが，9世紀にしか確認できなかったことから，掘方からも住居跡の時期区分がある程度可能なのかもしれない。今後の類例の増加を待って再検討したい。

2　中世の遺構について

当遺跡の300m西に，佐竹義篤の子石塚宗義の居城といわれる石塚城が存在している。現存している堀跡の状況から7つの郭からなっていたと推測できる。当遺跡はⅦの郭と考えられている場所から東に位置し，石塚城に伴うと考えられる溝2条を確認した。2条とも断面形は箱薬研状で，第1号溝跡は北側と南側がそれぞれ調査区域外に延びているため全容は不明である。北部は調査区域外に少し窪んだ地形が第114図の土塁ヵとしているところまで延びているのが確認でき，南部は南側の調査区では確認できなかったことから，現存する道路の下で止まるか，東西どちらかにさらに延びているものと考えられる。覆土と断面形状は，後述する並松遺跡で確認した石塚城に伴う外部施設に伴う堀と考えられる第1号堀跡と同一であるが，第1号溝跡が幅162～223cm，深さ86cmで，第3号溝跡が幅



第114図　中世遺構全体図・地形測量図

137 ～ 148cm，深さ 88cmと規模が違うことから溝としたが，その性格は不明である。

また，調査区の遺構確認面とほぼ同一の高さで北西部に平場が存在し，その周りには犬走り状の施設が確認できた。その平場の間には自然地形と考えられる V 字状の谷が存在し（第 114 図参照），この谷は地元の方の話では道として使用されていたもので，調査区の北側にある現道に続いており調査区の南西側から現道に歩いて降りていけるようになっているとのことであった。現況の地形や犬走り状の施設，南側に土塁と思われる高まりが存在することから堅堀として機能していた可能性もある。

今回，当遺跡で確認できた奈良・平安時代の住居跡と掘立柱建物跡，中世の溝跡について記述してきた。集落は８世紀中葉から形成されはじめ，９世紀に入ると住居軒数が増加し最盛期を迎えている。10 世紀には８軒と住居軒数が減少し，10 世紀中葉を最後に集落は終焉を迎えている。また，10 世紀前葉を境に竈が北竈から東竈に変わっていく特徴は，今回の土器編年をするにあたり参考とした浅井哲也氏がすでに指摘していることである。

集落の広がりは，調査区西側を空白地帯とし８・９世紀は調査区全域に広がって確認でき，10 世紀になると台地縁辺部のみに広がっている。当遺跡から 180 m南に位置する並松遺跡の集落も９世紀後葉に比定でき，当遺跡と同じ台地上の平坦地に形成されていることから，同一集落と考えられる。

中世と考えられる溝跡２条についての詳細な性格は明確でないが，並松遺跡で確認した箱薬研状の第１号堀跡と形状・覆土が類似していることから，同時期に機能していた可能性がある。並松遺跡で確認した堀跡とともに外郭施設解明の一端となる遺構が確認できたことは，石塚城の縄張りを考える上で貴重な資料になるものと思われる。

参考文献

・常北町史編さん委員会『常北町史』常北町　1988 年３月

・浅井哲也 「郡河台地及びその周辺における奈良・平安時代の土器について」『年報 10』茨城県教育財団　1990 年７月

・浅井哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ）」『研究ノート創刊号』茨城県教育財団　1991 年７月

・浅井哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート２号』茨城県教育財団　1992 年７月

第4章　並　松　遺　跡

第1節　調 査 の 概 要

当遺跡は，那珂西台地の北部，那珂川右岸の標高46ｍほどの台地端部に立地している。調査面積は1,435㎡で，調査前の現況は畑地と林である。

今回の調査で，平安時代の竪穴住居跡４軒，中世の堀跡１条，時期不明の土坑３基，溝跡２条を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に２箱出土している。主な出土遺物は，縄文土器（深鉢），土師器（坏・高台付坏・鉢・甕・瓶），須恵器（坏・高台付坏・甕・壺・瓶），土師質土器（内耳鍋・火鉢ヵ），瓦質土器（鉢・火鉢・鍋），陶器（皿・碗・蓋），石器（砥石），金属製品（鍬先，不明）などである。

第2節　遺 構 と 遺 物

1　平安時代の遺構と遺物

今回の調査で確認した当時代の遺構は，住居跡４軒である。以下，それぞれの遺構の特徴と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第１号住居跡（第115図）

位置　調査区北東部のＧ２g2区，標高45.4ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　北部と西部が調査区域外に延びているため，東西軸は2.27ｍで，南北軸は1.30ｍしか確認できなかった。平面形は，方形もしくは長方形と推定される。壁高は12㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。

覆土　単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第115図　第１号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片25点（甕類），須恵器片4点（壺1，甕3），鉄製品1点（不明）が出土している。また，混入した陶器片1点（碗）も出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器片と主軸方向から9世紀後葉に比定できる。

第2号住居跡（第116・117図）

位置　調査区中央部の西寄りH 2b3区，標高45.4 mの台地平坦部に位置している。

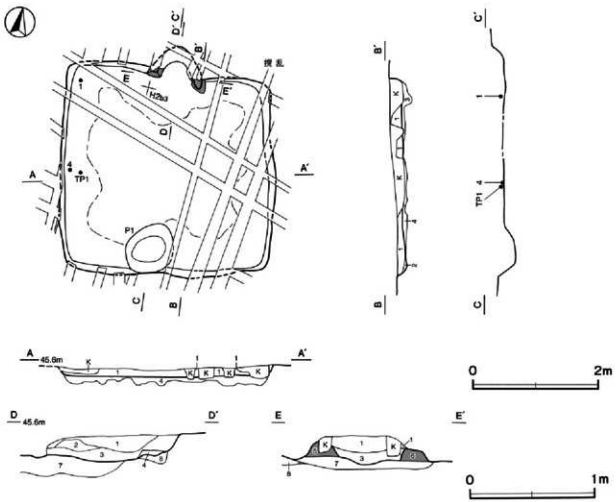
規模と形状　長軸3.42 m，短軸3.40 mの方形で，主軸方向はN－12°－Wである。壁高は20cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。貼床は全体をほぼ平坦に掘り込み，ローム ブロック・炭化粒子を含む黒褐色土・褐色土を埋土して構築している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで106cmで，燃焼部幅は50cmである。袖部は，床面に粘土を主体とした第5・6層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　　色　炭化粒子少量，ローム ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　ローム ブロック・焼土ブロック少量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
5　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
6　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・砂粒少量



第116図　第2号住居跡実測図

ピット　深さ12cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

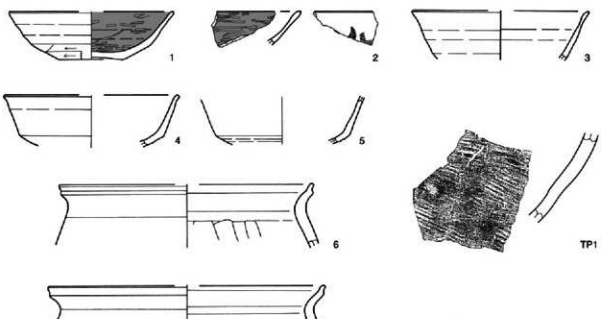
覆土　2層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第3・4層は，貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片57点（坏4，甕類53），須恵器片10点（坏7，高台付坏2，甕1）が出土している。また，流れ込んだ陶器片2点（碗）も出土している。4は西壁際の床面，1は北西コーナー部，TP 1は西壁寄りの覆土下層，2・3・5・7は覆土中，6は竈の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第117図　第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第117図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.0]	3.8	5.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラミガキ　底部回転ヘラ削り	覆土下層	30%　PL36
2	土師器	坏	－	(2.7)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面に横位の墨書　内面ヘラミガキ	覆土中	5%
3	須恵器	坏	[13.8]	(3.9)	－	石英	灰	普通	体部ロクロナデ	覆土中	5%
4	須恵器	高台付坏	[13.8]	(4.1)	－	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	床面	20%
5	須恵器	高台付坏	－	(3.8)	－	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	覆土中	5%
6	土師器	甕	[20.0]	(5.0)	－	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	橙	普通	器面調整により調整痕不明　内面ヘラナデ	竈覆土中	5%
7	土師器	甕	[21.8]	(3.8)	－	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	橙	普通	器面調整により調整痕不明　内面ヘラナデ	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	須恵器	甕	長石・石英・雲母	にぶい橙	体部横位の平行叩き	覆土下層	

第３号住居跡（第 118・119 図）

位置　調査区中央部の西寄りＨ２b4 区，標高 45.4 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.67 m，短軸 3.36 m の方形で，主軸方向はＮ－ 15°－Ｗである。壁高は 15cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。貼床は全体をほぼ平坦に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子を含む黒色土を埋土して構築している。

竈　北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 103cm で，燃焼部幅は 50cm である。袖部は，床面に粘土を主体とした第３・４層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に 44cm 掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

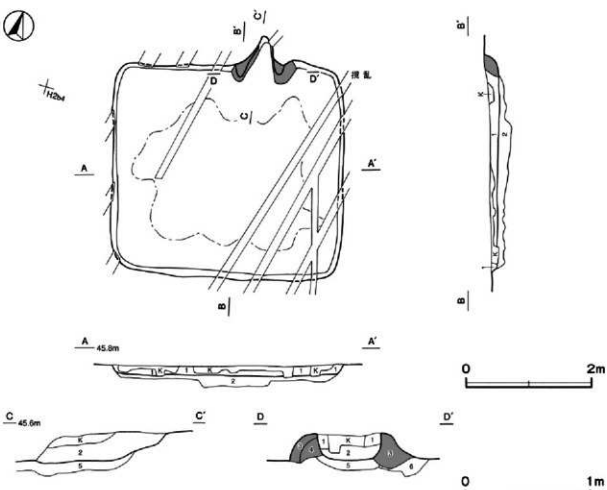
竈土層解説

1　黒　　色　炭化粒子極少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
4　褐　　色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
5　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量

覆土　単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。第２層は，貼床の構築土である。

土層解説

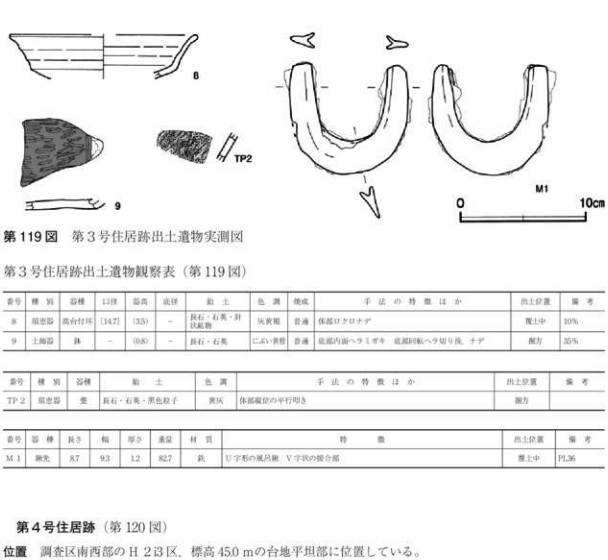
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量



第 118 図　第３号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片76点（坏5，甕類70，鉢1），須恵器片10点（坏6，高台付坏2，甕1，壺1），鉄製品1点（鏃先）が出土している。また，混入した陶器片4点（碗3，蓋1）も出土している。8は北東部の覆土中から，9とTP 2は北東部の貼床構築土からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第119図　第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	須恵器	高台付坏	[14.7]	(3.5)	－	長石・石英・針状鉱物	灰黄褐	普通	体部ロクロナデ	覆土中	10%
9	土師器	鉢	－	(9.8)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部内面ヘラミガキ　底部回転ヘラ切り後，ナデ	掘方	35%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 2	須恵器	甕	長石・石英・黒色粒子	黄灰	体部縦位の平行叩き	掘方	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鏃先	8.7	9.3	1.2	82.7	鉄	U字形の風呂鏃，V字状の接合部	覆土中	PL36

第4号住居跡（第120図）

位置　調査区南西部のＨ２i3区，標高45.0ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.36ｍ，短軸3.13ｍの方形で，主軸方向はＮ－17°－Ｗである。壁高は15cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，硬化面は確認できなかった。貼床は全体をほぼ平坦に掘り込み，炭化粒子を含む黒褐色土を埋土して構築している。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで71cmで，燃焼部幅は袖が確認できなかったため不明である。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

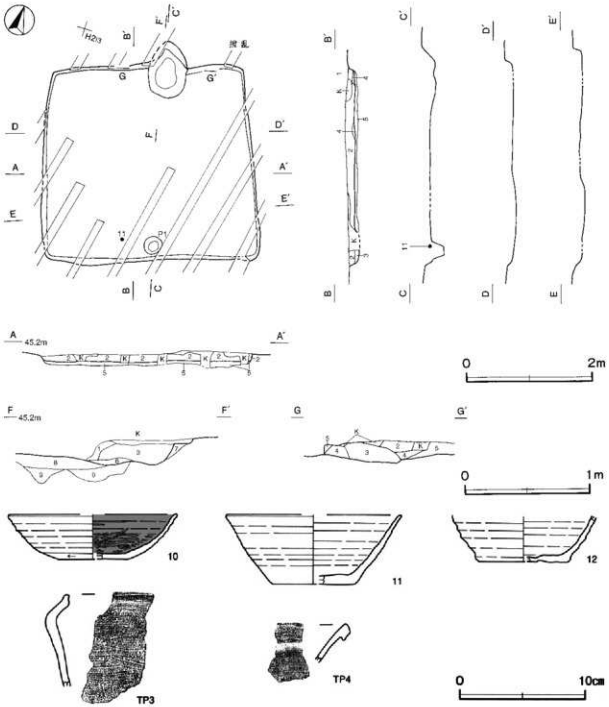
1　灰　褐　色　黒色土ブロック・焼土粒子中量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗 赤 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　黒色土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量，黒色土ブロック微量
8　黒　　色　炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量
9　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子極微量

ピット　深さ20cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層に分層できる。ロームブロックと粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。第5層は，貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
2　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・今市七本桜パミス微量
3　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・今市七本桜パミス微量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・今市七本桜パミス微量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・今市七本桜パミス微量



第120図　第4号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片71点（坏2，甕類69），須恵器片3点（坏2，甕1），鉄製品1点（不明）が出土している。また，混入した陶磁器片1点も出土している。11は南壁寄りの床面から，10，TP 3・4は南西部，12は竈の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉に比定できる。

第4号住居跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	土師器	坏	(13.2)	3.6	(5.4)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　体部内面ヘラミガキ　底部回転ヘラ切り	覆土中	50%　PL36
11	須恵器	坏	(13.8)	5.6	(6.4)	長石・石英	灰	普通	ロクロ成形　底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	30%　PL36
12	須恵器	坏	－	(3.8)	(7.0)	長石・石英	灰	普通	ロクロ成形　底部回転ヘラ切り後ナデ	竈覆土中	20%　PL36

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 3	土師器	甕	長石・石英・赤色粒子	灰褐	体部内面ハケナデ	覆土中	
TP 4	須恵器	甕	長石・黒色粒子	褐灰 灰黄褐	体部外面自然釉	覆土中	

表8　平安時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 （古→新）
1	G 2g2	－	「方形・長方形」	(227)×(130)	12	地山	－	－	－	－	－	－	不明	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀後葉	
2	H 2i3	N－12°－W	方形	3.42×3.40	20	貼床	－	－	1	－	1	－	入る	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀後葉	
3	H 2h4	N－15°－W	方形	3.67×3.36	15	貼床	－	－	－	－	1	－	不明	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀後葉	
4	H 2i3	N－17°－W	方形	3.36×3.13	15	貼床	－	－	1	－	1	－	入る	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀後葉	

2　中世の遺構と遺物

堀跡

第1号堀跡（第121・126図）

位置　調査区南東部のH 2i6区からH 2d9区にかけての標高45.0 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　北東側と南西側が調査区域外へ延びているため，長さ24.65 mしか確認できなかった。北東方向（N－33°－E）に直線状に延びている。上幅3.63～3.96 m，下幅0.22～0.47 m，深さ186cmである。断面形は箱薬研状で，壁は傾斜して立ち上がっている。

覆土　13層に分層できる。第1～10層はロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第11～13層は，ロームブロックを含んでいるが周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積と考えられる。

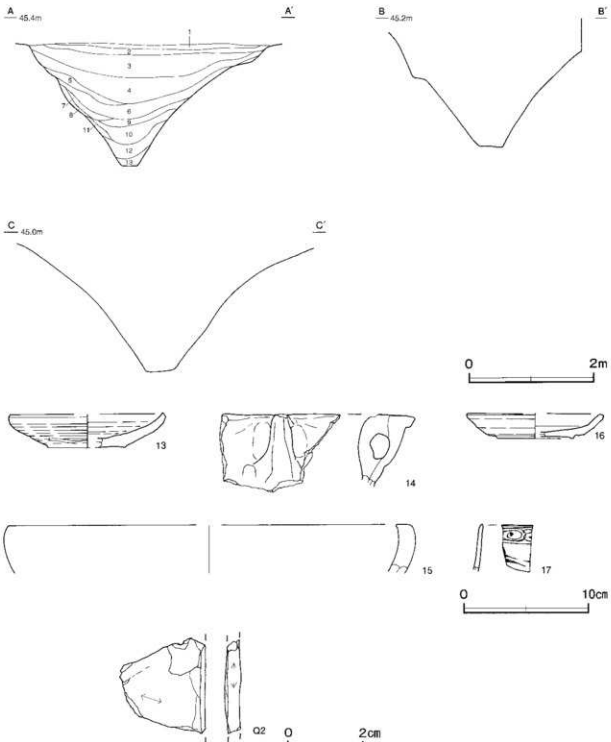
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　ロームブロック多量，炭化粒子極微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　黒　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子・白色粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子極微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，白色粒子微量，黒色土ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
10　褐　　色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック少量，黒色土ブロック・白色粒子微量
12　明　褐　色　ロームブロック多量，今市七本桜パミス少量
13　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片9点（甕），須恵器片6点（蓋1，甕5），土師質土器片3点（皿1，内耳鍋1，火鉢カ1），

瓦質土器片４点（鍋２，火鉢２），陶器片４点（皿１，擂鉢３），磁器片１点（碗），石器１点（砥石），鉄製品１点（不明），馬歯８本が出土している。内耳鍋・馬歯は，覆土中層から出土している。馬の推定年齢は２～３歳で，すべて上顎歯である。

所見　時期は，出土土器から中世に比定できる。近接して石塚城が所在していることから，石塚城の外堀にあたるものと考えられる。また，堀は掘り直しが行なわれている。



第121図　第１号堀跡・出土遺物実測図

第１号堀跡出土遺物観察表（第 121 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
13	土師質土器	皿	(12.0)	2.7	(6.0)	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	ロクロ成形　底部回転糸切り	覆土中	10% PL36
14	土師質土器	内耳鍋	－	(6.2)	－	長石・石英・赤色粒子	黒 にぶい橙	普通	外面煤付着　耳部ナデ	覆土中層	5%
15	土師質土器	火鉢ヵ	(32.0)	(3.9)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中層	
16	陶器	皿	(10.8)	2.8	(3.0)	精良　灰釉	灰白 にぶい黄橙	良好	ロクロ成形　外・内面長石釉施釉	覆土中	志野 PL36
17	磁器	碗	－	(3.7)	－	精良	灰白	良好	外面草花の染付	覆土中	

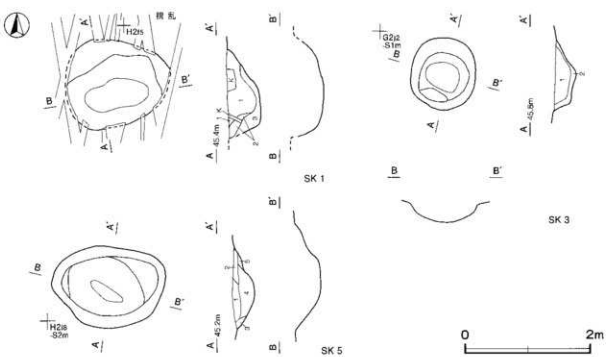
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	砥石	(2.5)	(2.3)	0.4	(3.38)	凝灰岩	砥面２面	覆土中	

番号	器種	歯冠高	歯冠幅	特徴	出土位置	備考
N 1	馬歯	7.5	2.3	上顎部の臼歯　エナメル質若干遺存　２～３歳馬	覆土中層	PL36
N 2	馬歯	7.5	2.1	上顎部の臼歯　エナメル質若干遺存　２～３歳馬	覆土中層	PL36
N 3	馬歯	4.7	1.2	上顎部の臼歯　２～３歳馬	覆土中層	PL36
N 4	馬歯	5.2	1.5	上顎部の臼歯　エナメル質若干遺存　２～３歳馬	覆土中層	PL36
N 5	馬歯	4.6	1.5	上顎部の臼歯　エナメル質若干遺存　２～３歳馬	覆土中層	PL36
N 6	馬歯	5.8	1.9	上顎部の臼歯　エナメル質若干遺存　２～３歳馬	覆土中層	PL36
N 7	馬歯	6.8	2.2	上顎部の臼歯　エナメル質若干遺存　２～３歳馬	覆土中層	PL36
N 8	馬歯	6.1	2.0	上顎部の臼歯　エナメル質若干遺存　２～３歳馬	覆土中層	PL36

3　その他の遺構と遺物

伴う遺物が出土していないため，時期と性格が明らかにできない土坑３基と溝跡２条については実測図と一覧表を掲載する。

(1) 土坑（第 122 図）



第 122 図　その他の土坑実測図

第１号土坑土層解説
1　灰　褐　色　白色粒子中量，ロームブロック・赤色粒子少量
2　褐　　色　白色粒子・赤色粒子少量，ロームブロック微量
3　褐　　色　赤色粒子少量，ロームブロック・白色粒子微量

第３号土坑土層解説
1　黒　　色　白色粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
2　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量

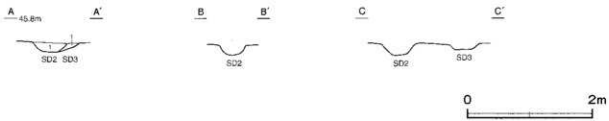
第５号土坑土層解説
1　黒　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　砂粒少量，ローム粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，砂粒少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，砂粒微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

表9　その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	H 2 f4	N－80°－E	楕円形	1.68 × 1.41	54	皿状	緩斜	人為	－	
3	G 2 j2	N－12°－E	楕円形	1.15 × 1.03	32	皿状	緩斜	人為	－	
5	H 2 i8	N－84°－W	楕円形	1.81 × 1.30	40	皿状	緩斜	人為	－	

（2）溝跡（第123・126図）

土層断面図と土層解説について掲載する。規模等については一覧表で，平面図については全体図を参照されたい。



第123図　第２・３号溝跡土層断面図

第２号溝跡土層解説
1　黒　　色　炭化粒子・砂粒少量，ロームブロック微量

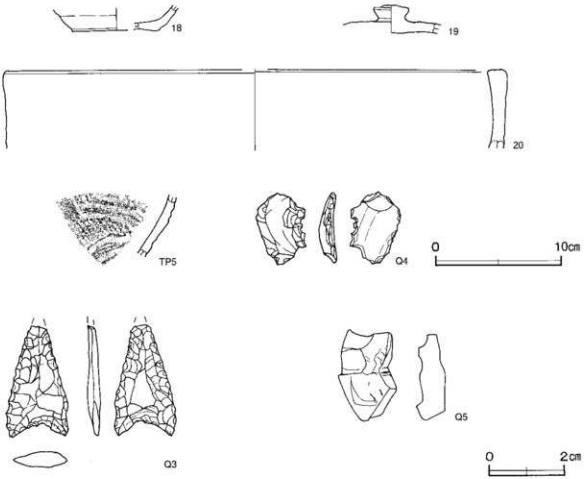
第３号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

表10　その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	底面	主な出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
				長さ（m）	上幅（cm）	下幅（cm）	深さ（cm）					
2	H 2 c8	N－68°－W	直線	(3.46)	48	29	20	U字状	人為	平坦	土師器・須恵器・瓦質土器	SD3→本跡
3	H 2 c8	N－75°－E	直線	(1.97)	43	24	10	U字状	人為	平坦	－	本跡→SD2

（3）遺構外出土遺物（第124図）

遺構に伴わない主な遺物について，特徴的なものを実測図及び観察表で掲載する。



第124図　遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第124図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	須恵器	坏	－	(1.9)	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	底部ヘラ切り	第1号土師	
19	須恵器	蓋	－	(2.2)	－	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け	第1号土師	
20	土師質土器	火鉢ヵ	[39.4]	(6.2)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	内面ナデ整形	表土	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	縄文施文　沈線	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	石鏃	(2.9)	1.6	0.4	(1.40)	チャート	両面押圧剥離	第1号土師	
Q4	剥片	5.6	3.9	1.4	24.0	チャート	未製品　片面一部押圧剥離	第1号土師	
Q5	剥片ヵ	2.4	1.5	0.8	3.3	白頁岩	一部打撃あり	表土	

第3節　ま　と　め

並松遺跡では平安時代の竪穴住居跡4軒，中世の堀跡1条，時期不明の土坑3基，溝跡2条が確認された。ここでは，住居跡の特徴や堀の性格について若干の考察を加えまとめとしたい。

1　住居跡について

確認できた住居跡は４軒とも９世紀後葉に比定できるものである。いずれも主軸方向はＮ－12～17°－Ｗに収まり，第２・３号住居跡は隣接しているが，他は点在している。

住居跡の掘り込みは全体的に浅く，柱穴は住居内では検出できなかったため，壁外を精査して確認したが確認できなかった。第４号住居跡の出入り口ピットは確認できたが，第２号住居跡のものは柱の穴よりも広く掘り拡げられており，藤前遺跡のものと同じ形態を示している。

竈はほとんど壊れており，袖部が残存しているものは第２・３号住居跡のものだけで，床面の上に砂質粘土を積み上げて構築している。藤前遺跡で見られたような袖部に焼成した粘土塊を基部として用いているものは確認できなかった。

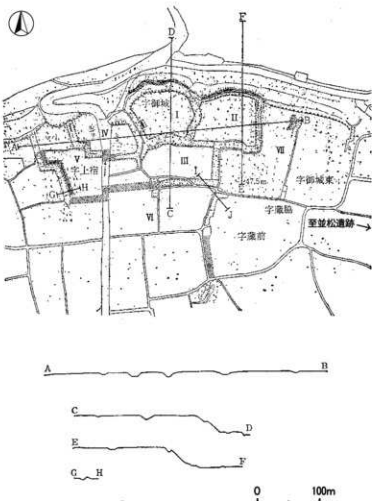
特徴や規模，時期などをみても藤前遺跡と大きな違いが認められないことや，藤前遺跡とは100mほどしか離れていないことから，同一の集落と考えられる。

2　堀跡について

今回の調査区は石塚城のⅦ郭の東側にあたり，字御城，字御城東，字蔵前といった地名が残る地域である。

調査区の南東部で確認できた第１号堀跡は，上幅が最大で3.96 m，深さ1.86 mの断面が箱薬研状を呈する堀である。この堀は現存する農道と同軸に直線状に延びており，調査区の北東方にある住宅の壁際に堀跡の可能性がある皿状の窪みが確認できた。

現存する堀跡からみると，石塚城は七つの郭で構成されている[1]。Ⅰ郭の本丸跡を中心として，Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ郭までが内郭，Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ郭が外郭施設として考えられており（第125図参照），現存する堀幅は，約10 mを測ることから今回確認できた堀の倍以上の幅のものである。確認できた堀は，調査区の上部は耕作によって攪乱されており，当時はもう少し幅のある堀跡であった可能性がある。現地の住人の話では，確認できた第１号堀跡は北東に直線的に延び，藤前遺跡の中央部を通る道路にぶつかり，Ｌ字状に道路と同方向に残っていたとのことである。



第125図　石塚城見取図（常北町史より一部加筆転用）

遺物の出土量が少ないため時期は明確にできないが，土師質土器のほか，志野焼の皿や内耳鍋が出土していることから中世の堀跡と考えられ，石塚城の外郭施設に伴う堀跡と考えられる。

以上，簡単にまとめたが，石塚城の堀跡とすれば，『常北町史』にも記載されていない新発見の資料であり，石塚城の縄張りなど城館の全様を知る一端となるであろう。

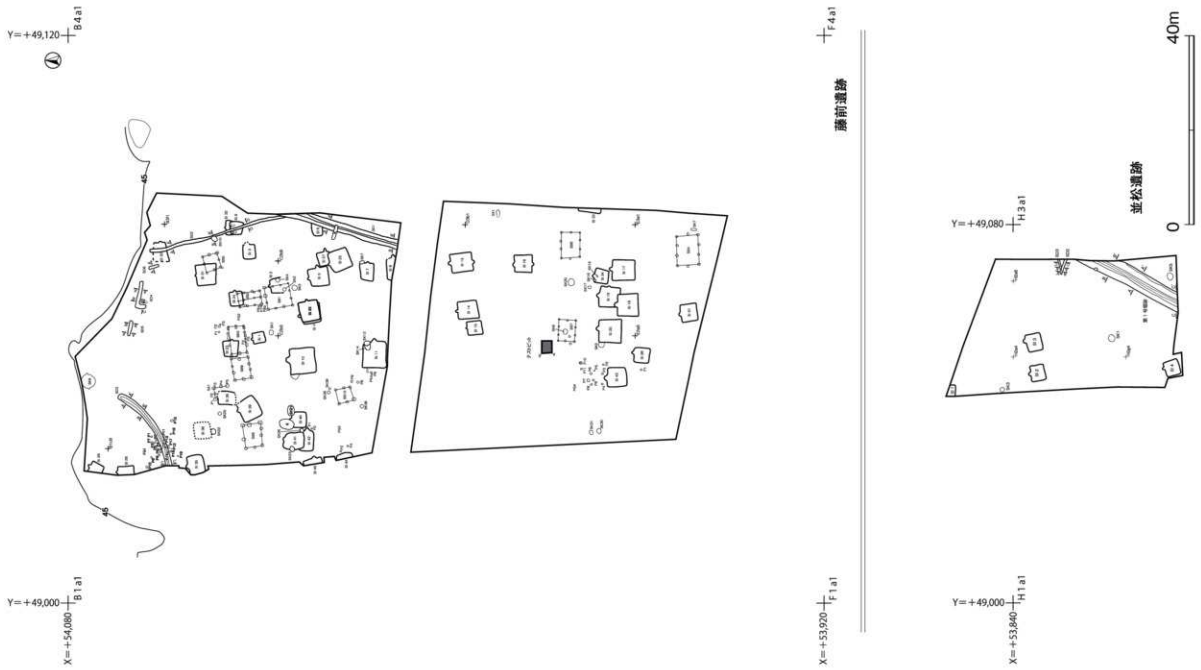
註

1）常北町史編さん委員会『常北町史』常北町　1988年3月

図引用・参考文献

・江崎良夫　黒澤秀雄「十万原新住宅市街地開発事業・都市計画道路十万原東西線街路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書　二の沢A遺跡　二の沢B遺跡（古墳群）　ニガサワ古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第169集　2000年3月

・常北町史編さん委員会『常北町史』常北町　1988年3月



第 126 図　藤前遺跡・並松遺跡遺構全体図

写　真　図　版

藤　前　遺　跡
並　松　遺　跡

藤前・並松遺跡

藤前遺跡全景（平成21・22年度空撮写真を合成）

第１号住居跡
完　掘　状　況

第２号住居跡
完　掘　状　況

第３号住居跡
完　掘　状　況

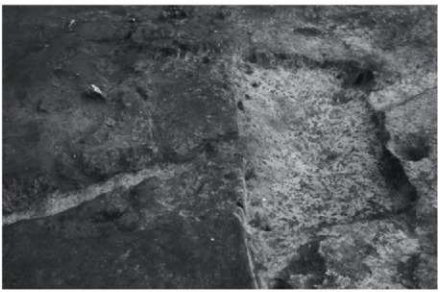
第４号住居跡
完　掘　状　況

第５号住居跡
遺物出土状況

第６号住居跡
完　掘　状　況

第７号住居跡
完　掘　状　況

第８号住居跡
完　掘　状　況



第９・32号住居跡
完　掘　状　況

第10号住居跡
完　掘　状　況

第11号住居跡
完　掘　状　況

第13号住居跡
完　掘　状　況

第14号 住 居 跡
完 掘 状 況

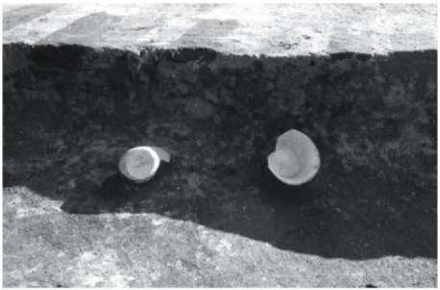
第15号 住 居 跡
完 掘 状 況

第16号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

第16号住居跡
完　掘　状　況

第17号住居跡
遺物出土状況(1)

第17号住居跡
遺物出土状況(2)



第17号 住 居 跡
遺物出土状況(3)

第17号 住 居 跡
遺物出土状況(4)

第17号 住 居 跡
遺物出土状況(5)

第17号住居跡
遺物出土状況(6)

第17号住居跡
完　掘　状　況

第18A号住居跡
ピット2遺物出土状況

第18A号住居跡
完　掘　状　況

第18B号住居跡
完　掘　状　況

第19号住居跡
完　掘　状　況

第20号住居跡
完　掘　状　況

第21号住居跡
完　掘　状　況

第23号住居跡
完　掘　状　況

第24号住居跡
完掘状況

第25・27号住居跡
完掘状況

第26号住居跡
完掘状況

第28号住居跡
遺物出土状況

第28号住居跡
掘方完掘状況

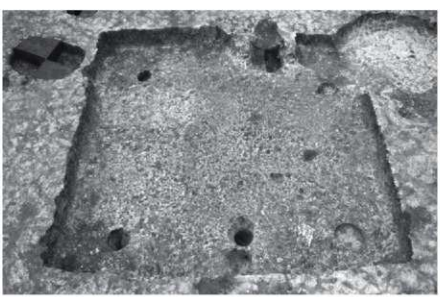
第29号住居跡
竈完掘状況

第29号住居跡
堀方完掘状況

第35号住居跡
完掘状況

第36号住居跡
完掘状況

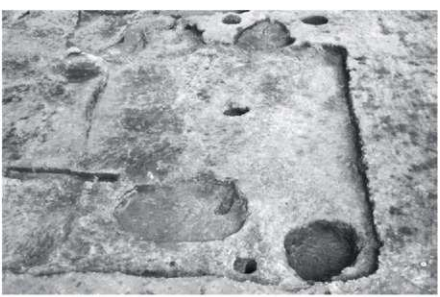
第38号住居跡
完　掘　状　況



第39号住居跡
完　掘　状　況

第40号住居跡
遺物出土状況

第41号住居跡
完掘状況



第42号住居跡
完掘状況

第43号住居跡
完掘状況

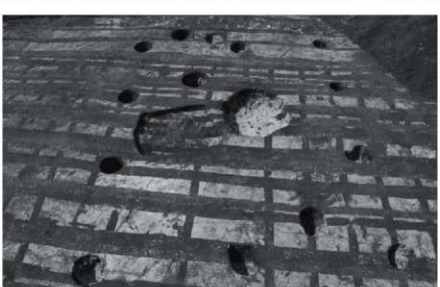
第1号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第3号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第4号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

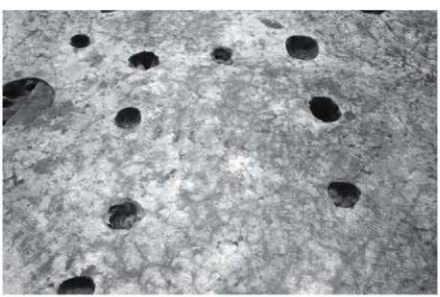
第5号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第6号掘立柱建物跡
完　掘　状　況



第7号掘立柱建物跡
第　6　号　土　坑
完　掘　状　況

第8号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

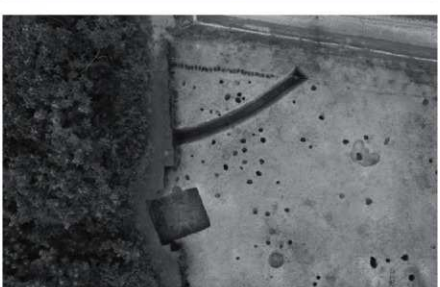


第10号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第 1 号 溝 跡
完　掘　状　況

第１号溝跡
土層断面

第３号溝跡
完掘状況



第３号溝跡
完掘状況
（上空から）

第1・2・7・8・11・14・22・42号住居跡、遺構外出土遺物

SI 18A-109

SI 19-115

SB6-188

SB9-189

SI 20-123

SI 42-170

SI 20-125

SI 5-29

SI 10-43

SI 10-44

SI 10-42

SI 13-68

SI 17-81

SI 17-82

SI 17-83

SI 17-84

SI 19-116

SI 20-124

第5・10・13・17・18A・19・20・42号住居跡，第6・9号掘立柱建物跡出土遺物

SI 29-145

SI 40-161

SI 28-142

SI 5-28

SI 18A-111

SI 20-126

SI 4-18

SI 18A-112

SK8-193

SI 20-127

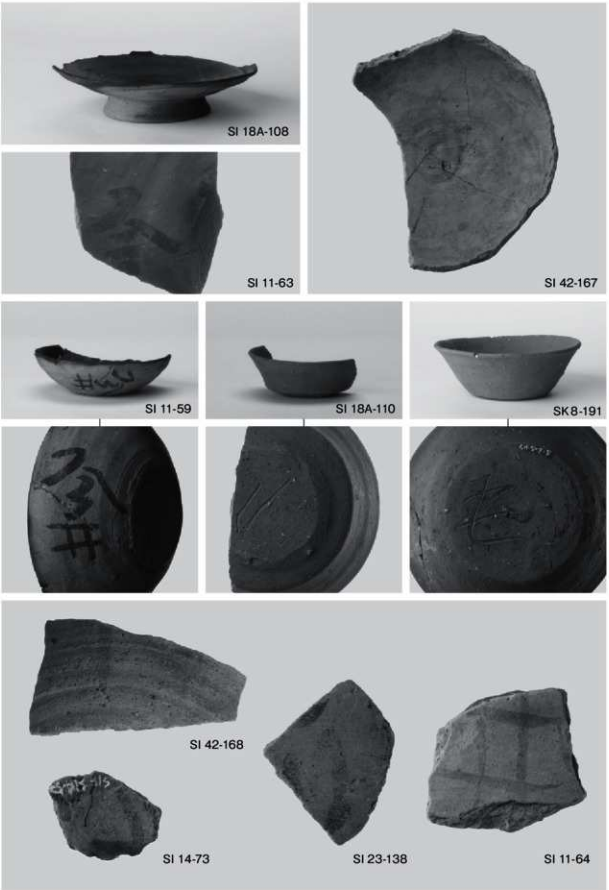
SI 17-99

SI 40-163

SI 17-88

SI 11-66

第4・5・11・17・18A・20・28・29・40号住居跡，第8号土坑出土遺物



第11・14・18A・23・42号住居跡，第8号土坑出土遺物

SI 1-3

SI 17-96

SI 4-26

SI 10-49

SI 13-70

SI 5-30

SI 18A-113

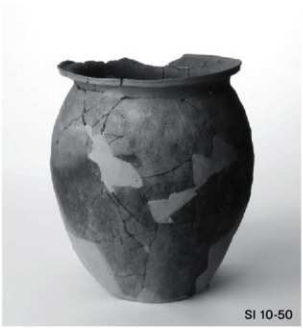
第1・4・5・10・13・17・18A号住居跡出土遺物

SI 24-140

SI 10-51

SI 19-119

SI 19-120


SI 10-50

SI 20-129

第10・19・20・24号住居跡出土遺物

SI 22-137

SI 35-154

SI 20-130

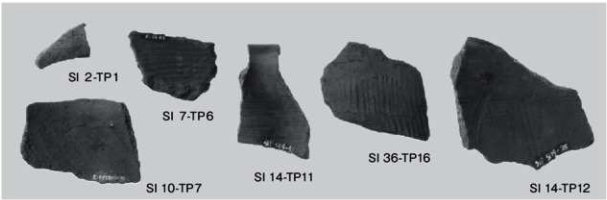
SI 28-143

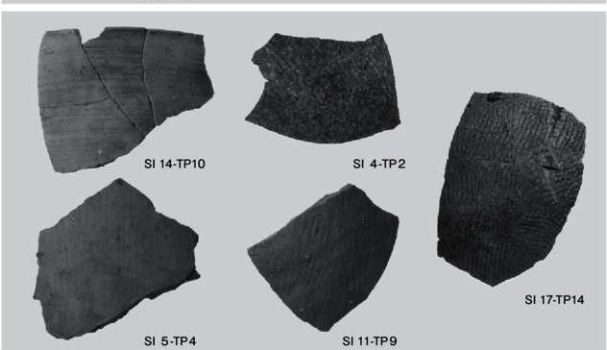
SI 45-186

SI 4-27

第4・20・22・28・35・45号住居跡出土遺物

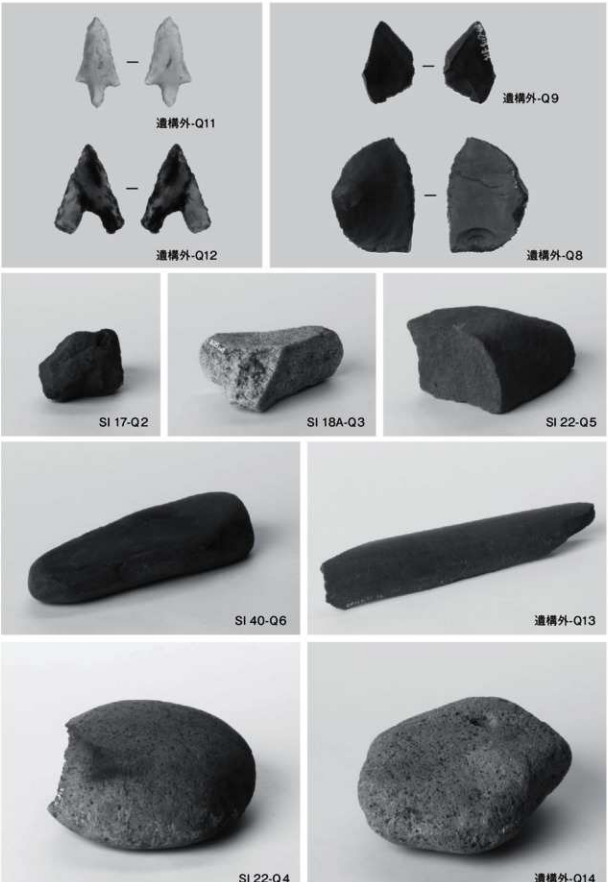
第5・10・17・28・40号住居跡，遺構外出土遺物



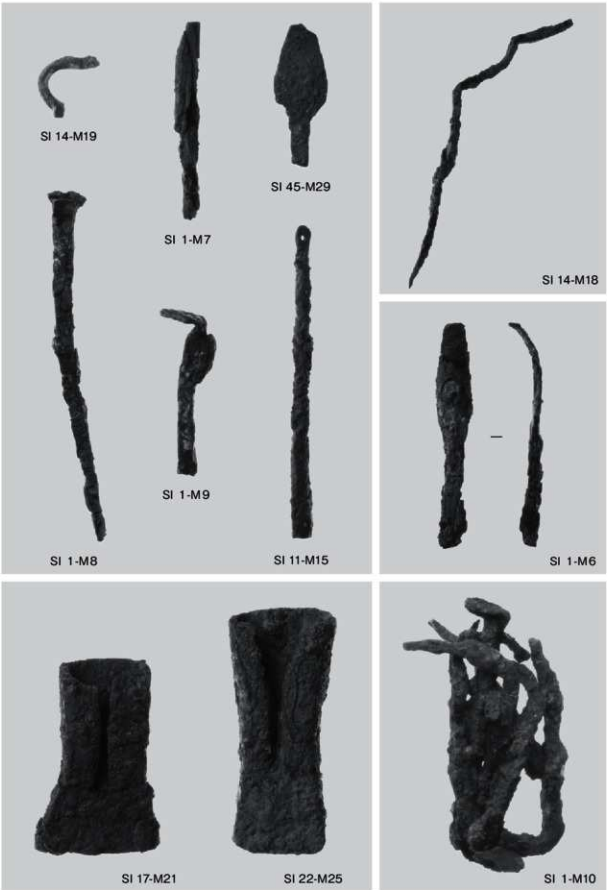


第2・4・5・6・7・10・11・14・16・17・35・36・41号住居跡出土遺物

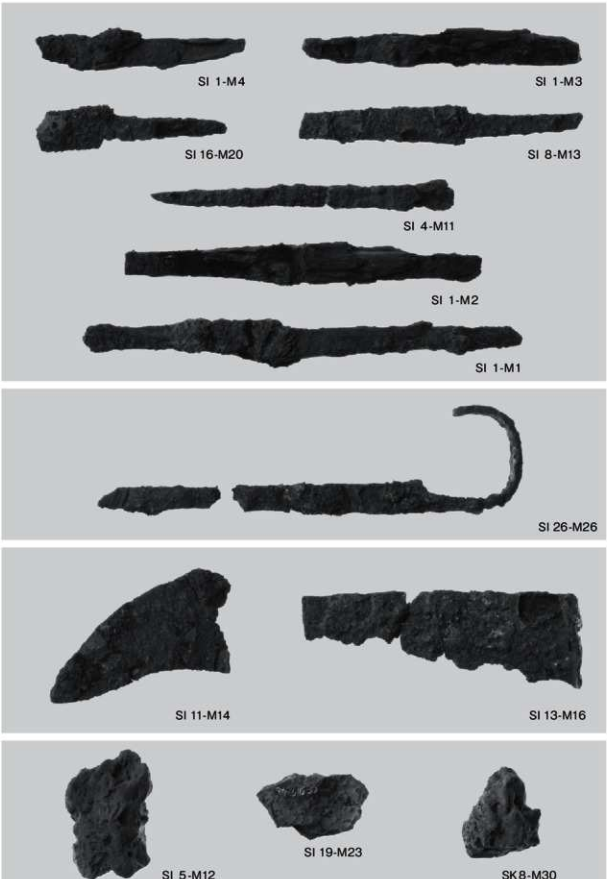
第5・6・8・9・10・22・30・35・41・42・43号住居跡，第8・23号土坑，遺構外出土遺物



第17・18A・22・40号住居跡，遺構外出土遺物



第1・11・14・17・22・45号住居跡出土遺物



第1・4・5・8・11・13・16・19・26号住居跡，第8号土坑出土遺物

並松遺跡
全景

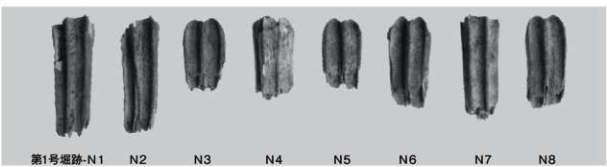
第2号住居跡
完掘状況

第3号住居跡
完掘状況

第４号住居跡
完　堀　状　況

第１号堀跡
完　掘　状　況
（上空から）

第１号堀跡
土　層　断　面



第2・3・4号住居跡，第1号堀跡出土遺物

抄　　録

ふ り が な	ふじまえいせき　　なみまついせき
書　　名	藤前遺跡　　並松遺跡
副 書 名	一般国道123号柱常北バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第343集
著 者 名	前島直人
編 集 機 関	財団法人茨城県教育財団
所 在 地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029－225－6587
発 行 日	2011（平成23）年3月23日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
ふじまえいせき 藤前遺跡	いばらきけんなかいぐんかみすいまちしもだてあざふじまえ 茨城県東茨城郡 城里町石塚 1584番地の3ほか	08306 － 057	36度 48分 55秒	140度 38分 06秒	46 m	20100104 ～ 20100331 20100701 ～ 20100831	4,636 ㎡ 2,228 ㎡	一般国道123号柱常北バイパス整備事業に伴う事前調査
なみまついせき 並松遺跡	いばらきけんなかいぐんかみすいまちしもだてあざいしづか 茨城県東茨城郡 城里町石塚 1629番地ほか	08306 － 058	36度 48分 39秒	140度 38分 05秒	46 m	20100104 ～ 20100331	1,435 ㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
藤前遺跡	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡　43軒 掘立柱建物跡　10棟 土坑　3基 不明遺構　1か所	土師器（坏・高台付坏・鉢・甕・瓶） 須恵器（坏・高台付坏・皿・蓋・盤・甕・壺・瓶） 土製品（管状土錘・羽口） 石器（砥石・紡錘車） 金属製品（刀子・斧・鎌・釘・鬥ヵ・鍵ヵ・鉋・鈴具）	須恵器・土師器のほか刀子・斧・鉋などの鉄製品が多数出土している。
	城館跡	中世	溝跡　2条	土師質土器（皿）	
	その他	時期不明	土坑　24基 溝跡　4条 横列跡　1か所 ピット群　4か所	土師器（坏・高台付坏・鉢・甕・瓶） 須恵器（坏・高台付坏・甕・壺・瓶） 土師質土器（皿）	
並松遺跡	集落跡	平安	竪穴住居跡　4軒	土師器（坏・鉢・甕・瓶） 須恵器（坏・高台付坏・甕・壺） 金属製品（鉄先・不明）	第1号堀跡は、これまで判明していなかった堀跡で、中世石塚城の外堀跡の可能性があり、中世の石塚城の縄張りを知る貴重な資料になると考えられる。
	城館跡	中世	堀跡　1条	土師質土器（皿・鍋） 瓦質土器（内耳鍋・鍋・火鉢） 陶磁器（皿・碗・擂鉢） 石器・石製品（砥石） 獣骨（馬歯）	
	その他	時期不明	土坑　3基 溝跡　2条	土師器（坏） 須恵器（壺） 瓦質土器（鍋）	

要　　約

藤前遺跡では、奈良・平安時代の住居跡43軒と掘立柱建物跡10棟、中世の石塚城に伴うものと考えられる溝跡2条を確認した。集落跡は9世紀中葉から後葉にかけて最盛期を迎え、10世紀中葉を最後に途絶えている。掘立柱建物跡は、遺跡の近くの字名に「字蔵前」・「字蔵脇」という地名が存在することから、倉庫の可能性がある。

並松遺跡では、平安時代の住居跡4軒と石塚城の外堀と考えられる堀跡を1条確認した。

両遺跡は同一台地上に隣接しており、確認されている遺構も同時期であることから同一集落と考えられる。

印 刷 仕 様

編　集	ＯＳ	Microsoft Windows XP Professional Version2002.ServicePack3
	編集	Adobe Indesign CS4
	図版作成	Adobe Illustorator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×７film　Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類　EPSON GT-X750
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　刷	印刷所へは，Adobe Indesign CS4でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第343集

藤　前　遺　跡

並　松　遺　跡

一般国道123号桂常北バイパス整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成23（2011）年　3月17日　印刷
平成23（2011）年　3月23日　発行

発行　財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http://www.ibaraki-maibun.org

印刷　(有)川田プリント
〒310－0041　水戸市上水戸４丁目６－53
TEL　029－253－5551